

## <第2部>わが国博物館における評価の実際(先進事例)

### (1) ヒアリング実施館

「博物館評価制度等の構築に関する調査研究」検討会議では、評価システム実施の実情を把握するために、先進的に取り組んでいる8館からヒアリングを行った。その要点は次のとおりである。

実施日時	平成21年1月13日(火) 10:00~17:00
会場	商工会館 6階会議室
ヒアリング先	①埼玉県立近代美術館、②山梨県立博物館、③徳島県立博物館、④齋宮歴史博物館(三重県)、⑤流山市立博物館(千葉県)、⑥目黒区美術館、⑦長崎歴史文化博物館、⑧がすてなーにガスの科学館(東京都)
ヒアリングの内容	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 館の概要</li><li>① 評価の概要 目的、流れ、評価表(評価項目・指標・評価結果)、評価者、効率的に行う工夫、公表の有無(公表した資料)</li><li>② 経費</li><li>③ 評価結果の活用(改善にどうつながるのか)</li><li>④ 利点・効果</li><li>⑤ 課題・問題点</li><li>⑥ 今後の展望</li></ul>
進め方	各館からの「ヒアリングの内容」に基づいた報告(20分間) → 委員と報告者との確認質疑(10分間) → 全体質疑・討議

## ① 埼玉県立近代美術館

出席者：副館長 檜田義之氏、担当部長 細井良正氏

### ○ 館の概要

所在地 さいたま市浦和区常盤 9 - 30 - 1

開館日 昭和 57 (1982) 年 11 月

運 営 県直営

法区分 登 録

### ① 評価の概要

目 的：運営や活動の内容を自立的に点検し、事務・事業の改善に結び付けることにより、効率的な運営と活動水準の向上を図る。評価結果を広く公開し、県民の声を生かした運営を行う。

流 れ：評価項目の策定 → 目標値等の決定 → 評価項目等の決定 → 中間評価 → 最終評価 → 結果の公開

評価表：別添による

評価者：美術館および美術館協議会

効率的に行う工夫：他の県立博物館と博物館評価に関する調整推進会議、ワーキンググループによる評価項目などについての協議を行っている。昨年には、野村総合研究所との協議を実施。

### ② 経 費

予算は計上していない。美術館協議会の委員報酬などを使用。

### ③ 評価結果の活用

来館する学校数が減少傾向にあるため、市町村の教育長会議に出向いて子ども向け事業の説明を行うなど、評価結果を運営に活かすように努めている。

### ④ 利点・効果

- ・職員各自が目標を明確に持ち、それを共有することにより、組織としての力が効率的に発揮できるようにする。
- ・現状をきちんと認識することにより、課題解決に向けた取り組みの内容と優先順位を把握できる。
- ・評価結果や年間の活動内容をまとめて公開することにより、県民の意見を取り入れながら開かれた運営が行える。

### ⑤ 課題・問題点

- ・ミッションと評価項目の関連が不明確なところがある。
- ・評価項目（個別目標）相互の優先順位が付けられていない。

## ⑥ 今後の展望

- ・評価項目、目標値、評価基準の設定が適正であるかの検討などが課題となる。
- ・他の先進的な取り組みを参考にして改善を図る。

### 確認質疑

(1)平成16年度のミッションステートメント、同17年度の評価の実施について、参考になったものはあるか。

→ 他県（静岡県立美術館など）や県の企画部門から情報を得た。

(2)評価の実施に否定的な意見はあったか。

→ すでに3年目で導入へ流れができていたのと、県内の他館と一緒にあったため、否定的な意見はなかった。評価の実施について、こうやった方が良いという積極的な意見はある。

(3)静岡県立美術館では数値化はしなかったが、ここではそれがされている。満足度が非常に高いが、その理由を分析しているか。

→ 満足度は入館者へのアンケートを基にしたものである。具体的な意見も書いてもらっており、それを回覧して職員に周知させ運営に活かすようにしている。不満足とされた点に注視して改善を図っている。例えば、美術館の効率的経営のことは話題に上りやすい。こうしたことにより、経費削減について積極的に考えるようになった。

(4)評価実施への設置者側の捉え方はどうか。

→ 評価結果については教育長に報告している。県も前向きに捉えてくれている。

(5)アンケートはどのような方法で行っているのか。

→ 来館者にはアンケートの場所を設けて協力してもらっている。学校団体利用の場合は、全員に配って回収している。

(6)アンケートで氏名が書かれているものには返事をしているのか。

→ メールアドレスなどが書かれている場合は回答している。また、主だった意見は館内に掲示している。

(7)評価は定量的な内容であるが、定性的なものはないのか。

→ 定量的な評価のみとしている。美術館協議会からは「外部からの意見も入れて」との意見もある。

# 平成19年度博物館施設評価シート

<b>施設名</b>	埼玉県立近代美術館	<b>評価基準</b>	
<b>資料の収集・保管</b>	美術作品の収集や、県民の貴重な財産である美術作品の適切な保存に努めます。	十分	2点
		達成	1点
		やや不十分	-1点
		不十分	-2点

視点	項目	指標	目標値	評価の配分		評価	特記事項
			達成値	達成度	範囲		
資料の充実・有効活用	館有資料の拡充状況	1 館有資料の充実	14点	十分	16点～	2	寄贈により取得した作品点数
			57点	達成	14点～15点		
	館主催事業等での利用状況	2 館内での活用	334点	やや不十分	13点	2	常設展示での収蔵作品公開点数
			387点	不十分	～12点		
		3 館外での活用	点	十分		未設定	
				達成			
	外部からの要請等による利用状況	4 写真原板等利用状況	104点	やや不十分	368点	-2	写真資料、映像資料等の利用許可件数
			33点	不十分	34点～367点		
		5 館蔵資料の貸出	77件	やや不十分	301点～333点	2	他の美術館等への収蔵作品貸出件数
			149件	不十分	～300点		
		6 データベースの利用状況	件	十分		未設定	
				達成			
サービスの水準	7 常設展示	総合的な満足度(「満足」の割合)	75%	十分	115点～	2	常設展アンケートの実施結果
			92%	達成	104点～114点		
	8 企画展示	総合的な満足度(「満足」の割合)	80%	やや不十分	94点～103点	2	企画展アンケートの実施結果
			93%	不十分	～93点		
	9 生涯学習支援	普及事業の総合的な満足度(「満足」の割合)	85%	十分	85点～	2	教育普及事業アンケートの実施結果
			95%	達成	77点～84点		
利用状況	10 入館者	年間の総入館者数	252,633人	やや不十分	70点～76点	2	
			293,595人	不十分	～69点		
	11 企画展示	企画展示の総観覧者数	63,236人	十分		2	
			101,209人	達成			
	12 生涯学習支援	普及事業への参加率	%	やや不十分		未設定	
				不十分			
13 レファレンス	件	件	十分		未設定		
			達成				

視点	項目	指標	目標値	評価の配分		評価	特記事項	
			達成値	達成度	範囲			
広報	ホームページ	14 インターネットでの情報利用	162,295 件	十分	178,524件～	2		
			187,752 件	達成	162,295件～178,523件			
				やや不十分	146,066件～162,294件			
学校支援	15 学校利用受入	15 学校教育活動における利用数	80 校	十分	88校～	-2	学校単位での利用数	
			70 校	達成	80校～87校			
				やや不十分	72校～79校			
	16 児童生徒利用	16 児童生徒の参加者数(学校週5日制対応事業を含む)	7,375 人	十分	8,113人～	-2	アートの森事業等の参加者数	
			6,049 人	達成	7,375人～8,112人			
				やや不十分	6,638人～7,374人			
	17 職員の派遣	17 ゲストティーチャーとしての派遣数	25 件	十分	28件～	2	学校への職員派遣件数	
			32 件	達成	25件～27件			
				やや不十分	23件～24件			
	18 資料貸出	18 教育普及資料等貸出数	9 件	十分	10件～	2	学校への資料貸出件数	
			34 件	達成	9件			
				やや不十分	～8件			
市町村支援	19 職員派遣	19 市町村(博物館施設及び他の行政機関)への職員派遣	9 件	十分	10件～	2	市町村への職員派遣件数	
			15 件	達成	9件			
				やや不十分	～8件			
連携・交流	20 市町村連携	20 連携事業等の取り組み	1 件	十分	2件～	1	市町村施設との連携事業件数	
			1 件	達成	1件			
				やや不十分	なし			
	21 学校連携	21 連携事業等の取り組み	97 件	十分	107件～	1	学校と連携した事業実施件数	
			102 件	達成	97件～106件			
				やや不十分	88件～96件			
	22 ボランティア	22 ボランティアの活動	441 人	十分	486人～	2	展示解説ボランティア等の活用延べ人数	
			621 人	達成	441人～485人			
				やや不十分	397人～440人			
	23 その他	23 連携事業等の取り組み(市町村・学校を除く)	108 件	十分	119件～	-1	地域団体等との連携事業件数	
			106 件	達成	108件～118件			
				やや不十分	97件～107件			
調査研究	24 研究成果の公開(発表会・印刷物等)	24 研究成果の公開状況	4 件	十分	4.4件以上	2	研究成果の発表、論文執筆等の件数	
			6.4 件	達成	4.0件以上4.4件未満			
				やや不十分	3.6件以上4.0件未満			
その他	25 施設の活用	25 開放施設の活用度	85 %	十分	93.5%以上	2	貸出施設の利用可能日数に対する利用率	
			97.5 %	達成	85%以上93.5%未満			
				やや不十分	76.5%以上85%未満			
	26 効率的経営	26 博物館の自立度	27.27 %	十分	30%以上	2	美術館の支出総額に占める自主財源の割合	
			42.6 %	達成	27.27%以上30%未満			
				やや不十分	24.55%以上27.27%未満			
各館別評価			円	十分				
				達成				
				やや不十分				
				人	十分			
					達成			
					やや不十分			
総合評価				合計評価点		達成度(合計評価点÷測定値設定数)		
				27 点		122 %		

評価	平成19年度は、開館25周年記念展や寄贈作品の先行公開により入館者数が大幅な増加となった。また、関連の数値目標を高いレベルでクリアすることができた。
課題	① 学校支援において、学校単位での利用が低迷している。 ② 市町村や他館との連携事業を強化する必要がある。
対応の方向	① 市町村教育委員会や資料の貸出した学校などに働きかけ、学校単位の利用促進を図りたい。 ② 公・民の境を超えた幅広い連携を模索することにより、更に効率的で効果的な事業展開をしたい。

### 基礎データ

職員数 (うち学芸員数)	22人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	239,179千円	職員1人あたりの 県民人口	32.2万人
収蔵資料点数	2,777点	事業経費 (上記の内数)	203,983千円	利用者1人あたりの コスト(平成18年度)	850.5円
平成18年度 収蔵資料点数	19点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	108,048千円 ( 46,130千円)	県民人口に対する 利用者の割合 (平成18年度)	3.74%

(注) 平成19年4月1日現在の埼玉県推計人口は7,085,220人である。

# 平成20年度博物館施設評価シート（案）

<b>施設名</b>	埼玉県立近代美術館	<b>評価基準</b>		
資料の収集・保管	美術作品の収集や、県民の貴重な財産である美術作品の適切な保存に努めます。	十分	目標値+10%以上	5点
		達成	目標値+5%以上	4点
		ほぼ達成	目標値±5%未満	3点
		やや不十分	目標値-5%以下	2点
		不十分	目標値-10%以下	1点

視点	項目	指標	目標値	評価	特記事項
			達成値		
資料の充実・有効活用	館有資料の拡充状況	1 館有資料の充実	14点		5年間平均
			点		
	館主催事業等での利用状況	2 資料の活用	334点		
			点		
	外部からの要請等による利用状況	3 館蔵資料貸出	80件		5年間平均
件					
4 写真原板利用		77点			
	点				
5 データベースの利用状況		件			
		件			
サービスの水準	常設展示	6 総合的な満足度（「満足」の割合）	75%		全館共通
			%		
	企画展示	7 総合的な満足度（「満足」の割合）	80%		全館共通
%					
生涯学習支援	8 普及事業の総合的な満足度（「満足」の割合）	85%		全館共通	
		%			
利用状況	入館者	9 年間の総入館者数	260,925人		5年間平均
			人		
	企画展示	10 企画展示の総観覧者数	63,236人		5年間平均
			人		
生涯学習支援	11 普及事業への参加率	%			
		%			
12 レファレンス		件			
		件			
広報	ホームページ	13 インターネットでの情報利用	161,772件		4年間平均
			件		

学校支援	学校利用受入	14	学校教育活動における利用数	71 校	4 年間平均
				校	
	児童生徒利用	15	児童生徒の参加者数(学校週5日制対応事業を含む)	6,491 人	5 年間平均
学校連携	16	学校への ・職員派遣 ・資料貸出 ・連携事業	136 件	5 年間平均	
			件		
ボランティア	ボランティア	17	ボランティアの活動	481 人	5 年間平均
				人	
調査研究	研究成果の公開(発表会・印刷物等)	18	研究成果の公開状況	4 件	5 年間平均
				件	
その他	施設の活用	19	開放施設の活用度	85 %	
				%	
効率的経営	20	博物館の自立度(観覧料および事業等収入)	72,400,000 円	20 年度予算計上額	
			円		
各館別項目	市町村連携	21	市町村との職員派遣・連携事業	10 件	5 年間平均
				件	
	22		件		
			件		
23		件			
		件			
24					
総合評価				合計評価点	達成度(合計評価点÷測定値設定数)
				点	点



評価	
課題	
対応の方向	

### 基礎データ

職員数 (学芸員数)	22人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	217,984千円	職員1人あたりの県民人口	32.3万人
収蔵資料点数	2,834点	事業経費 (上記の内数)	183,511千円	利用者1人あたりのコスト (平成19年度)	814.6円
平成19年度 収蔵資料点数	57点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	72,400千円 (33,140千円)	利用者1人あたりのコスト (平成19年度)	4.13%

(注) 平成20年4月1日現在の埼玉県推計人口は 7,116,183人である。

## ② 山梨県立博物館

出席者：学芸員 高橋 修氏

### ○ 館の概要

所在地 笛吹市御坂町成田 1501 - 1

開館日 平成 17 (2005) 年 10 月

運 営 県直営

法区分 登 録

### ① 評価の概要

特 色：みんなでつくる博物館協議会（みんつく）の設立：県民参画型の評価制度の構築。

目 的：博物館活動の総体を評価、県民参画型および第三者を交えた客観性を保った評価、運営の実情にあわせた成長する評価、使命実現の達成度を計るための評価。

使 命：〈山梨県の個性から導き出された使命〉

- ・「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶこと」を目指す。
- ・「交流」のセンターを目指す。
- ・使命実現のための活動分野

運営（ミュージアムマネジメント）とミュージアムサービス、調査研究、資料の収集・保管と活用、展示、企画交流、施設の整備と管理、情報の発信と公開、市民参画、組織と人員、外部支援

流 れ：複数の評価方式を導入し、長所と短所を補って総合評価を行う。

A（数値評価） 開館 5 周年の時点での目標を数値化し達成を目指す（目標値は別紙）。

B（自己診断） 数値化が難しい評価項目について、年度ごとの成果を記述する。

C（通信簿ツアー） 利用者が主体的に評価項目を作成し、改善までを行う。＝ 当館を特色づける利用者参加型の方式。

D（総合評価） 開館 5 周年の時点で A～C の各年度の成果を集約し、運営委員会において達成点と課題点をまとめて報告書にまとめる。

\*運営委員会：第三者から構成され、県民の代表として「みんつく」委員長、学術的立場から資料情報委員会委員長が加わる。博物館の活動について、総合的かつ客観的に評価し、より良い運営の方向性を提言することができる。

評価表：別添による

評価者：運営委員会

効率的に行う工夫：

公表の有無：A～C は年度ごとの実績をまとめて年報に載せる。ホームページでも公開する。

D は数値評価が判明する開館 5 周年目（平成 22 年度）までの実績を、平成 23 年度の運営

委員会で総合的に評価して報告書にまとめる。

② 経 費

- ・「年報」 印刷製本費
- ・通信簿ツアー 委託費

③ 評価結果の活用・④ 利点・効果〈通信簿ツアーを中心に〉

- ・「強み」と「弱み」の明確化、それによる運営課題と改善の方向性の明確化。  
博物館サービス全体についての潜在的魅力（強み）の確認と不十分な認知度（弱み）の明確化 → キーワード＝利用者との「距離感」。  
「博物館の魅力」＝「ミュージアムサービス」の明確化。  
サービスの基本に立脚した「サプライズ（驚き）」の明確化。
- ・他館との違いを如何に出せるかが大きな課題。

⑤ 課題・問題点〈通信簿ツアーを中心に〉

- ・どこまで利用者の声を反映させるべきか。  
制度（PDCA サイクル）的フローチャート、基準、公開の方法など。
- ・好印象回答の増加と反比例する利用者数の減少の現実はどう対処するか。  
「好印象回答の増加＝満足度の増加？ ≠利用者数の増加」
- ・回答内容は玉石混交であり、その取捨選択能力・分析力が問われている。

⑥ 今後の展望（評価の理想像とその捉え方）

- ・『生協の白石さん』型の評価の実現 ← 「通信簿ツアー」の未来型  
これまでの考え方：「改善」の「実現」＝利用者の満足  
これからの考え方：「改善」の「実現」≠利用者の満足
- ・「改善」の「実現」という呪縛からの脱却  
評価の実施 → その公開自体が魅力 → 客観的満足度の向上  
＝真の意味での「対話と連携の博物館」の実現  
＝博物館応援団の形成  
＝博物館の使命の実現
- ・評価方法の練磨が新しい博物館運営を切り開く

⑦ その他

- ・開館から3年目となり、運営の転換点を迎えている。
- ・県民の厳しい声が在る中で生まれたので、開館前から「みんなつくる博物館協議会」を立ち上げて、県民の立場から運営に意見を出してもらっている。そこでも「評価」は大きな議論となった。
- ・博物館利用者による「通信簿」の内容が良くなっても、入館者増加にはつながらない。ま

た、開館時間を延長しても同様である。何か「+α」の魅力が必要である。

・評価の実施は、直接的には入館者の増加にはつながっていない。

#### **確認質疑**

(1) 館側が実施する A（数値評価）・B（自己診断）と、利用者による C（通信簿）の併用が興味深い。両者の間で食い違いが出た場合どのように対処しているのか。

→ C の意見を重視すれば数値（入館者数など）の向上につながると思ったが、必ずしもそうとはなっていない。今後の課題である。

(2) 館に A と B を統括する部署はあるか。

→ 制度としては無いが、週に 1 回係長以上の会議を開いておりそこで話し合う。また、年に 3 回程度「みんつく」の会議が開かれるので、そこで報告して最終決定をしている。

(3) C に参加するのは、博物館に関心のある方やよく来館する方であろう。そうでない方のデータはどう把握しているのか。

→ 今まで博物館に来ていない方に足を向けてもらうことが課題となっている。より積極的な広報活動の展開によって解決する部分もあると考えている。また、館の使命を知ってもらうことも課題である。

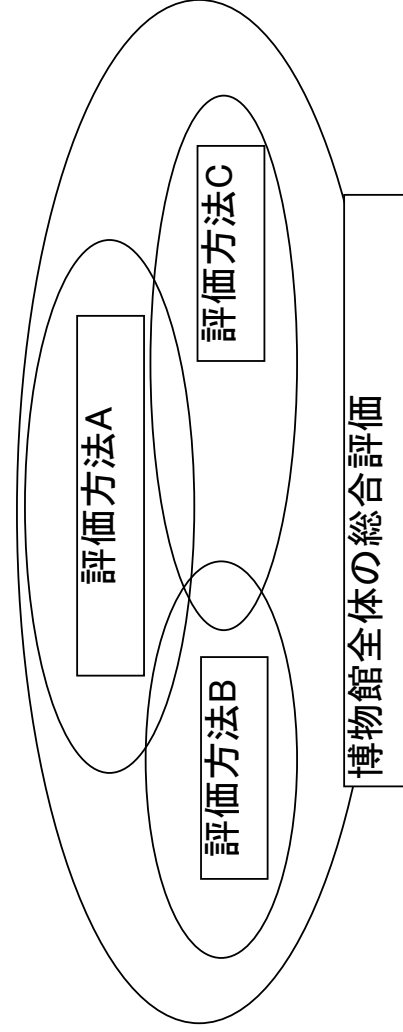
(4) 何が改善され、何が改善されていないか。

→ 館員全体の意識改革がまだ足りない。

評価の体系図

別紙 1

評価方法	評価主体	評価対象	目標到達度を測る基準	評価の客観性	改善の方向
A 数値評価	博物館	数値化可能な項目	目標数値に対する実際の達成度	数値そのものが客観的指標	目標数値
B 自己診断		数値化にできない項目	目標達成に向けて何をを行ったか一覧化	博物館による自己点検。運営委員会からの意見がある場合にはそれを記載	運営委員会の意見を踏まえた改善策の実施
C 通信簿ツア－	利用者		利用者から見た評価点と改善点の一覧化	利用者の立場からの客観評価	利用者自身によって改善
博物館の総合評価	運営委員会	A～Cの結果に基づき、総合的に評価		県民の立場から、また学術的立場から運営委員会において客観的に評価	運営委員会の意見を踏まえた改善策の実施



※ 評価項目によっては、目標達成のために、複数の評価方法によって検討した方がより効果的な項目もある。

# 山梨県立博物館の使命・目指すところ・評価項目の対応表について

別紙 2

※ 上段が使命達成に向けての目標、下段が目標の達成度を測るための評価項目

※ 目標数値は全て延べ数

	使命1	使命2
博物館の活動分野	使命1に対応した活動目標	使命2に対応した活動目標
	活動目標に対応した評価項目	活動目標に対応した評価項目

山梨県立博物館の使命	使命1：山梨県立博物館は「山梨の自然と人との関わり の歴史を学ぶこと」を目指します。	使命2：山梨県立博物館は「交流」のセンターを目指 します。
(1) 運営（ミュージ アムマネジメ ント）及びミ ュージアムサ ービスにつ いて	<ul style="list-style-type: none"> <li>山梨県立博物館が整備されて良かったと思ひ、思われる博物館づくりを目指して、当館が提供するあらゆるサービスの利用者数の増加に努めます。具体的には開館5周年目で<b>107万人</b>の総利用者数を目指します。</li> <li>山梨県立博物館どのような使命を持って整備されたのかを分かりやすく明示し、職員・利用者ともに共通の理解を得られるように努めます。</li> <li>博物館の使命がどの程度達成できたのかを館内外に明らかにするために、利用者の視点に立った活動目標を設定し、その実現に向けて最善の努力をします。</li> <li>博物館が提供するあらゆるサービスについて多くの利用者に御満足いただけるよう、絶えず改善し続ける博物館づくりに館に携わる全ての人々が一丸となって努めます。そのために、常に博物館全体の活動について自己点検を行い、また利用者の側からの評価の声を受け入れ、その結果を公開します。</li> <li>かいじあむ検定を実施し、県立博物館及び山梨県への興味・関心が深められるように努めます。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>総利用者数（評価方法A）</li> <li>館員及び利用者を対象として、博物館使命がどの程度認知されているのかの調査（評価方法C）</li> <li>利用者の視点に立った目標を設定しているか？（評価方法B）</li> <li>目標の達成状況については、自己及び他者評価を行い、その結果を公開しているか？（評価方法B・C）</li> <li>かいじあむ検定参加者数及び合格者数（評価方法A）</li> </ul>	
(2) 調査・研究につ いて	<ul style="list-style-type: none"> <li>学術機関としての博物館という魅力を高めるために、「山梨の自然と人との関わり の歴史」をテーマとした調査・研究を精力的に実施し続けます。その実現に向けて県内外の人々との共同調査・研究の積極的実施にも努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査・研究の最新成果を展示や諸講座等の機会をと おして積極的に公開し、利用者の知的好奇心を満足でき るように努めます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館職員及び共同研究者が行った調査・研究項目に ついて一覧表化がなされているか？（方法B）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究紀要や調査報告書類の作成・発行を行っている か？（評価方法B）</li> <li>館主催諸講座の開催数（評価方法A）</li> <li>館職員の館外担当講座数（出前授業も含む）（評価 方法A）</li> </ul>
(3) 資料の収集、保 存及び活用につ いて	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料保存機関としての博物館という魅力を高めるた めに、「山梨の自然と人との関わり の歴史」を明らかに する上で必要な資料の収集・保存・活用 に努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集及び保管・調査資料の利用体制の充実化をはかり ます。これら資料の目録化（データベース化）を進 め、館内外の人々にとって共に積極的な活用が可能とな るように努めます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の収集点数（評価方法A）</li> <li>年間の展示資料点数（どれだけ展示替えを行って いるのか？）（評価方法A）</li> <li>個々の資料について適切に資料保存・修復措置を 行っているか？（評価方法B）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全収集点数の内、目録化（データベース化）がな された資料点数の割合（評価方法A）</li> <li>資料の総利用件数（一次資料やマイクロフィルムな ど二次資料も含んだ閲覧件数、館外資料貸出件数など） （評価方法A）</li> </ul>
(4) 展示について	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示をとおして魅力あふれる「山梨の自然と人との関 わり の歴史」像を積極的に多くの人々に向けて発信し続 けます。具体的目標としては、開館5周年目で<b>60万人</b> の利用者数を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育の現場との連携を深め、子ども達が楽しみな がら山梨の歴史や文化を学ぶことのできる展示を作り続 けます。具体的には開館5周年目で<b>46000人</b>の学校 利用者数を目指します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展示の利用者数（評価方法A）</li> <li>常設展示の印象に関わるアンケート調査（評価方法 CまたはB）</li> <li>企画展利用者数（評価方法A）</li> <li>企画内容や展示手法の満足度に関するアンケート調 査（評価方法CまたはB）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校現場の観覧者数（評価方法A）</li> </ul>

山梨県立博物館の使命	使命1：山梨県立博物館は「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶこと」を目指します。	使命2：山梨県立博物館は「交流」のセンターを目指します。
(5) 企画交流活動について	・ 県内外に対し、「山梨の自然と人との関わりの歴史」像の浸透に資する効果的な企画交流活動の立案・実行に努めます。	・ 学校教育の現場と密接に交流し、博学連携の強化に努めます。 ・ 県内各地の文化施設・史跡・自然と密接に連携し、多くの利用者を県内各地へと誘導する企画交流活動の立案・実行に努めます。具体的には開館5周年目で <b>6700人</b> の人々を県内各地に誘導することを目指します
	・ 年間における企画交流活動数及びその参加者数（評価方法A）	・ 博学連携に関わる取り組み（評価方法B） ・ 各種連携事業の実施件数及び参加者数（評価方法A） ・ 各種連携事業を実施するにあたりどのような工夫を行っているか？（例えば、ハブ博物館ネットワーク会議での議事結果など）（評価方法B） ・ 地域インデックスの活用策を企画・実行したか？（評価方法B）
(6) 施設の整備・管理について	・ 山梨の歴史や文化について、人々が快適に学ぶ環境を整えるために、人にとっても安全かつ快適な施設・整備の管理に努めます。 ・ 魅力あふれる「山梨の自然と人との関わりの歴史」を知ることが出来る貴重な資料を永く後世に伝えていくために、資料にとって安全かつ快適な施設・設備の管理に努めます。	・ 利用者への施設開放（例えば生涯学習室の貸し出しなど）を積極的に行うことで、県民に親しまれる博物館づくりを推進し、開館5周年目で <b>80500人</b> の利用者数を目指します。
	・ 地震・火災等の緊急事態に対して、職員の研修をはじめとした対応を行っているのか？（評価方法B） ・ 緊急の傷病者への対応に関して、職員の研修をはじめとした対応を行っているのか？（評価方法B） ・ バリアフリー対策を行っているのか？（評価方法B） ・ 資料保存について措置を講じているか？（評価方法B）	・ 利用者に対する施設開放件数及び利用者数（例えば、生涯学習室の貸し出しなど）（評価方法A）
(7) 情報の発信と公開について	・ 利用者が「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶ」ことについて支援することに努め、レファランスタとあし5年間で7千人が知的好奇心を満足できるように努めます。	・ 山梨県立博物館の活動全般について、県内外の人々に対して積極的にPR活動をするように努め、例えばHPをとあした場合は <b>34万件</b> のアクセス数を目指します。
	・ レファランス対応件数（評価方法A）	・ どのような情報をどのような媒体で情報発信しているのか一覧表化がなされているか？（評価方法B） ・ HPアクセス数（評価方法A）
(8) 市民参画について	・ NPOやボランティアなどとの協力を得た事業活動の実施し、共同事業では開館5周年目で <b>3400人</b> と交流できるように努めます。	・ 利用者の視点から博物館の評価を行い、その成果を博物館の運営改善に向けて反映するよう努めます
	・ NPOや協力会（ボランティア）との協働事業開催件数及び参加者数（評価方法A） ・ 協力会（ボランティア）の登録者数（評価方法A） ・ 協力会（ボランティア）ではどのような活動を実施したのか一覧表化がなされているか？（評価方法B）	利用者による博物館評価を実施し、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法BまたはC）
(9) 組織・人員について	・ 職員各自の資質向上ができる環境整備に努めます。	・ 第三者機関の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映するよう努めます。
	・ 職員各自の資質向上に関わる研修を実施したか？（評価方法B）	・ 第三者機関（運営会議、みんつく、資料情報委員会など）の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法B）
(10) 外部支援について	・ 継続的に質の高い博物館活動に資するよう、外部支援体制の導入に努めます。 ・ 館の運営のために外部支援体制の導入に努めたか？（評価方法B）	

### ③ 徳島県立博物館

出席者：専門学芸員 長谷川賢二氏

#### ○ 館の概要

所在地 徳島市八万町向寺山

開館日 平成2（1990）年11月

運営 県直営

法区分 登録

#### ① 評価の概要

目的：活動の整理、意義の再確認、可視化、一定のコスト意識 → 改善・活性化、社会および行政内での存在感の高揚。

流れ：平成16年度策定の中期活動目標（平成16～20年度）に基づいて実施。

館内委員会等による自己点検・評価 → 全体・学芸会議における検討 → まとめ → 年報に掲載 → 協議会に報告（外部評価）

評価表：中期活動目標に掲げた評価指標、目標値に基づく。

評価者：自己点検・評価＝学芸員を中心とする全職員、外部評価＝協議会委員

効率的に行う工夫：分担して基礎作業を行う。

公表の有無：自己点検・評価＝年報・ホームページに掲載、外部評価＝協議会議事録をホームページに掲載（簡略化したもの）

#### ② 経費

予算は無し

\*活動蓄積と存在感の評価で、平成17年度の文化庁芸術拠点形成事業を利用したことがある。

#### ③ 評価結果の活用

成果と課題の分析 → 対策の検討（認知度と満足度） → 実施

\*「館内委員会等 → 全体・学芸会議 → 館内委員会等」の流れのため時間がかかる。

#### ④ 利点・効果

・活動の可視化 → 業務や役割を明確化する「座標系」 → 意欲の向上。

・継続的視点による業務の展開を可能にする。

・評価の実施は、対外的訴求力の向上にも効果がある。

#### ⑤ 課題・問題点

・総合的な方向づけ（理念、目標との関連性の再自覚）が必要。

・数値設定の意味の明確化。

・利用者のとらえ方／利用者の視線（仕掛け方も含めて）。

・外部評価の実質化



- ・行政内での理解の促進。

⑥ 今後の展望

- ・第2期中期活動目標（平成21年度～）に向けて検討を進めている。
- ・県民への意思表示としての性格を強化する。
- ・理念の再定置から始める。

⑦ その他

- ・平成15年より館活動の見直しの検討を始めた。
- ・博物館活動を多くの人に知らせる必要であり、説明責任を求められることになった。
- ・使命は特には作らず、基本理念や性格は基本構想による目標そのままを進めている。
- ・学芸員を中心に全職員で行う自己点検・評価を行い、年報に載せるほかホームページにも掲載している。
- ・評価の実施では、膨大な項目があるため、2時間程度の協議会では意見が深まっていけない。

**確認質疑**

(1) 論文数25本は、一人当たり2本となるので大変ではないか。

→ 開館以来の実績+ $\alpha$ で設定しているが、柔軟に考えていく。

(2) 組織図では管理部門が無いようであるが。

→ 博物館がある「文化の森」は複合施設であり、当初は各施設に管理部門が置かれていたが、定数削減のため平成18年度から事務部門は21世紀館に集約された。ただし、資料管理や契約事務は施設ごとに行う必要があるため、決裁権は館長に残し予算と執行管理は21世紀館で行っている。各施設の正規の事務職は副館長のみで、事務管理の中心となっている。

## VIII 中期活動目標と自己点検・評価

博物館活動の改善・活性化を図る目的で、平成16年に中期活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに点検と評価を行っている。中期活動目標はおおむね5年ごとに改訂することとし、本年度で4年目となる。平成20年から改訂作業に入る予定である。なお、評価指標等の軽微な見直しは、毎年度行っている。

### 1. 中期活動目標（平成16年9月9日策定）

#### (1) 中期活動目標の目的

徳島県立博物館（以下「県博」という）は、「徳島県立博物館基本構想」（昭和59年1月）に基づいて設置された。この基本構想には県博の基本理念と基本的性格が次のように示されており、これらが活動の目標・指針となってきた。

これらの「基本理念」及び「基本的性格」は今でも県博の指針であることには変わらない。しかしながら、生涯学習社会の進展等に伴う最近の博物館をとりまく状況の急速な変化に伴い、博物館に対して学校教育支援、社会貢献、博物館活動への県民参画等の新たな課題への取り組みが求められるようになった。その一方で、財政状況の悪化による運営予算の削減、事業評価、公的施設の運営の見直し等も進められている。こうした状況を踏まえ、「博物館の望ましい姿」についての議論に基づき今後5年間（平成16年度～平成20年度）に推進すべき活動の目標（中期活動目標）を明確にするとともに、活動の点検・評価を行う際の評価指標を示して共有することとした。この目標に沿って計画的に活動を推進し、点検・評価を行うことにより、博物館活動の改善・活性化を図ることとしたい。

#### 基本理念

- ・郷土に根ざし世界に広がる博物館 徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設
- ・開かれた博物館 博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設
- ・研究を大切にする博物館 学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設
- ・文化財を守り自然の保全をめざす博物館 県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

#### 基本的性格

- ・人文科学（考古、歴史、民俗、美術〔近代美術を除く〕）と自然科学（動物、植物、地学）が有機的に結びついた総合博物館とします。
- ・収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育及び生涯学習センターとしての役割を果たします。
- ・国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

#### (2) 中期活動目標の構成

中期活動目標では、県博の果たすべき機能を従来の4つ（資料収集保存、調査研究、展示、普及教育）に新たに社会貢献、情報の発信、マネージメント（経営）を加えた7分野に整理・区分し、それぞれに数項目の活動目標を掲げるとともに、活動を評価する際の指標と目標値を設定した。各評価指標には、年次あるいは計画年度（5年）を通じての目標値を設けることが望ましいが、博物館評価には必ずしも数的評価にはなじまない内容も含まれることから、全ての評価指標に目標値を設けるには至っていない。今後、順次改訂して行きたい。

(3) 中期活動目標の推進方法

- ・中期活動目標は、博物館協議会での協議を経た上で公表する。
- ・それぞれの活動目標に基づき、館内で具体的な取り組みの年度・年次計画を立てて活動を行う。
- ・年度末に活動実績の評価指標に基づく自己点検・評価を行い、結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- ・活動実績および自己点検・評価の結果を博物館評議会に報告して議論していただき、外部評価意見として年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動の改善に役立てる。

1. 資料の収集・保存と活用

資料の収集・保存は、博物館の最も基本的な機能です。様々な方法で徳島及び関連する地域の自然や歴史、文化に関する資料の継続的な収集を行います。また、収蔵資料は公共的な財産として安全に保管し、次世代に伝えるとともに、その活用を図ります。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
1 1 継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数	当該年度における収蔵資料の総数	2008年度末で50万点	
		対前年度増加点数	当該年度の資料点数 - 前年度の資料点数	9,030点	
		対前年度増加率	(当該年度の資料点数 / 前年度の資料点数) × 100	102.0%	
		新規寄贈件数	当該年度において寄贈された資料の件数	80件/年	
		新規受入図書冊数(雑誌類以外)	購入図書数	400冊/年	
1 2 寄託資料の受け入れ促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託の受け入れを促進します。	総寄託件数	当該年度に寄託されている資料の総件数	10件/年	
		新規寄託件数	当該年度に新たに寄託された資料の件数		
1 3 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、収蔵資料データベースの整備を図ります。	収蔵資料DB登録点数 収蔵資料DB登録率	(DB登録点数 / 収蔵資料点数) × 100	H20年度までに50%	
1 4 収蔵資料の活用の促進	貸出しなどによる収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	特別利用(閲覧、貸出、撮影、出版物掲載など)およびそれ以外の利用記録を含む小・中・高への学校貸し出しを除く	50件/年	学校への貸出は「普及教育」参照。
1 5 資料の適切な保管	収蔵庫や展示室の点検や資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保管を図ります。				
1 6 常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室での安全な資料の保存環境を確保するため、空調に除湿機能を付加するよう関係方面に働きかけます。				
1 7 収蔵スペース確保	将来の収蔵資料の増加に備え、収蔵スペースの確保に向けた方策を探ります。				

2. 調査研究

調査研究は、博物館活動の学術的基盤となる重要な機能です。徳島及び関連する地域の自然や歴史、文化に関する基礎的な調査研究、資料の保存や展示、普及教育活動等に関する博物館学的調査研究を行うとともに、成果の博物館の諸活動へのフィードバックを図ります。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
2 1 調査研究活動の強化	調査研究方針に沿って課題調査及び分野別調査研究等を積極的に行い、徳島県における自然史・人文科学及び博物館学の中核を担う水準を維持します。	課題調査実施状況 個別調査研究の実施状況			
2 2 調査研究成果の公表	研究報告の出版のほか、学術論文、著述、学会発表等により調査研究成果を公表するとともに、展示や普及教育活動を通じて成果の活用を図ります。	学術論文数	すべての論文および報告をここに編入し、そのうち査読付き論文の数を付記している。	25本/年(査読付き5)	指標の定義の変更に伴い、今回より目標値を変更した。
		図書・雑誌等の一般著述		40本/年	目標値は本および雑誌などでの一般むけ解説。指標の定義の変更に伴い、今回より目標値を変更した。
		学会・研究会での発表	各種学会や研究会でのオーラル、ポスターセッション等の講演の合計。	25回/年	
2 3 外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会等との連携による共同研究等を積極的に進めます。	共同研究プロジェクト数	大学等、職業的研究者との共同研究数。	10件/年	人的・予算的規模の大小は問わない。科研費の研究分担はここに含める。
2 4 県民参画型調査研究の推進	調査研究活動にも県民が参画できるよう、県民参画型調査等のプロジェクトを企画します。	県民参画型調査の実績	一般市民(アマチュア研究者、コレクター等含む)との共同研究。	2件/年	とくに不特定多数を相手するものだけをカウントしている。
2 5 外部資金の獲得による研究活動の推進	科学研究費補助金や民間の研究助成金等の外部資金を獲得し、研究活動の推進とレベルアップを図ります。	科研費申請・採択数	文部科学省・独立行政法人日本学術振興会の科学研究費補助金。	申請6・採択1件/年	種目等は問わない。今回より、学芸員の人数の減少(15→13)に伴って、指標の目標値(7→6)を変更した。
		民間研究助成金獲得状況			藤原ナチュラリストリ振興財団、日本科学協会「科学研究助成制度」など。

52 中期活動目標と自己点検・評価

3. 展示

実物資料や最新の情報に基づき、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示し、楽しく学べ、新しい発見や家族のふれあいのきっかけとなる場を創出します。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
3 1 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数 観覧者のリピーター率 観覧者の満足度 展示改善の実施状況	年間の総観覧者数 アンケート回答者のうち、複数回利用者の占める割合 アンケートで展示の総合評価（5点満点）を4～5点とする回答の占める割合 定期的に展示替えするコーナーは対象外	40,000人/年 70%	過去1年以内の利用有無でとらえるよう指標の再定義が必要か
3 2 多様なテーマの企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数 観覧者の満足度 企画展の検討状況	年間の総観覧者数 アンケートで展示の総合評価（5点満点）を4～5点とする回答の占める割合	15,000人/年 80%	
3 3 収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用	企画展のほか、特別陳列、部門展示（人文）トピックコーナー展示等の多様な展示を行うことにより、収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用を図ります。	特別陳列等の開催回数 企画展示室活用回数	企画展として位置付けられているもの以外の各種の展示の取り組み回数 企画展以外の事業（他機関が主体となった共催の展示を含む）での活用回数	10回（特3・部4・ト3） 企画展以外に1回/年	常設展ロビーにおける資料紹介なども含む。
3 4 館外での展示の促進	移動展、パッケージ展示の貸出等により、館外での展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	移動展等の実施状況 パッケージ展示の貸出数	文化の森外の博物館等における当館を主催者に含む展示の開催件数 他博物館等への貸出用展示メニューの利用件数。該当する展示が当館を主催者に含む場合は、移動展と見なす	1回/年 1件/年	
3 5 展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況 展示解説等の実施状況	年間の刊行件数 展示の理解を支援する各種の活動の実施回数		
3 6 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	開館20周年（平成22年）での常設展のリニューアルを目標に、館内での検討を進めるとともに、関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。	リニューアルに向けての進捗状況	リニューアルに向けての協議や施設調査等の取り組み		

4. 普及教育

収蔵資料や学芸員の能力を活かし、自然や歴史、文化について体験したり、楽しく学ぶことができる多様な学習機会を提供することにより、県民の生涯学習を支援します。また、学校教育を積極的に支援します。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
4 1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を提供します。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数 普及行事参加者数 参加者の満足度 アウトリーチ活動数	事後アンケートにおける満足回答者の割合 館外での普及行事（展示を除く）	70回/年 3,000人/年 満足した者の割合80% 3回/年	
4 2 学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	学校教育支援事業件数 教員・生徒の満足度	出前授業等実施後の満足度	出前授業15件/年 資料貸出15件/年 館での授業 教員研修 職場体験 遠足 80%	18年度より、その他の項目を館での授業、教員研修、職場体験、遠足の4項目に分けて記すことにした。
4 3 ガイドブックの出版等の促進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を手助けするため、ガイドブックの出版や、新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	ガイドブック出版状況 普及記事の執筆数		1冊/年 20件/年	
4 4 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数 会員の継続率 友の会行事実施回数 常設展・企画展観覧者率	友の会（個人・家族）の会員総数 当該年度会員に占める前年度会員の割合 観覧者として入館した会員の割合	500人/年 前年度会員の70% 10回 50%	

5. シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
5 1 レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、「何でも相談にのってもらえる博物館」との評価の定着を図ります。	レファレンス件数	レファレンス記録 DB における記録件数	300件/年	
5 2 講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数 講演会等の受講者数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数	15件/年	小中高への出前授業は「4. 普及教育」に記載
5 3 自治体等の政策課題への提言	各種検討委員会委員等として、自然環境保全や文化財保護等に関する自治体等の政策課題への提言を行います。	委員等受託数	自治体・大学などの各種委員会委員の受託数（学会・博物館関連団体の委員等を除く）	15件/年	
5 4 大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受託、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受託数 博物館実習生受入人数 学生・院生指導人数		3件/年 20人/年	
5 5 学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数 学会等役員受託数 学会等事務局受託数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数 学会・研究会における役員・委員等の受託数 当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		今年度新たに指標を設けた
5 6 民間団体等への専門知識の提供	博物館が蓄積した専門知識を幅広く活かすため、各種民間機関・団体等との連携を進めます。	各種機関・団体等との連携の状況			
5 7 博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携強化のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数 博物館関連団体加入数 連携事業の実施数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数 当館が加入している博物館関連団体の数 移動展・移動講座や他館との共催事業などの実施回数		今年度新たに指標を設けた

6. 情報の発信と公開

博物館の催し物案内等だけでなく、博物館活動に関連する様々な情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、インターネットや様々なメディアを通じて積極的に情報を発信します。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
6 1 積極的な資料提供の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数 マスコミ取材報道件数	当該年度にマスコミに対して資料提供を行った数 当該年度に新たに新聞が取材し、報道した数	30件/年	
6 2 様々なメディアの活用による広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓、マスコミ出演や新聞・雑誌への寄稿を行うなど、様々なメディアを活用して広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況 マスコミ出演等件数 Eメールサービス登録件数	当該年度に新たに開拓した広報手段 当該年度に学芸員がマスコミに出演した数 当該年度末時点のEメールサービスの登録件数	15件/年 250人/年	
6 3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HPアクセス数 新規コンテンツ数 内容の更新頻度	当該年度のトップページへのアクセス総数 当該年度に新たに作られたページの数 当該年度に内容が更新された回数	32,000件/年 30ページ/年 月3回以上	

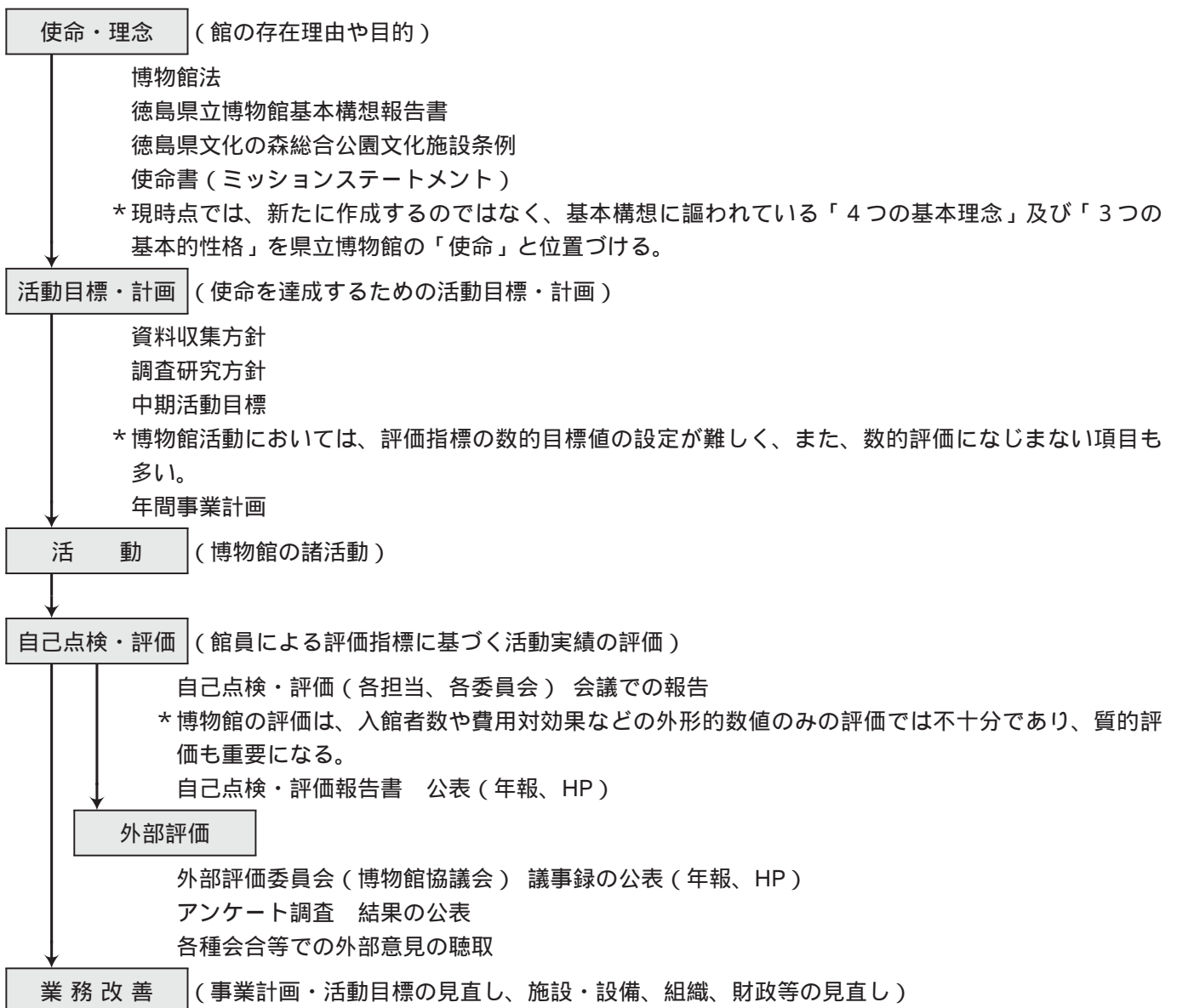
7. マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
7 1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者や障害者にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。	点検・改善の状況			
7 2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合			
7 3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について、NPO 法人設立も含めて検討します。	ボランティア導入事業数 ボランティア活動参加者数 運営支援組織の検討状況			

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
7 4 設置者による理解の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。	博物館予算の状況			
7 5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施状況 危機管理マニュアルの整備状況			
7 6 職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。				
7 7 博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立し、博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況 自己点検評価の状況 外部評価の状況			

「博物館の評価と改善」の手順



## 2. 19年度実績と自己点検・評価

### (1) 資料の収集・保存と活用

#### 中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
1 1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	H20年度末で50万点	468,294	471,746	478,394
		対前年度増加点数	9,030点/年	6,120	3,452	6,648
		対前年度増加率	102.0%	101.3%	100.7%	101.4%
		新規寄贈件数	80件/年	111	87	86
		受入図書冊数 (雑誌類以外)	400冊/年	108	116	145
1 2	寄託資料の受け入れ促進	総寄託件数		65	66	62
		新規寄託件数	10件/年	5	1	5
1 3	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録点数		192,740	225,547	235,419
		収蔵資料DB登録率	H20年度までに50%	41.20%	47.80%	49.21%
1 4	収蔵資料の活用の促進	資料特別利用件数	50件/年	45	67	71
1 5	資料の適切な保管	収蔵庫等の点検回数				
1 6	常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室空調改善の検討状況				
1 7	収蔵スペース確保の検討	収蔵スペース確保の検討状況				

#### 自己点検・評価

資料の活用促進についてはやや改善傾向にあるものの、博物館機能の根幹である資料の収集状況は明らかに鈍化している。また、収集した資料は適切に整理・保管されてこそ、次代に継承し活用も可能となるが、それもここ数年で困難な状況になってきている。これらは予算と人員の削減によるものが大きく、今のところ改善の兆しはない。よりいっそうの効率化・工夫が求められるが、それも限界に近づきつつある。

#### 1 1

- ・平成19年度における資料点数は、前年度に比べて6,648点増加したが、増加点数の目標値9,030点を2,382点下回った。対前年増加率は101.4%であり、前年度増加率の目標値102.0%まで0.6ポイント及ばなかったものの、前年度に比べて0.7ポイント改善された。その理由として、欠員となっていた無脊椎動物担当学芸員1名が新たに採用されたこと（歴史〔近世〕担当学芸員1名は依然として欠員）、一部の分野で整理作業がやや進んだことが挙げられる。しかし、予算不足から資料の購入ができなかったこと、および規模の大きなコレクションの受入がなかったことが、資料点数の伸びを鈍化させており、この傾向は近年続いている。そのため平成20年度における50万点の目標達成は困難と思われる（目標達成にはH20年度に21,606点の増加が必要で、これはH19年度における増加点数の3.3倍に相当する）。
- ・寄贈資料件数は、目標値80件を6件上回った。平成14年度以降に経年的傾向は見られず、平均は90.3件（標準偏差12.6）であることから、ほぼ平年並みと考えられる。
- ・受入図書冊数（購入図書）は145冊で、前年度に比べて29冊多かったものの、目標値400冊にはるかに届かず、依然として低調である。これは予算額に依存しているためで、予算額が縮小している中では、今後とも目標達成は困難である。当館における図書購入は分野ごとの専門図書が多く、研究の進展に伴い常に最新の図書を揃えておく必要があるが、このような状況下では困難であり、結局、学芸員個人の負担による購入に頼らざるを得ない状態となっている。文献も博物館資料であるという観点からは、中～長期的には大きな損失になると思われる。

#### 1 2

- ・平成19年度末における総寄託件数は62件で、ほぼ平年並みであった。

- ・平成19年度の新規寄託受入件数は5件で、昨年度の1件より増加したものの、目標値の10件を5件下回った。  
1 3
- ・平成19年度のDB登録資料点数は、前年度に比べて9,872点増加し、DB登録率は49.2%で、昨年度に比べて1.4ポイント上昇した。しかし、1 1で述べたように、収集資料点数の伸びが低調であることから、今後、DB登録率は見かけ上は上昇していく可能性もある。その一方で、登録作業の重要な戦力である自然課の臨時補助員1名が今年度より削減されたため、その分、登録率の伸びは相殺されている部分もあると考えられる。  
1 4
- ・平成19年度の資料特別利用件数は71件で、目標の50件を21件上回り、達成率は139%であった。昨年度と比べても4件多く、資料の利用が促進されつつある。  
1 5
- ・収蔵庫等の点検は、収蔵庫や展示室を利用したときに日常的に行っている。
- ・常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間でないため、害虫などの侵入を防ぐことができない。実際、平成18年度に引き続き、19年度も害虫が確認されたため、発生源の資料を特定し、それらの資料の燻蒸を行った(p.6参照)。  
1 6
- ・常設展示室内の空調は温度設定のみ可能で、湿度のコントロールができない。そのため、時期によってはカビの発生が懸念される。
- ・常設展示室の構造的・設備的な問題であるので、現時点では抜本的な対策およびその検討はなされていない。  
1 7
- ・鳥居記念館博物館の文化の森総合公園三館棟への移転に伴い、収蔵庫をどうするかが問題となっていたが、平成19年度末に博物館保存処理室1を転用することで決定された(検討委員会答申は平成19年12月9日)。しかし、改装や資料の整理に掛かる人員の確保など、予算措置が不透明であること、また、たとえ予算措置がなされたとしても、博物館学芸員がこれに係る作業でかなりの負担が予想され、博物館の人文系資料の収集・保存作業が遅れることが懸念される。
- ・不定形で大型の資料の多い民俗分野では、すでに収蔵スペースがなく、考古収蔵庫の一部を借用している状況である。
- ・民俗分野以外でも、収蔵スペースに余裕がなくなりつつあることから、収納方法を工夫するなどして対応している。

(2) 調査研究

中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
2 1	調査研究活動の強化	課題調査実施状況		4件 (外部との共同2)	4件 (外部との共同2)	3件 (外部との共同2)
		個別調査研究の実施状況				
2 2	調査研究成果の公表	学术论文数	25本/年 (査読付き5)	29本 (査読付き5)	22本 (査読付き5)	26本 (査読付き8)
		図書・雑誌等での一般著述	40本/年	29本	50本 (普及記事含む)	40本 (普及記事含む)
		学会・研究会での発表	25回/年	21回	17回	28回
2 3	外部研究機関等との連携の推進	共同研究プロジェクト数	10件/年	14件 (課題調査以外)	17件 (課題調査以外)	14件 (課題調査以外)
2 4	県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の実績	2件/年	アサギマダラのマーキング調査、貝化石調査、漂着物の調査	アサギマダラのマーキング調査、漂着物の調査	アサギマダラのマーキング調査、漂着物の調査



中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
2 5	外部資金の獲得による研究活動の推進	科研費申請・採択数	申請 6・採択 1 件/年	申請 4・採択 1	申請 3・採択 0 (継続 1)	申請 2・採択 0 (継続 1)
		民間研究助成金獲得状況		1 件	2 件	0 件

自己点検・評価

2 1

- ・課題別、分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果をえた。

2 2

- ・分野および学芸員ごとに多少の偏りがあり、成果の公表数では自然系については論文・調査報告数が多く、人文系では普及的記事が多い傾向がある。
- ・平成17年度から学術論文数と図書・雑誌等での一般論述の振り分けを変更したため、今年度より目標値を再設定した。
- ・前年度は欠員であった無脊椎動物担当学芸員が19年度に新たに採用されたこともあり、学術論文数および学会・研究会での発表数が昨年と比較して増加した。一方、図書・雑誌等での一般著述は少数に留まっている。昨年度多かった雑誌や機関誌への記事が今年度はあまり多くなかったため、全体的な減少につながったと考えられる。

2 3

- ・昨年より減少し、平成17年度と同程度となった。

2 4

- ・アマチュア研究者（または研究グループ）との共同研究のうち、とくに不特定多数の県民を巻き込んで行っている研究をカウントしている。特定のアマチュア研究者との継続的な共同研究も多いが、その件数は不明である。

2 5

- ・今年度は、文部科学省および日本学術振興会による科学研究費補助金（科研費）および民間の研究助成金は新規獲得できなかった。この数年来、課題調査や消耗品・備品等の予算も大幅に削減されている。学芸員の自主的な発想に基づく研究を行うためには、これらの競争的資金や研究助成金の獲得が必要になっていくと考えられる。外部資金の獲得に関しては、今後はとくに積極的に取り組む必要がある。

(3) 展 示

中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
3 1	常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000人/年	35,637人	41,475人	40,632人
		観覧者のリピーター率		47.8%(4~5月) 71.4%(8~10月)	57.5%(7~8月)	49.5%(7~8月)
		観覧者の満足度	70%	87%(4~5月)	76.1%(7~8月)	79.9%(7~8月)
		展示改善の実施状況		準備 1 件	2 件	1 件
3 2	多様なテーマの企画展の計画的開催	企画展観覧者数	15,000人/年	18,444人(3回)+ 7,323人(特陳)	23,285人(3回)+ 7,200人(特陳)	38,262人(3回)+ 5,168人(特陳)
		観覧者の満足度	80%	69%(縄文)	87.4%(種と実) 71.4%(海人)	80.2%(ミネラルズ) 81.7%(考古速報展)
		企画展の検討状況		19年度以降の計画の協議	20年度以降の計画の協議	21年度以降の計画の協議
3 3	収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用	特別陳列等の開催回数	10回 (特3・部4・ト3)	21回 (特4・部6・ト6・共2・他3)	15回 (特3・部6・ト6)	16回 (特2・部5・ト8・他1)
		企画展示室活用回数	企画展以外に 1 回/年	2 回(特陳)	1 回(特陳)	2 回 (国文祭、特陳)

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
3 4	館外での展示の促進	移動展等の実施状況	1 回/年	5 回（移動展 = 藍住町町[ 2 回 ]・出羽島・牟岐・松茂）	1 回( 海陽 )	5 回（移動展 = 牟岐・阿南・藍住・東かがわ、共催展 = 徳島城）
		パッケージ展示の貸出数	1 件/年	2 件（松茂・ガレ）	0 件	3 件（あすたむ・あいぼーと・阿波図）
3 5	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録 3 + 自然と歴史ガイド 2（空襲・銅鐸）	企画展図録 3 + 特陳パンフ（鳴教大との共編。経費は鳴教大負担）	企画展図録 1 + パンフ 2
		展示解説等の実施状況		企画展解説 4 回 特陳解説 3 回 部門展示解説 5 回 クイズラリー(第 2・4 土) 24 回 受付案内員による常設展解説 14 回 常設展示室活用イベント 2 回（当初計画外分。全体では 4 回）	企画展解説 7 回 特陳解説 3 回 部門展示解説 7 回 クイズラリー(第 2・4 土) 24 回 びっくり箱を使った解説 1 回 受付案内員による常設展解説 3 回 常設展示室活用イベント 2 回（当初計画外分。全体では 4 回）	企画展解説 6 回 特陳解説 1 回 部門展示解説 3 回 クイズラリー(第 2・4 土) 24 回 びっくり箱を使った解説 7 回 常設展示室活用イベント 1 回（当初計画外分。全体では 3 回） セルフガイドの設置
3 6	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		先進館調査 2 館（九博、大阪人権博）	先進館調査 5 館（長崎、山梨、九博、科博、国立新美） 展示のイメージの再検討着手	先進館調査 1 館（島根県古代出雲博） 基本計画（案）の全面改訂

自己点検・評価

3 1

- 常設展観覧者数は40,632人で、目標を上回った（前年度比843人減）。18年度と同様、2月にボランティア企画イベントを実施したところ、当該月の観覧者数の伸びが大きかった。  
近年、常設展示室では、職員だけで運営するフェスティバルが年2回、ボランティアとの協働イベントが年1～2回の開催となっている。展示を見るとか、資料に関心があるとかというのとは違って、イベントを楽しむことだけが目的となっている利用者が定着しつつあるように見える。表面的には常設展に入場すれば、「観覧者数」として扱うが、質の異なった利用の増加をどう位置付けるのか、また、博物館にふさわしいあり方なのか、検討すべきでことであろう。
- 19年度の利用状況調査（7～8月実施）では、リピーター率は49.5%であった。夏期は観光客などが多いこともあり、やや低めの数字になるが、19年度はとくに低かった。映画「眉山」の公開による徳島への観光客の増加、企画「世界の甲虫」がこれまでにない利用者層を誘引したためとも思われる。  
なお、新規利用者が絶えず得られることも必要であるため、リピーター率が高いほどよいというものではない。
- 展示の改善（部門展示[人文]の展示替えを除く）は、ハード面での取り組みができない上、新規の資料購入ができなくなっていることもあり、低調だった。今の展示に理解を深めてもらうための工夫として、セルフガイドの設置・配布などが始まった。
- 18年度に続き、19年度の観覧者調査でも、部門展示（人文）やトピックコーナーにおける展示替えの認知状況を問い、その回答と利用頻度との関係、満足度との関係を検討した。回答時の来館以前から知っている者が24.5%、当日初めて知った者が42.1%だったが、31.1%が認識しておらず、室内の表示などに工夫が必要だと思われる。利用頻度が高まるほど、展示替えの認知度は高くなる傾向にあるが、認知度と満足度は関連しておらず、展示替えが満足度を高める効果をもたらしているとはいえないようである。この点は昨年度と同じであり、現状で常設

展の変化・鮮度の維持、満足度を両立するにはどうすればよいかということになるが、妙案は得られていない。なお、展示替えの継続を評価する意見が見られることから、15年度から始めた、部門展示（人文）の計画的な展示替え、トピックコーナーの設置・展示替えが定着し、その意義を認める利用者がいることも確かである。したがって、満足度に直結しないからといって清算主義的な評価をするのは避けるべきである。

3 2

- ・企画展観覧者数は38,262人で、前年度と比べて15,000人近い増加である。
- ・企画展は、テーマとタイミングがうまくマッチすれば大量動員が可能になるが、その見極めは難しい。娯楽性、新規性、学術性等の諸要素を取り合わせた計画的運営が求められるところだが、予算の見通しが立たない状況のもと、将来的な開催計画についての検討はあまり進んでいない。
- ・観覧者の満足度を調査したのは「ミネラルズ」、「新発見考古速報展」の2回。総合的に満足感を示した観覧者の割合は、前者で80.2%、後者で81.7%であった。概して満足度が高かったようである。

3 3

- ・特別陳列等の開催回数は16回あり、目標の10回を大きく超えている。ただし、そのうち1回は近代美術館ギャラリーを会場とする文化の森人權啓発展、1回は国民文化祭である。これらを差し引いた博物館独自の取り組み回数は14回となる。

3 4

- ・財政状況が深刻になっているせいか、移動展・パッケージ展示貸出の希望が多かった。中には、東かがわ市歴史民俗資料館のように、県外の施設への協力もあった。  
移動展について、小規模な施設では、展示ケース等の設備もなく、当館からケースを持ち込んで展示を行うことがあった一方、ケースの搬入がむずかしいことから、先方の希望テーマでは展示できなかったこともあった。

3 5

- ・展示解説等については、「びっくり箱」の活用など、ミニワークショップの試みが繰り返され、成果を得ている。年間計画外の常設展活用イベントがボランティアとの協働により行われたほか、セルフガイドの設置も進み始めた。取り組みに偏りがあるが、今後、こうしたソフト面での充実を図ることが必要になると思われる。

3 6

- ・常設展リニューアルの実現は厳しいが、常設展を通じて博物館の目指すものを体現していくという考えに立てば、リニューアルに向けた検討を「改善」に反映させることも可能であり、絶えず議論が求められるところである。そのような考えから、これまでに作成したりニューアル案を全面的に再検討し、常設展更新基本計画（案）を新たに作成した。

(4) 普及教育

中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
4 1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	90回	80回	61回（中止5回）
		普及行事参加者数	3,000人/年	5,944人	6,143人	5,140人
		参加者の満足度	満足した者の割合80%	90.8%（15行事）	86.6%（13行事）	93.6%（15行事）
		アウトリーチ活動数	3回/年	移動講座3回	移動講座5回	移動講座4回
4 2	学校教育支援事業の推進	学校教育支援事業件数	出前授業15件/年	21件	22件	15件
			資料貸出15件/年	4件	9件	7件
			その他 20件/年	19件		
			・館での授業		6件	7件
			・教員研修		6件	7件
			・職場体験		2件	2件
		・遠足		117(園)校	107(園)校	
教員・生徒の満足度	80%	8割強	8割強	93.3%		

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
4 3	ガイドブックの出版等の促進	ガイドブック出版状況	1冊/年	2冊	0冊	0冊
		普及記事の執筆数	20件/年	17件	45件	34件
4 4	友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	500人/年	483人	431人	404人
		会員の継続率	前年度会員の70%	69%	66%	71%
		友の会行事実施回数	10回	10回	9回	9回
		常設展・企画展観覧者率	50%	38.6% (394件)	53.3% (478件)	51.9% (399件)

自己点検・評価

4 1

- ・普及行事は台風や雨天による中止などが5回あったことも含め、実施回数は前年の80回から61回（計画は66回）に減ったことで参加者数は減少したものの、1回あたりの参加者平均数は増加した。
- ・普及行事参加者数5,140人のうち、こどもの日・文化の日フェスティバルとボランティアが中心になって行った博物館Vキングでは、それぞれ778人、982人、1,313人と参加者数が特に多く、年々増加傾向にある。
- ・普及行事への参加者の満足度は、前年に比べて高くなっており、15行事で行ったアンケート結果からは93.6%と好評であった。

4 - 2

- ・出前授業数は前年より7件減り、15件であった。その内訳は、徳島市内の小学校が7校と全体の約半数を占めており、その他の学校についても近郊の小学校が多い。出前授業の内容で多いのは、人文分野においては「昔のくらし」に関するもの、自然分野においては「水生生物」・「地層」に関するものである。
- ・出前授業については、新しくつくったアンケートでの評価項目から、教員・生徒の授業に対する満足度を調べた。その結果、93.3%の高評価を得ることができた。
- ・資料貸し出し等、事業件数が増えていないのは、博物館が学校教育支援事業を実施していることを知らない教職員が多いと推察される。そこで、学校向けのパンフレットを新しく作成し、次年度当初に各学校教職員に配布することにした。
- ・その他の「館での授業」「教員研修」「職場体験」「遠足」の実績は、前年度と大差はなかった。

4 - 3

- ・新聞・雑誌の普及記事執筆については、目標値を大きく上回っており、今後も機会あるごとに執筆を働きかけていきたい。

4 4

- ・友の会では、会員数が431人から404人に減少したが、継続率は66%から71%に増加した。これは、個人会員の継続が比較的多く、家族会員の継続や新規加入会員が少ない現状を表している。
- ・会員が自主的に行事を立案・企画し、実施できているものもある。
- ・友の会会員の常設・企画展観覧者率は51.9%で、目標値を上回った。

(5) シンクタンクとしての社会貢献

中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
5 1	レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	300件/年	357	303	302
5 2	講師派遣等の推進	講師派遣等件数	15件/年	12	18	28
		講演会等受講者数		未計数	未計数	
5 3	自治体等の政策課題への提言	委員等受諾数	15件/年	28	34	29

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
5 4	大学教育への寄与	非常勤講師受託数	3 件/年	3	2	7
		博物館実習生受入人数	20人/年	24 ( 8 大学 )	17 ( 7 大学 )	21 ( 8 大学 )
		学生・院生指導人数		1	1	1
5 5	学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		16	16	14
		学会等役員受託数		5	5	4
		学会等事務局受託数		4	4	3
5 6	民間団体等への専門知識の提供	各種機関・団体等との連携の状況				
5 7	博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受託数		3	6	6
		博物館関連団体加入数		5	5	5
		連携事業の実施数		8	7	9

自己点検・評価

5 1

- ・レファレンス件数は昨年度に比べて1件減少したが、目標値を2件上回っていた。ただし、電話での問い合わせなど記録として残されていないものもあるため、実数はこれより多い。分野別の件数では、今年度は地学がもっとも多い65件で、昨年度より20件増加した。次いで、動物(脊椎)53件、歴史48件、動物(昆虫)43件であった。以上の4分野で全体の70%占めていた (p.38参照)。

5 2

- ・今年度の講師派遣は28件で、昨年度に比べて10件増加し、目標値の15件を13件上回った。ただし、昨年度と同様に、特定分野に集中する傾向が顕著で、歴史分野が17件、全体の61%を占めた。
- ・派遣先の受講者数は現在のところ計数できていない。講演終了後に派遣先に問い合わせるなどの記録方法を検討したい。

5 3

- ・各種の委員会などの委員等の受託数は昨年度より5件減少したが、目標値の15件を14件上回っている。これらのうち21件(72%)は動物・植物分野における自然環境の評価に係わるもので占められており、県や国における公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。

5 4

- ・今年度の大学における非常勤講師の受託数は昨年度より5件増加し、目標値の3件を4件上回った。
- ・今年度の博物館実習生の受入人数は21人で、昨年度に比べて4人増加し、目標値の20人を1人上回った。
- ・学生や院生の指導のための受入人数については、今のところとくに目標値は定めていない。大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。今年度は、昨年度に引き続き1名のみであった。

5 5

- ・今年度の学会や研究会の当館における開催数は昨年度より2件減少した。これらには毎月例会が開催されるみどりクラブ(旧称:植物談話会)が含まれている。目標値は定めていない。
- ・学会等役員受託数は昨年度より1件減少した。目標値は定めていない。
- ・学会等の事務局受託数は昨年より1件減少した。目標値は定めていない。

5 - 6

- ・民間団体等への博物館の有する専門知識の提供は、主として日常的な個別のレファレンス業務の中で行われており(例えば、環境調査コンサルタントに対する調査方法、調査結果とりまとめなどの指導。ほとんどは行政担当者の立ち会いの下に実施)民間団体への組織的な支援は行ってないし、これまでのところその必要性は認められない。今後はレファレンス業務内容の分析を行い、そちらの指標とし、本項目は削除することが考えられる。

5 - 7

- ・博物館関連団体の委員等受託数は昨年度と同様に6件であった。目標値は定めていない。
- ・博物館関連団体加入数は5件で、ここ5年間は内容に変化がない。これらのうち1件は当館が事務局を引き受けている。目標値は定めていない。
- ・他館等との連携事業数は、昨年度より2件増加した。目標値は定めていない。移動展4回および共催展1回のほか、四国地区博物館協議会・日本博物館協会四国支部の講演会への講師派遣、徳島県博物館協議会講演会および研修会の実施、先進地博物館施設調査のための見学会も行った。

(6) 情報の発信と公開

中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
6 1	積極的な資料提供の推進	資料提供件数	30件/年	25件	31件	28件
		マスコミ取材報道件数		55件	59件	86件
6 2	様々なメディアの活用による広報活動の強化	広報手段の新規開拓状況		ちらし配布場所の新規開拓及び増数	新規雑誌への催し物案内の提供	ちらしやポスター配布場所の新規開拓
		マスコミ出演等件数	15件/年	9件	17件	15件
		Eメールサービス登録件数	250人/年	251人	260人	265人
6 3	インターネットによる情報発信の推進	HP アクセス数	32,000件/年	35,600件/年	49,300件	47,500件
		新規コンテンツ数	30ページ/年	224ページ/年	180ページ/年	507ページ/年
		内容の更新頻度	月3回以上	4.6回/月 (56回/年)	3.3回/月 (39回/年)	3.6回/月 (43回/年)

自己点検・評価

6 1

- ・資料提供件数は28件と目標の30件/年に達しておらず、前年より減少している。博物館からのより効果的な情報発信として、マスコミに対する資料提供を今後とも積極的に続けていく必要がある。
- ・マスコミ取材・報道件数については、新聞のみの数であるが86件となっており、活発な取材や報道が行われていることが伺える。

6 2

- ・広報手段の新規開拓としては、コンビニエンスストアへのちらしとポスターの配布、空港へのチラシの配布（以前はポスター掲示のみ）を行った。限られた予算内で効果的な広報媒体の開発の改善努力を今後とも続けていくことが望まれる。
- ・マスコミ出演等件数は前年よりやや減ったものの、目標値を達成した。
- ・電子メールサービス登録件数は目標値をやや上回った。

6 3

- ・インターネットによる情報発信はすべて目標値に達しており、良い状態である。特に、18年度にインターネットで公開した展示解説書「徳島の自然と歴史ガイド3 化石」のサイトを解析したところ、良質な情報が発信できていることがうかがえた。19年度末にも同様の手法で展示解説書「ミネラルズ 不思議な、きれいな、そして意外に身近な鉱物の世界」を公開したので同様の活用が期待される。ただ、全体的に見ると、発信している情報に偏りがある点については改善の余地があり、より広い内容での発信が求められる。

(7) マネージメント

中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
7 1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況				
7 2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		「元気な博物館づくりプロジェクト」事業によるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
		県外利用者の割合		「縄文の美」10.0%、「絶滅」 14.0%	「種と実」11.3%、「海人の見た世界」19.8%	「ミネラルズ」7.0%、「発掘された日本列島2007」12.4%
7 3	県民参画の仕組みづくり，博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業数		2回 (9/23、11/3)	2回 (2/12、3/21)	1回 (2/11)
		ボランティア活動参加者数		19人	18人	16人
		運営支援組織の検討状況		文化庁芸術拠点形成事業「元気な博物館づくりプロジェクト」の実施		文化庁芸術拠点形成事業「ヤングボランティアとの協働による体験キット開発事業」の実施
7 4	設置者による理解の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 102,392千円	2月補正後 65,526千円	2月補正後 47,695千円
7 5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊総合訓練 6月、12月	自衛消防隊総合訓練 6月、12月	自衛消防隊総合訓練 6月、12月；文化財防火デー 1月28日
		危機管理マニュアルの整備状況				
7 6	職員の意識改革と資質の向上					
7 7	博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況				
		自己点検評価の状況		16年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	17年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載；自己点検・評価の再検討に着手	18年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載；自己点検・評価の再検討
		外部評価の状況		博物館協議会 8月	博物館協議会 8月8日	博物館協議会 9月21日

自己点検・評価

7 1

・19年度は特段の取り組みは行われなかった。

7 2

・県外利用者の割合は、2つの企画展で調査した。

7 3

・17及び18年度に続きボランティアを公募し、ボランティア主体の企画イベントを2月11日に実施した。これは、平成19年度文化庁芸術拠点形成事業「ヤングボランティアとの協働による体験キット開発事業」の一環として行ったものである。16名が準備及び当日の運営に参加した。

7 4

- ・厳しい財政状況を反映し、館運営予算は18年度より約17,800千円減少した。企画展開催経費の削減や、執行保留が主なものである。
- ・これまで博物館資料の購入に充ててきた美術品等取得基金が16年度末で廃止された。それに伴い、17年度から博物館費（一般会計予算）に13,000千円の資料購入費が計上されたが、19年度は100万円となり、さらに執行保留のため1点の購入もできず、2月補正予算での全額減額を余儀なくされた。

7 5

- ・年2回の防災訓練は、3館合同で実施された。また、文化財防火デーに関係した特別防災訓練を実施したが、これは博物館を中心とし、3館棟の全職員を動員して徳島市消防局の全面的な協力の下、大がかりな訓練となった。
- ・停電、盗難、けが人や病人の発生等に備えた防災マニュアルも整備していく必要がある。

7 6、7 7

- ・16年9月に策定した「徳島県立博物館の中期活動目標」に基づき、19年度事業の自己点検・評価を行い、その内容を年報やホームページに掲載した。また、9月の博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。
- ・中期活動目標を、活動目標に基づく実践、自己点検・評価をきちんと行い、博物館活動の改善・活性化に結びつけるために、全職員がいま一層の意識統一を図ることが大切であり、すでに現状での目標見直し等も行っている。



## 齋宮歴史博物館

出席者：館長 瀧上昭憲氏、専門監兼調査研究課長 倉田直純氏

### 館の概要

所在地 三重県多気郡明和町竹川 503

開館日 平成元（1988）年 3 月

運 営 県直営（知事部局生活・文化部が主たる所管、県教育委員会と共管）

法区分 登 録

### 評価の概要

経 緯：三重県では平成 11 年度に行政経営品質活動が始まり、同 18 年度からは各部局単位  
で取り組むことになった。この活動では、組織のプロフィール（使命・顧客の期待・人材  
育成などの基本的な方向）を明らかにし、8 つのカテゴリーに基づく自己評価（所属内）  
と外部評価（部局内）を行って「強み」と「弱み」を抽出し、P（計画） D（実行）  
S（評価） A（改善）のサイクルを継続的に回して組織の品質を向上させる。

\* 8 つのカテゴリー (1)所属長のリーダーシップ、(2)組織の社会的責任、(3)顧客の理解  
と対応、(4)実施計画の策定と展開、(5)人材育成と組織能力の向上、(6)仕事の進め方、  
(7)情報の管理と活用、(8)所属の活動結果

総合評価では年度ごとに数値目標を定め、進捗管理している所属の率先実行取り組み（改  
革方針）の評価も併用している。

目 的：教育委員会経営品質推進委員会において、年度ごとに重点取り組み方針を決定する。

(1)事務局職員の教育委員会事務局全体の運営に対する満足度の向上に取り組み、活動を通  
じた自らの業務プロセスを見直し意識改革に繋げる。

(2)学校教職員の教育委員会事務局全体の運営、事務局各室の運営に対する満足度向上と意  
識改革。

(3)改革方針やセルフアセスメントに、職員が「やらされ仕事」でなく「気づきのツール」  
として意欲的に取り組むよう意識改革を図る。

流 れ：4～5月 所属の取り組み方針の策定と職員への共有 6月 経営品質推進者会議  
を開催し、活動方針の共有と進め方を協議 12月 教育委員会事務局職員の満足度調  
査の集約と情報の共有

〔アセッサーによる外部アセスメント〕

・所属内部の視点では気づかない「強み」「弱み」を見つけ、業務改善に繋げるために実行  
するもの。

・3年に1回、従来のセルフアセスメント結果に基づき、所属外のアセッサーが対象の所  
属と対話してアセスメントを行い、その結果をフィードバックする。

11月 所属内に推進担当者、館長、各課長で構成する推進体制をつくり、スケジュールを策定 12月下旬～1月上旬 組織プロフィールの検討とまとめ（8つのカテゴリーについて所属内で個別評価を行い、取り組み状況の検証、4段階評価、「強み」「弱み」の発見と整理を行う） 1月中旬 推進メンバーによる合議評価とセルフアセスメント結果の共有 2月上旬 外部担当アセッサー（博物館担当は2名）によるヒアリング 2月中旬 審査総括案の確認 3月中旬 アセッサーから審査総括の報告を受けて意見交換 3月下旬 次年度に向けた重点取り組み事項や改善計画の検討と実行

評価表：別添による

評価者：セルフアセスメント＝博物館職員全体、外部アセスメント＝アセッサー（教育委員会総務室1名・教育改革室1名）

効率的に行う工夫：アセスメントのスケジュール管理を徹底する。

公表の有無：アセスメントは公表していない。率先実行取り組み（改革方針）とその評価表は県のホームページで公表している。

#### 経費

アセッサーの事務的経費（旅費等）は必要だが、他にはかかっていない。

#### 評価結果の活用

で説明。

#### 利点・効果

内部評価では見えてこない「強み」「弱み」に気づき、次年度以降の課題・改善点が明らかとなる。その一部は実行されて改善に繋がっている。

#### 課題・問題点

- ・所属内における推進者の負担が大きく、多少やらされ感がある。
- ・アセッサーが博物館運営に関する専門家でないため、評価内容が一般的なものとなる。
- ・所属単位での取り組みに温度差がある。
- ・業務改善や改革案が、次年度の予算議論に反映できないもどかしさがある。
- ・アセスメント結果がどのように業務改善に繋がったかを検証すべきであるが、現段階では時間的にその余力が無い。そのため、次年度の諸活動を進める中で実証していくほか無い。

#### 今後の展望

- ・具体的な取り組みを進めるためのツールとしての率先実行取り組みと、改善課題に気づくためのツールとしてのアセスメントは今後とも必要と思われる。
- ・毎年行う所属内でのセルフアセスメントと3年に1回の部局内でのアセッサーによる外部アセスメントのほかに、専門家や地域住民を含む第三者による外部アセスメントも必要に

なってくるであろう。

#### **確認質疑**

(1) 政策評価システムは県全体に行き渡っているのか。

県組織全体で評価の取り組みが行われている。

(2) 学芸部門独自の評価項目はどのように扱われているのか。

所属の改革方針（率先実行取組）の中で、館独自の評価項目を立てている。

(3) 知事部局所管となった経緯は何か。

県は新博物館をつくろうとしており、総合的取り組みを推進するためである。また、首長部局の方が予算を取りやすいこともある。図書館なども全て平成 20 年度から知事部局の所管となった。

(4) 直営館であることから気づいた評価制度の問題点は何か。

評価制度は各所属の強み・弱みを明らかにし、改革のためのツールとして導入されたものである。当館は史跡斎宮跡の継続的な発掘調査も実施するなど、独自の性格を有しており、評価結果を単純に多館との比較に用いることはできない。

(5) 三重県が進めている改革の意味はどう受け止められているか。

よかったと思う。その最大のものは情報公開で、改革の意義は浸透している。

# 平成 19 年度 教育委員会事務局外部アセスメント審査報告書

対象所属 齋宮歴史博物館

## 1. 総括評価

齋宮歴史博物館は、次の3点をミッションとして掲げ、業務に取り組んでいます。

齋宮の発掘調査や文献研究の推進

研究に基づく、史跡齋宮跡の整備・公開や展覧会の実施、齋宮についての情報発信  
地域や県民そして全国に親しまれる博物館

博物館は史跡齋宮跡に立地し、「齋宮」をテーマにした全国で唯一の博物館として、専門的立場から齋宮跡の保存活用に取り組んでいます。齋宮跡の発掘調査や文献などの資料収集を通して、積み重ねた研究の成果は、常設展示をはじめとして特別展示や講座開催などで情報発信され、来館者の興味・関心に応えています。特別展示や講座などが開催されるごとに訪れる熱心な来館者もあり、こうした来館者の満足度は高く、このことから魅力ある情報発信をしてくれていることがうかがえます。

齋宮跡は全体で137.1haという大きな史跡です。この地域の長い歴史のなかで、発掘調査が開始されたのは、つい最近のことです。土地や建物を容易に現状変更できないといった大きな制約が課されたなかで居住している住民もたくさんおり、博物館が「齋宮跡」の保存・活用といった取組を進めていくためには、こうした地域住民との連携や協力が欠かせません。これまで地域とのよりよい関係を築いてきましたが、特に平成17年度からは地域とともにこれからの齋宮を考える体制づくりを進めてきており、昨年度からは「明日の齋宮を考える会」という検討会も発足させて、協働して進める地域づくりに取り組んでいます。

一方では、地域住民であっても「齋宮」に無関心な層がいることや、県内における認知度も高くないことなど、博物館としても「地域や県民そして全国に親しまれる博物館」を実現するうえでの大きな課題として認識しています。

また、平成20年度からは、知事部局生活・文化部と教育委員会との共管となることが予定されており、県がめざす「文化力」の発信を支える存在として、これまで以上に県民にとっての身近な博物館として浸透することが求められています。

こうした状況を踏まえ、今回のアセスメントにあたっては、

客層や顧客満足度を把握したうえでの博物館運営

「齋宮」認知度の向上と地域との連携<地元から親しまれる博物館>

職員個々の能力の結集による組織体としての調査研究と博物館活動の充実

の3点を齋宮歴史博物館の重要成功要因（組織をよりよくしていくうえでの重要な方向

性)と考へ、審査を行いました。

齋宮歴史博物館では、限られた予算・人材のなかで、サービスの向上と収蔵資料の充実などに取り組んでおり、齋宮歴史博物館の運営というだけでなく、齋宮跡を中心としたまちづくりを見据えて、地域と連携して業務に取り組んでいます。一方で、地域住民であっても「齋宮」に興味がなく親しみを感じない人の存在や、県内での知名度の低さなどを課題として認識しており、今後はそうした人々にも関心を持ってもらう働きかけが重要であると考えます。

## 2. 強み

### 全国唯一の「齋宮」をテーマとした博物館

博物館は、全国唯一の「齋宮」をテーマとした博物館としての独自性を、個々の職員が認識し、高い専門性を発揮しているといえます。テーマがはっきりしており、発信すべきことも明確で、職員が博物館の目指すものを共有しやすい環境にあります。「ここにしかない」博物館としての認識と、博物館建設以前からの長期にわたる発掘調査や文献研究などに裏付けされた個々の職員のスキルや知識が、博物館の活動を支えています。こうした中での、団体来館者や希望者のための学芸員の解説は、来館者の満足度向上に効果があるものと評価されます。また、全体で見れば少数ではありますが、何度も訪れてくれる来館者の存在は、博物館がこれまでの研究の成果を活かして、より親しみやすい情報提供に取り組んできた結果と言えます。

### パートナーとの連携

齋宮歴史博物館がその使命を果たしていくためには、地域との連携が不可欠です。明和町をはじめ、財団法人国史跡齋宮跡保存協会や、明和町観光協会など、多くの関係団体とともに、地域住民との意見調整や、史跡の整備・保存、博物館の運営などに取り組んでいます。今後、博物館が調整機能を果たし、齋宮跡を中心として地域に根ざしたまちづくりを進めていくために、これまでのパートナーとの関係が大きな土台として評価されます。これまで以上に密接に連携しあい、双方にとってますますよい関係となることが期待されます。

## 3. 改善に向けての提言

### 顧客の把握と客層を広げる取組

博物館が目指す姿を実現するためには、「齋宮」「齋王」自体の認知度向上を目的とした取組をより充実させることが必要です。効果的な広報のためには、現在の顧客の把握が重要であるといえます。現在、顧客満足度の把握は、特別展示や講座などに訪

れる来館者について実施されていますが、来館者全体のニーズや満足度の把握はなされていません。必要に応じて、外部の力も活用しながら、客層やその満足度、また要望や意見を聞き、それらを分析したうえで、客層を広げる活動を進めることが望まれます。

また、長期的には、新聞、テレビ、書籍など、あらゆるマスメディアを活用して「齋宮」「齋王」の認知度向上を図る仕掛けを続けていく必要があります。

### 地域住民の関心度向上とボランティア活用

地域により親しまれる博物館を実現するために、地域住民の関心や興味を高めることが重要です。特に、将来を担う地域の小中学生は未来の顧客であるとともに、地域の文化財のよき理解者として地域に誇りを持つる人に育つ必要があります。現在、進めている町内の学校への出前授業だけでなく、町外の学校へも、こちらから働きかける取組をさらに進めることも有効なのではないでしょうか。こうした出前授業においても、伝えるべきことを整理し、授業の方法を共有するなど、工夫次第で、ボランティア（地域住民）の活躍が期待できるのではないかと考えられます。

### 組織の人材育成と対話の環境づくり

業務を進めるうえで、職員同士の対話や情報共有は大切です。それぞれの課の中では、日頃から情報共有や対話がなされているようです。しかし、一方で、今年度実施した事務局職員満足アンケートによると、「情報共有が十分でない。」「個々の職員の能力向上は自己の責任で、といった雰囲気がある。」などの意見も見られます。

専門性の高い業務においては、個々の職員が高い専門性を有しているがゆえに、個人の能力に頼ってしまう部分が見受けられます。個々の職員はプライドと意欲をもって仕事に取り組んでいますが、組織の人材育成のために、齋宮歴史博物館の職員として必要なスキルや知識などについて、全体として振り返ることも有効ではないでしょうか。

館をあげて、優先的に取り組むべき課題については、全職員が共通認識をもって、日々の業務にあたる必要があります。そのためにも、これからの博物館の方向性、何を大事にしていくかなどについて、全職員が納得していることが大切です。少人数であればあるほど、「言ったつもり」になりがちですが、職員同士のコミュニケーションはいくらしてもしすぎるといことがありません。必要に応じて、館長等幹部職員も交えて、全職員による情報共有や意見交換を充実させてはいかがでしょうか。勤務体制によって全員が集まれる機会が少ないとは思いますが、回数を重ねるなどの工夫も可能であると考えられます。幹部職員だけでなく全職員が意見を言いあえる対話の場づくりがさらに期待されます。

組織プロフィール

記述項目	記述内容			
1 ミッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 斎宮の発掘調査や文献研究を推進する。</li> <li>・ 研究に基づき、史跡斎宮跡の整備・公開や展覧会を実施し、斎宮についての情報発信を行う。</li> <li>・ これらの活動を通じて、地域や県民、そして全国に親しまれる博物館づくりを目指す。</li> </ul>			
2 価値を提供する相手方（顧客）について 相手方の区分	斎宮跡来訪者	地域住民	一般県民	（史跡全体）
現在の要求・期待	斎宮に関する情報の取得と快適な史跡観光を楽しむこと。	史跡斎宮跡の保存と生活環境整備とが調和の取れた地域の活性化	斎宮に関し、興味が持てる情報提供とそれを簡単に知る方法の充実	その潜在的な意味を重視しつつ、現在までの解明部分を明らかにする。
要求・期待の将来変化	リピーターとして訪れた時の前回とは異なる楽しみ方の提示を望むようになる。	斎宮跡を核としたまちづくり活動のなかで、斎宮跡や博物館を活用する機会・希望の増加	情報発信体制の充実とその質的向上を望むようになる。	今後の活用、未来の保存技術への視座など、よりよい形での継承。
3 所属を取り巻く環境について	<p>税収減や交付税の削減など、地方財政は依然として厳しい状況下であり、運営経費の削減は、県民サービスの低下、ひいては入館者数に影響が出ている。指定管理者制度導入の動きもこうした現状と呼応するものである。</p> <p>一方、こうした博物館の危機的状況から脱却するため、博物館の使命や活動を県民に説明するとともに、地域に根ざした博物館づくり、市民とともに創る博物館づくりを模索しており、地域との連携展、地域住民との協働による斎宮を核としたまちづくり実践活動等に参加するなど、地域貢献を意識した活動が展開し始めている。</p>			
4 人材育成について	<p>斎宮という極めて特殊で専門性の高い制度・組織についての調査研究ができ、それを県民にわかり易く伝えることができる人材が求められているため、長期的な視野でバランスのとれた人材育成が必要である。しかし、不定期な人事異動等により人材育成計画に支障が出る場合もしばしばある。</p>			
5 パートナーについて 主要なパートナー	明和町	国史跡斎宮跡保存協議会	（財）斎宮跡保存協会	明和町観光協会
パートナーとの関係の 将来変化	史跡管理に留まらず、史跡を活かしたまちづくりに町としても主体的に取り組むことを期待する。	史跡の保存・活用、町づくりについて協働で進めることにより、史跡継承の最大の理解者・推進者に成り得る	史跡の管理、いきのみや歴史体験館の管理・運営を町から委託された指定管理者。なおいっそうの高い専門性と自立化が求められる。	斎宮観光ボランティアの管理主体。当館との連携協力を進めることで、ボランティアの質的向上や説明範囲の拡大が期待される。

<p>6 組織としての基本的な取組方向について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齋宮跡の発掘調査を継続的に行い、その調査結果に基づき史跡整備を行う。特に整備・活用が遅れている史跡東部については、平成 25 年の式年遷宮を念頭に置いて整備を進める。</li> <li>・館蔵情報の整理、大学等との連携、学芸員のスキルアップなど、研究基盤を整備し、質の高い研究成果の公開・活用を維持する一方、齋宮に興味関心の薄い県民層に対して、来館の動機付けを促す広報活動を展開する。</li> <li>・「新しい時代の公」に立脚した地域の「文化力」向上に貢献するため、「齋宮を核としたまちづくりプログラム」の推進母体である「明日の齋宮を考える会」を支援し、博物館が地域住民に愛着のもたれる館になるようにする。</li> <li>・職員間で情報共有を行い、能力向上を図るとともに、日常業務・制度中のリスクの顕在化防止や危機発生後の迅速かつ適切な対応に努める。</li> </ul>
<p>7 その他情報 「価値」提供の相手方 数 職員数</p>	<p>県民（0歳から5歳を除く）及び他都道府県の利用者（過年度の平均利用者） 177万人 + 55万人 = 232万人</p> <p>正規職員12人、業務補助員7人</p>



平成19年度所属の改革方針(率先実行取組)の評価表

所属名 齋宮歴史博物館

行動計画	目 標	達成状況・評価結果		成果や課題、今後の方針
		中間評価 (9月末)	最終評価 ( )見込	
1 齋宮の認知度・関心度の向上				
(1) 研究成果の情報発信 専門職員の論文・学会等での発表 回数	1人年間1回 以上 (9回)	2回	8回	紀要等年度後期に成果が上がる傾向がある。
(2) 博物館の学校利用の促進 博物館利用学校数	65校	31校	53校	総じて遠足の近距離化が指摘されており、市立博物館等に比べると不利ではある。
(3) 博物館資料の活用機会の拡充 常設展示の様式替え実施回数 エントランスホール展示替え回数	5回 5回	3回 5回	5回 7回	発掘速報や季節ごとにテーマを決めての更新により新鮮さを心がけている。
(4) 多様な企画展示の実施 博物館年間利用者数 特別展関連事業利用者数	70,000人 6,500人	31,208人 1,881人	62,392人 4,216人	2年目のお木曳き団体の客足が伸びず、夏休みは地域の問題を狙ったが猛暑で厳しかった。
(5) 明和町内小学校への出前授業 実施する小学校数 参加者総数	6校 200人	延べ8校 519人	延べ10校 504人	ほぼ全小学校達成済み、三年生・五年生に幅を広げて活用してくる学校もある。なお、明和中200人の出前授業も行った。
(6) マスメディア・ホームページの活用 博物館資料掲載回数 ホームページアクセス件数	25回 40,000件	18回 24407件	51回 48,392件	順調に推移しており、発掘情報なども含めた新しい展開が功を奏している。

行動計画	目 標	達成状況・評価結果		成果や課題、今後の方針
		中間評価	最終評価	
2 発掘調査成果に基づく史跡整備の促進				
(1) 史跡整備予定地発掘調査の実施 柳原区画（中院想定地）の発掘調査 実施面積	2,420㎡	2,373㎡	3,019㎡	平成 21 年度に予定している整備基本計画の策定に向け、できる限り発掘調査を促進したことにより、整備のための基礎データを蓄積できた。
奈良古道の確認調査面積	100㎡	未着手	140㎡	
史跡東部（中院想定地・区画道路・内院の一部）における発掘調査率	47.4%	47.2%	49.9%	
(2) 中院想定地の整備手法や活用の検討 検討会の開催	2回	未実施	2回	活用を踏まえた整備に関し、基本的な考え方を整理することができた。
(3) 発掘調査現場の利用促進 発掘ガイドによる現場説明者数	300人	104人 （その他利用者436人）	223人 （その他利用者1,439人）	7から9月は猛暑のため、現地見学の需要は少なかったが、HP上での発掘進捗状況の公開、説明看板や幟の設置、体験発掘等、利用促進を図ったことにより利用者は大幅増加。
3 地域住民に愛される博物館づくり				
(1) 「明日の斎宮を考える会」を中心とした協働によるまちづくり実践活動の推進 「明日の斎宮を考える会」を中心とした実践活動回数	8回	4回	11回	街道調査・斎宮紙芝居の作成など、地域とタイアップした活動が始まり、11月からは明和町企画課、県景観まちづくり室が加わり、活動体制が強化された。
(2) 地域交流事業の実施 いつきのみや梅まつりの開催 参加者数	1回 2,000人	未実施 -	3/2開催 2,500人	
(3) 歴史体験事業の実施 新暦展示及び旧暦体感週間期間中の入館者数 講座「斎宮の四季」（4回）参加者	6,000人 280人	5,546人 38人 （1回分）	10,973人 （3/9現在） 138人	体験館内を季節を感じられる歴史空間として演出でき、来館者に好評であったが、これに伴う講座参加者数は延びなかった。

行動計画	目 標	達成状況・評価結果		成果や課題、今後の方針
		中間評価	最終評価	
(4) 顧客ニーズ、満足度の把握 顧客満足度	平均 85%以上	平均 80%	平均 83%	
4 職員間の情報共有と能力向上				
(1) 情報共有 研究連絡会議の開催回数	6 回	3 回	6 回	その他全体会議が二回ほどある。
(2) 能力向上 外部研修参加回数 学会・研究会への自発的参加回数 庁内外で開催される研修会への参加 回数	1人2回以上 合計20回 1人1回以上	1回 10回 11回	2回 20回 28回	個々の職員の積極的な研修等への参加により、スキルアップが図られた。
(3) 所属長等との対話の促進 各職員との対話	2 回	2 回	2 回	学芸普及課職員との対話で斎宮の情報発信強化策について話し合い、その成果はイオン明和での広報活動として率先実行された。
(4) 危機管理 危機管理に関するオフサイトミーティングの回数	2 回	2 回	2 回	あらゆる危機に対応するため、斎宮歴史博物館危機管理マニュアルを改訂した。

## カテゴリー1 所属長のリーダーシップ

### 《ポイント》

所属長は、所属のミッションや重点目標を明らかにし、職員がそれに向かって取り組むよう、リーダーシップを発揮しているか。

- 1 各事項について、あなたの所属の現状を評価し、A～Dの該当する欄に 印を付してください。  
「取組状況」欄には、A又はBと評価した場合、具体的取組内容を箇条書きで記載してください。  
C又はDと評価した場合は、取組の阻害要因があれば記載してください。

《凡例》 A...できている。  
B...概ねできている。  
C...どちらかというとできていない。  
D...できていない。

	事 項	A	B	C	D	取 組 状 況
1	所属のミッション(目指すべき方向性、取り組むべき基本的な行動・役割)や重点目標が明確に示されていますか。					「所属の改革方針」として明確に示されている。但し、18年度のもの全体を見直してはいない。
2	所属長は、所属のミッションや重点目標をわかりやすい方法で、所属職員に浸透させていますか。					各課単位で情報の共有が図られた。
3	所属長は、所属のミッションや重点目標を重要な関係者(他部署の職員、各学校、市町村教委、県民等)にわかりやすく伝え、その共有を図っていますか。					所属長による積極的な活動はみられない。
4	所属長は、所属のミッションや重点目標が所属職員にどの程度浸透しているかを把握していますか。					幹部職員(課長以上)は把握しているが、一般職員については、浸透度を計るシステムがないため、把握は十分でない。
5	所属長は、重点目標の達成度を定期的に確認し、課題の検討を行い、改善につなげていますか。					不定期ではあるが、課長会議で達成状況、課題の確認、改善等について対話もたれている。職員にも連絡会議で伝達されているが、改善に向けた議論は十分ではない。
6						

- 2 1の結果をふまえた気づきを記述してください。

#### 【 強 み (良 い 点) 】

所属長は強いリーダーシップを発揮される方ではないが、斎宮歴史博物館のPRや財源確保のため、イオン明和でのピラ配り、メディアや企業等への協力依頼など、今までにない分野に能力を発揮している。

#### 【 弱 み (改 善 点) 】

本館は、各課が分散・個室化しているため、組織全体を見渡しにくい状況にある。また、発掘現場が忙しい調査研究課では所属長と対話する時間の確保もままならない状況である。そのため、所属長自ら各課に出向く機会を増やし、コミュニケーション不足を補えるよう努める。また、課長会議の結果をまとめ全員にメールし、周知を図る。

- 3 別紙の評点ガイドライン(方法/展開)にてらして自己評価を行ってください。

0	1	2	3	4	5

## カテゴリ 2 組織の社会的責任

《ポイント》  
 所属職員一人ひとりの倫理観を高めるとともに、県教委が地域社会から信頼されるための取組を行っているか。

1 各事項について、カテゴリ 1 と同様の要領でご記入ください。

	事 項	A	B	C	D	取 組 状 況
1	県民に開かれた組織運営となるよう、情報提供を積極的に行うなど、透明性の確保に向けた取組を行っていますか。					・情報提供システムや博物館ホームページ等により、積極的に情報公開に努めている。
2	本来行うべき教育行政サービス以外に、県教委が県民・地域から何を期待されているか明確にキャッチしていますか。					・アンケート等の実施のほか、国史跡齋宮跡協議会の意見聴取、博物館友の会、齋宮ガイドボランティアなどの情報交流によってリサーチを行っている。
3	所属職員一人ひとりの倫理観の高揚に向けた取組を行っていますか。					・倫理に関わる新聞情報を共有化し、全員に周知している。
4	地域との連携を進めるための取組を積極的に行っていますか。(本庁の所属については、「県民との連携を確保するための工夫」と読み替えてください)					・「新・明日の齋宮を考える会」の一員として積極的に参加しているほか、協働で行う地域の梅まつりなど、地域との連携交流を行うことで親密性を高めている。 ・この他、町中央公民館への出前講座、地域の小学校への出前授業、ボランティアの育成等を実施。
5	所属が社会的責任を果たすにあたり、目標を設定するとともに、達成状況に応じ、改善活動を行っていますか。					・率先実行取り組みとして目標設定、進捗管理、改善活動を行っているが、職員全員への浸透度はまだ弱い。

2 1の結果をふまえた気づきを記述してください。

【 強 み (良 い 点) 】

館全体として、常に外部から見られているという意識が共有化されているために倫理観は総体が高い。また博物館の役割として、博物館が有する知的財産を地域の文化力向上に貢献すべきとの意識が強くもたれており、これに基づく諸活動が展開されている。

---

【 弱 み (改 善 点) 】

本来の目標設定とは何かを時間をかけて再考する必要がある。

3 別紙の評点ガイドライン(方法/展開)にてらして自己評価を行ってください。

0	1	2	3	4	5

### カテゴリー3 顧客の理解と対応

各所属は行政サービスを行うことによって独自の「価値」を生み出しています。「顧客」とは、この「価値」を提供している相手方を総称したもので、具体的には、「組織プロフィール」の「2」で整理した「相手方」がこれに該当します。

《ポイント》

所属は「顧客」の新たな要望や期待を発見しつづけているか。  
 所属は「顧客」とのコミュニケーションの機会を増やし、信頼関係を築いているか。  
 所属は「顧客」が所属の行うサービスにどの程度満足しているかを把握しているか。

1 各事項について、カテゴリー1と同様の要領でご記入ください。

事	項	A	B	C	D	取組状況
1	「顧客」の現在及び将来にわたる要望・期待を、具体的に把握し明らかにしていますか。					「顧客」と直接、接する機会が多いため、要望・期待が把握された時点で、その都度、復命あるいは供覧により情報共有を図っている。
2	「顧客」から意見や苦情を積極的に述べてもらうため、対話の場づくりなど工夫を行っていますか。					「お客さまの声」箱を設置しているほか、受付・メール・アンケートなど、窓口はしっかり開いている。また、地域住民に対しては国史跡齋宮跡協議会を通じて意見を聴取しているほか、友の会やガイドボランティアは重要な意見窓口である。
3	「顧客」から意見や苦情があった場合に、速やかに対応する仕組みがありますか。					主たる窓口である学芸普及課を通して、すぐに情報共有を図り、調査研究課、総務課との連携に齟齬が生じないように努めている。また地権者からの苦情等については、町齋宮跡課を通じて情報を収集し、速やかな対応に努めている。なお、対応結果を公開するシステムはない。
4	「顧客」との信頼関係を高めるため、情報提供を積極的に行うなど、コミュニケーションの確保に関する取組を行っていますか。					情報提供システム、博物館ホームページ、各種チラシ、掲示板、雑誌への情報提供等により、積極的に情報提供を行っている。
5	「顧客」が所属の行う行政サービスにどの程度満足しているのか(満足度)を定期的に把握していますか。					各種講座等でのアンケート調査により把握されているが、博物館の施設や運営に関する定期的な満足度調査は行われていない。なお、もの言わぬ顧客の不満足要因を知るすべはない。
6	「顧客」の満足度を高めるためには何が重要であるかを分析し、改善に向けた取組を行っていますか。					アンケートは行っているが分析不足。団体などの意向調査など、こちらが知りたいことをきける工夫が必要。改善例としては、発掘現場を訪れる顧客のため、ホームページ上でのこまめな情報提供、ガイドボランティアの育成、現地看板

2 1の結果をふまえた気づきを記述してください。

<p>【強み(良い点)】</p> <p>博物館来館者や発掘現場来訪者と直接接する機会が多く、常に顧客の要望を把握できる環境・体制ができている。これを生かしてよりフレキシブルな顧客サービスが可能である。一方、史跡(調査現場)という成果が極めてわかりやすい素材を提示することも強みであり、新しく発掘現場を案内できる体制・システムが作られた。</p>
<p>【弱み(改善点)】</p> <p>博物館の根幹である史跡の研究と活用については、史跡自体が顧客だとする意見もあるように、顧客認識が複雑で、現在の利用者の利便のみでは計れず、史跡を後世に伝えていくという意識のもとに顧客満足を考えていく必要がある。顧客の理解には限界があるという認識のもと、システムのどう改善していくかが課題である。</p>

3 別紙の評点ガイドライン(方法/展開)にてらして自己評価を行ってください。

0	1	2	3	4	5
---	---	---	---	---	---

**カテゴリー4 実施計画の策定と展開**

《ポイント》  
 所属は、ビジョンの実現に向けての実施計画を策定しているか。  
 所属職員一人ひとりが、実施計画に基づき具体的に行動しているか。

1 各事項について、カテゴリー1と同様の要領でご記入ください。

事 項	A	B	C	D	取 組 状 況
1 所属におけるビジョンの実現のため、重点目標を明確にして、中長期的な実施計画を策定していますか。また、その着実な推進のため、1年程度の短期的な実施計画を策定していますか。					「所属の改革方針」として策定されている。但し、中長期的計画については、担当の交代等による変更もありうるので立てにくい状況にある。
2 実施計画の策定にあたり、自らの所属の現状と課題、「強み」と「弱み」を明らかにし、計画に反映していますか。					現状と課題を踏まえて実施計画が立てられるのは当然であるが、博物館では個人の能力や専門性が大きく影響するほか、予算面での制約等で反映できないこともある。
3 実施計画に、「顧客」の要望、社会情勢などの情報を十分に反映させていますか。					2006年3月の「博物館運営改革に関する調査研究報告」に基づき、他機関や地域との連携を意識した「新しい時代の公」型取組が始まっている。
4 実施計画を策定する際には、所属職員の参加を求め、その意見を反映し、実現可能な計画としていますか。					単年度的には行っているが、長期的な視野に欠ける。
5 実施計画には、具体的な達成目標を掲げていますか。また、その進捗度を定期的に把握していますか。					幹部会で、9月末時点の進捗度について確認が行われ、その後職員にも研究連絡会議で情報共有が図られたが、通常は課単位で進捗管理している。
6 個人レベルまで実施計画を浸透させ、所属職員一人ひとりが計画内容を理解し、行動できるようにしていますか。					課単位では、個人レベルまで計画内容を理解し、行動できているが、他課や課を超える案件については十分に把握できていない。
7					

2 1の結果をふまえた気づきを記述してください。

【 強 み (良 い 点) 】  
 学芸業務や発掘調査は年度計画があるのは当然。長期的な視野も意識はしている。

【 弱 み (改 善 点) 】  
 遷宮あるいはまだ具体像の見えない「美し国三重づくり」を視野に、これらとどう連携して齋宮を全国に情報発信していくかなど、具体的な目標に向けての中期計画を、博物館総体としてどのように企画・立案・実施していくのかの話合いが十分に持たれていない。調査と整備、展示計画、大規模改修など館全体の中期的展望が必要と思われる。

3 別紙の評点ガイドライン(方法/展開)にてらして自己評価を行ってください。

0	1	2	3	4	5

**カテゴリー5 人材育成と組織能力の向上**

《ポイント》

所属職員のやる気を引き出し、組織全体の能力を高める取組を行っているか（誰が？）。  
 ビジョン実現に向けた所属職員の能力開発に積極的に取り組んでいるか。  
 所属職員の満足度を把握しているか。

1 各事項について、カテゴリー1と同様の要領でご記入ください。

事 項	A	B	C	D	取 組 状 況
1 「目指す組織像」の実現のために、所属職員にどのような資質・能力が必要であるかについて、具体的に明らかにしていますか。					明記したものはない。 今一度、斎宮の学芸員とはどういう職種なのか、という自己定義が必要である。
2 所属全体の能力を高めるため、職員同士の相互学習をはじめ、OJT研修を日常的に行っていますか。					研究連絡会議を通じて情報共有や職員相互の学習が深められているほか、意識はされていないものの上からのOJT、下からのOJTが行われている。
3 所属職員のやる気につながるよう、先導的な役割を果たしている職員にインセンティブを与える工夫を講じていますか。					特に工夫は講じられていない。
4 職員一人ひとりの能力開発に関するニーズを把握したうえで、計画的に所属職員の専門能力を育成していますか。					一部、文化庁研修など、所属として必要な職員の専門能力をつけさせる派遣があるが、多くは職員個々の能力開発は、個々の意思に委ねられている。
5 正規の職員だけでなく、業務補助職員等の能力向上に取り組んでいますか。					OJTにより個々の能力を高めている。
6 仕事内容、健康・安全、職場環境などに、所属職員がどの程度満足しているのか（職員満足度）を定期的に把握していますか。					事務局職員満足度調査（地域機関）と職場巡視（年1回）を実施し、満足度の把握を行った。
7 所属職員の満足を増進させ、不満足を解消する取組を行っていますか。					職員満足度調査で不満足要因を把握できたものの分析・対応についてははまだである。
8					

2 1の結果をふまえた気づきを記述してください。

**【 強 み（良い点） 】**  
 職員個々には、能力開発や専門性向上のために、積極的に自己研鑽したいという意欲が認められる。

**【 弱 み（改善点） 】**  
 個々人の満足感がどのように達成できるのか、という基準が極めてあいまい。斎宮歴博の職員であることによる自己実現の目標とは何かを考えていく必要がある。しかしインセンティブを与える工夫などをしていく時間的余裕がない。  
 要するに、現実には個人の技量頼みであるので、何とか組織としてのバックアップ（人材育成や環境整備）が望まれる。

3 別紙の評点ガイドライン（方法／展開）にてらして自己評価を行ってください。

0	1	2	3	4	5



**カテゴリー6 仕事の進め方**

《ポイント》  
 所属は「顧客」の満足の視点から仕事のやり方や手順を常に見直しているか。  
 所属に関わる全ての関係者と目標を共有し、よきパートナーとして取組を行っているか。

1 各事項について、カテゴリー1と同様の要領でご記入ください。

事	項	A	B	C	D	取組状況
1	仕事の進め方を決める際、「顧客」の要望・期待や職員の能力を踏まえて決定するよう工夫していますか。					顧客とのフェイス・トゥ・フェイスを心がけている。 仕事の事務分掌や仕事の分担を決める際、職員の能力は大きな要素である。
2	総勤務時間縮減、費用対効果等の観点から、職員一人ひとりが仕事の進め方の改善を行うことに、所属全体で取り組んでいますか。					個々人の努力に任されているため、問題点の洗い出しには至っていない。無駄と手厚さ、能率の粗雑の基準値が明確ではないので、判断が難しい。
3	所属内で、臨機応変に相互応援体制をとるなど、多様な課題に組織的に対応する仕組みがありますか。					基本的な応援体制と認識の共有がある。 ただ、日直体制など、すべての課題に対して対応体制ができていないわけではない。
4	仕事の途中で問題が生じた場合に、迅速かつ確かな対応を図るとともに、問題の根本原因を追究し、再発・未然防止策を講じる取組を行っていますか。					各課とも迅速な相互補助体制は構えている。 問題が生じた場合は、関係者間で原因を追究し、適切な処理を行っている。
5	無駄な会議の廃止、会議の進め方の迅速化など、「会議の効率化」に関する取組を行っていますか。					会議回数の縮減や会議時間の設定等により迅速化を図った。但し、一般職員からは意見を聞いてくれる場が減ったとの意見もある。
6	事故、事件、災害等のリスクに対し、迅速かつ適切な対応が所属全体として行えるよう、役割分担を明確にして、所属職員に徹底していますか。					すべての危機・リスクに対応できるよう危機管理マニュアルを改定するとともに、課単位でテーブル訓練等を通じて危機発生時の行動について話し合いをもった。 なお、日直体制時の危機管理については課題が残っている。
7	県組織内の他の部署との緊密な連携を確保する仕組みがありますか。					斎宮及び伊勢街道を基軸とした景観まちづくりについて景観まちづくり室、観光交流室と連携して進めている。
8	市町村、教育関係団体などのパートナーとの協力関係が重要であることを理解し、協力関係を強化するための取組を所属全体で行っていますか。					明和町や関係団体との緊密な関係を各課とも心がけ、実践している。 ・史跡斎宮跡の保存・活用 ・出前授業、学校団体の受け入れ ・まちづくりを考えたり、協働イベントの開催など ・斎宮ガイドボランティアの育成と活用
9						

2 1の結果をふまえた気づきを記述してください。

**【強み（良い点）】**  
 斎宮や伊勢街道の景観づくりを住民や行政が協働で考え、活動していこうという動きや、ガイドボランティアによる発掘現地案内など、「新しい時代の公」に基づく行政運営が図られつつある。

**【弱み（改善点）】**  
 リスクマネジメントや職員一人ひとりの仕事の改善などには課題が残っている。顧客の規定の問題や人材育成の問題と連動しての検討が必要である。勤務の質の向上とそれに見合った総勤務時間の体制などを評価していく仕組みが県庁自体にないのも問題である。

3 別紙の評点ガイドライン（方法/展開）にてらして自己評価を行ってください。

0	1	2	3	4	5
---	---	---	---	---	---

## カテゴリ7 情報の管理と活用

《ポイント》

所属は、情報・データを有効に収集、分析、共有、活用しているか。  
 情報インフラを情報公開や業務効率の改善に活用しているか。

1 各事項について、カテゴリ1と同様の要領でご記入ください。

事	項	A	B	C	D	取 組 状 況
1	所属のマネジメントに必要な情報・データを的確に収集していますか。					情報収集が個人的であり、組織として必要な情報をだれが、どのように集めるのかといったところが明確でない。
2	ベンチマーキングなど優れた取組を行っている事例の研究を積極的に行い、所属のマネジメントの改善に活用していますか。					調査研究課は遺跡の保存・活用について文化庁や他県から積極的に情報を得ている。学芸普及課も各種研修会など、積極的に参加し情報収集に努めている。
3	収集した情報・データを分析して、所属のマネジメントの改善に活用していますか。					情報を分析し改善につなげるシステムがない。なお、博物館を取り巻く社会情勢や各館の取組については月刊誌『博物館研究』から得ることが多く学芸員の逸品展企画は、この情報が改善につながった。
4	所属にとって必要な情報・データを選び、適切な方法により共有していますか。					所属にとって必要な情報・データが何であるのか明確なコンセンサスが得られていないため、選択的な情報収集ができていない。情報共有については共有ホルダーの活用により一歩前進。
5	収集した情報・データを適正に管理し、必要に応じて更新する仕組みがありますか。					博物館の根幹をなす発掘調査情報(図面・写真類)や所蔵品については適正に管理されている。その他の情報については、共有ホルダーの活用も含めて更新体制を確立していく必要がある。
6	情報・データの管理と活用に関する各種取組について、常に検証し、継続的に改善を行っていますか。					システムとしてできあがっていないことが課題。
7	個人情報の保護について、所属職員に(情報管理や説明責任の意識が)徹底されていますか。					個人情報に関わるものは、適切に管理されており、職員の意識も高い。
8						

2 1の結果をふまえた気づきを記述してください。

<p>【 強 み ( 良 い 点 ) 】</p> <p>情報収集には積極的で、多くの情報が管理されている。また、個人情報保護については組織的な取組により意識が徹底しつつある。</p>
<p>【 弱 み ( 改 善 点 ) 】</p> <p>情報の相互共有と活用する仕組みが乏しく、館総体としての情報利用体制を作っていく必要がある。分析すべき情報とは何か、共有化するのに必要なことは何かという基本的な所から押さえておくことが重要であり、当面の改善策として共有ホルダーの充実が考えられる。</p>

3 別紙の評点ガイドライン(方法/展開)にてらして自己評価を行ってください。

0	1	2	3	4	5

## カテゴリー 8 所属の活動結果

《ポイント》

カテゴリー 1 から 7 のそれぞれの活動について、取組の成果を評価する。

- 1 各事項について、あなたの所属の活動結果を評価し、A～Dの該当する欄に 印を付してください。  
「取組状況」欄には、結果の具体的内容を箇条書きで記載してください。

《凡例》

- A...主要な取組項目に明確な目標を設定しており、大半が改善傾向を示している。  
B...目標設定しているが、達成しているのは一部である。/一部に目標を設定して、目標を達成している。  
C...目標は設定していないが、結果は捉えている。  
D...取組結果を把握していない。/指標がない。

事	項	A	B	C	D	取組状況
1	所属の目指す方向(ビジョン)について、所属職員等への浸透度は上がっていますか。					アンケート調査では、75%が肯定的であり、概ね浸透している(他部署に比べて高い数値)。ただし、説明できない職員も存在する。
2	「率先実行」に掲げた目標は達成できましたか。					27項目中6項目程度達成が難しい。
3	所属として取り組んでいる人材育成は、成果が上がっていますか。					積極的に研修会等に参加するなど、個々のスキルは向上しており、部分的ではあるが博物館の運営に貢献できている。また、斎宮ガイドボランティアの育成により発掘現場の利用度が上がっている。
4	所属職員の満足度は、上がっていますか。					職員アンケート調査では、74%が満足、26%が不満と答えている。教育委員会全体のほぼ平均な数字であり、大半がやりがいを持って仕事に取り組んでいると思われる。但し、過年度の統計がないため、その推移は分からない。
5	仕事の進め方の改善が進んでいますか。					検証する時間的余裕がないのが問題
6	パートナー(県組織の他の部署、市町村、教育関係団体など)との連携が進んでいますか。					当初から史跡斎宮跡の調査・整備・保存はパートナーとの連携なしでは進められない。一方、地域交流担当を置いた平成17年度以降、地域との連携が活発化し、住民主体の街道を基軸としたまちづくりに町や県景観まちづくり室も参画し、軌道に乗りつつある。
7	所属が提供した行政サービスに対する「顧客」の満足度は上がっていますか。					顧客ニーズは多様化しており、すべての顧客の満足度を満たすことには限界がある。なお、史跡来訪者サービスについては、発掘情報の積極的な提供や館が育成したガイドボランティアによる発掘現場案内により向上している。

- 2 1の結果をふまえた気づきを記述してください。

【 強み (良い点) 】

ビジョンの浸透、パートナーとの連携、顧客満足度などについては一定の進展が実感されている。

【 弱み (改善点) 】

人材育成や仕事の進め方について進展の実感が無い。これは、博物館としての業務の総体をどのようなものとするか(何をもちて満足とするか)という意識が共有化されていないことに由来していると考えられる。博物館活動の核になることについて考えていくことが重要である。

- 3 別紙の評点ガイドライン(結果)にてらして自己評価を行ってください。

0	1	2	3	4	5

## ⑤ 流山市立博物館

出席者：館長 川根正教氏

### ○ 館の概要

所在地 流山市加 1 - 1225 - 6

開館日 昭和 53（1978）年 4 月（流山市郷土資料館、1984 年に改称）

運 営 市直営

法区分 登 録

### ① 評 価 の 概 要

目 的：博物館事業に対して内部および外部評価を実施することにより、設置目的を達成させる。評価結果を公表し、公的教育機関として市民への説明責任を果たす。

流 れ：

- (1)自己評価の実施 中心事業である企画展開催（年 2 回）におけるテーマ・内容・展示方法、講座・講演会開催時における内容等について評価し、改善点を明らかにして次の事業に反映させる。年間事業報告書（年報）作成時に評価を行うほか、各職員が担当する業務についても常に評価を行って向上に努める。
- (2)外部評価の実施 来館者の声を積極的に取り入れて、市民の視線からの博物館のあり方を創造する。アンケート調査により評価を行う。（アンケート用紙を添付）
- (3)第三者評価の実施 博物館協議会（学校教育・社会教育・学識経験者で構成）で、事業評価と改善策の協議を行って博物館活動の活性化に努めてきた。また、生涯学習審議会（上記と家庭教育関係者で構成）では、博物館活動を含む生涯学習施策の総合的な推進に関する評価を行う。
- (4)設置者評価の実施 行政評価（事務事業評価）を実施し、博物館経費について有効性・効率性の観点から評価を行う。

評価表（評価項目・指標・評価結果）：表形式での評価は、設置者評価における事務事業マネージメントシートによる。

評価項目〈1 対象 - 対象指標（対象の大きさ）、2 手段 - 活動指標（活動の大きさ）、3 意図 - 成果指標（意図の達成度）、4 結果 - 効率指標（活動単位のコスト）〉を設定し、過去 4 年間と当該年度の 5 年間における指標の推移から、改善策を検討して次年度以降の事業に反映させる。

評価者：自己評価＝博物館職員、外部評価＝来館者（見学者・講座参加者）、第三者評価＝博物館協議会・生涯学習審議会、設置者評価＝教育委員会・市長部局

効率的に行う工夫：実施している評価は既に形式ができており、効率的な評価が実施されている。

公表の有無：自己評価＝年報に統計資料等を掲載、ホームページでも公表。外部評価＝原則として博物館の検討資料とするが一部を公表。第三者評価＝情報公開コーナー、ホームページで公表。設置者評価＝事務事業評価・施策評価を公表。

## ② 経 費

自己評価＝日常業務で対応、年報の用紙代のみ。

外部評価＝アンケート用紙代のみ。

第三者評価＝委員報酬 7,200 円／1 人

設置者評価＝市長部局で措置。

## ③ 評価結果の活用

- ・公の教育機関として行う評価は市民に還元するものであり、活用することが前提と考えている。
- ・学芸部門では企画展のテーマ、内容、展示方法の改善等、管理部門では利用し易い博物館の環境づくりに活かす。

## ④ 利点・効果

- ・博物館職員以外からの評価を行うことにより、利用者や第三者から見た改善すべき点が明らかになる。
- ・地域に密着した博物館として、地域との交流が重要である。市民により開かれた親しみやすい場を提供し、新たな情報を得て、それを広めることによって、さらに利用者の拡大に繋がるサイクルが構築できると考える。

## ⑤ 課題・問題点

- ・博物館評価のうち設置者評価、特に行政評価（事務事業評価）では、上位の施策に対する目的妥当性評価、有効性評価、効率性評価が行われる。博物館法に規定される資料の収集、保管、展示、調査研究が一事務事業として評価されるが、博物館活動には指標化されないもの指標化できないものがあり、総体を評価するものとはなっていない。
- ・博物館活動の総体や重要性をどのように評価するか、その構築が今後の課題である。

## ⑥ 今後の展望

- ・市立博物館であり、行政評価の実施は市民に対する説明責任を果たす上からも当然のことである。
- ・限られた財源の中でより一層の有効性や効果を求めるのが行政評価、行政改革ではあるが、博物館職員自らが来館者の満足度を高め行政サービスを充実させるという意識を持つことが必要である。
- ・生涯学習や街づくりの拠点として、博物館が如何に地域社会の発展に貢献できるかが重要である。そのために、

(1) 出前授業、授業に対応した企画展示などの学校との連携

(2) 団体見学者への展示解説、史跡めぐり、学習会への講師派遣

(3) 社会教育関係団体や観光協会との事業協力、市民との協働による調査研究や展示公開事業の実施

(4) 来館者とのコミュニケーション、レファレンスサービスの充実

などを積極的に推進していくことによって、市民との信頼関係が培われて博物館の社会的存在意義が理解されるようになる。

- ・「見てみよう博物館、参加してみよう博物館！」をキャッチフレーズに30年間にわたって、地域に密着した博物館として運営してきた実績は大きい。
- ・博物館評価とは、博物館自身が掲げる基本理念の達成度を確認し、改善を実施し、活性化を図るためのツールである。

### **確認質疑**

(1) 評価を導入したきっかけは何か。

→ 設置者評価は市長部局が始めた。第三者評価は、設立当初からある博物館協議会（平成20年3月末に廃止、生涯学習審議会を設置）に報告する形を採っている。外部評価は市民に密着した博物館ということから、館全体で取り組んでいる。自己評価は館職員全員で行っており、これを重視している。

(2) 協議会での評価はどのように行われているのか。

→ 第三者評価では、当年度の実績の報告と翌年度の計画を報告し、指摘と助言をもらっている。

(3) 自己評価について、評価の実施を必要と感じる点はあるか。

→ 市民、特に児童・生徒に親しんでもらうための環境づくりが必要である。また、図書館との複合施設であるので、図書館利用者に博物館にも来てもらうための環境づくりにも活かされる。

博物館全体としては、来館者数を数値目標として取り組んでいる。

(4) 図書館に来た人を対象に「なぜ博物館に来ないのか」というアンケートを行っているか。

→ 市全体としての満足度調査は行っているが、博物館独自でそういった調査は実施していない。

## 流山市立博物館来館者アンケート

\*あてはまる番号に○を、必要な所は記入してください。

### [質問1] あなたについておたずねします。

- 性別 1 男 2 女
- 年齢 1 小学生 2 中学生 3 高校生 4 学生  
5 20代 6 30代 7 40代 8 50代  
9 60代 10 70代以上
- 職業 1 会社員・店員 2 公務員・団体職員 3 自営業  
4 役員 5 主婦 6 無職  
7 その他 ( )

### [質問2] どちらから来館されましたか。

- 1 市内 2 千葉県内  
3 その他 ( 都道府県 )

### [質問3] 流山市立博物館の利用状況についておたずねします。(過去1年)

- 常設展示 1 1回 2 2回以上  
○企画展 1 1回 2 2回以上  
○第2展示室を市民が利用できることについて  
1 知っている 2 知らない

### [質問4] 流山市立博物館をご覧いただいた目的は。 \*複数回答可

- 1 歴史に興味がある 2 専門知識を学ぶため  
3 行事に参加 4 図書館に来たついで  
5 出かけたついで 6 新選組で観光に来たため  
7 その他 ( )

裏面にお進みください ⇒

**[質問5] 流山市立博物館をご覧いただいた感想をお書きください。**

[ ]

**[質問6] 流山市立博物館の展示についてうかがいます。**

○現在の展示室についての希望は。 \*複数回答可

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 文字を大きく        | 2 動画や映像を取り入れる |
| 3 人形や模型を取り入れる   | 4 照明を明るくした展示  |
| 5 照明をもう少し落とした展示 | 6 音声ガイドのある展示  |
| 7 その他 ( )       |               |

○今後、企画展等の展示に取り上げてほしいテーマをお聞かせください。

[ ]

○現在は入館無料ですが、有料化についてのご意見をお聞かせください。

[ ]

**[質問7] 流山市立博物館の講座等についてうかがいます。**

○参加されたことはありますか。 1 はい 2 いいえ

○1の場合の講座はなにでしたか。( )

○今後、講座に希望するテーマをお聞かせください。

[ ]

**[質問8] その他ご意見、ご要望があればお書きください。**

[ ]

ご協力ありがとうございました。



皆さんの声を お聞かせください

流山市立博物館をご利用いただきまして誠にありがとうございます。  
ご感想・ご要望等、お気づきの点を どうぞお聞かせください。

平成 年 月 日（ ）

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

★よろしければ ご記入ください

年齢＝（ ）歳代 /お住まい＝ 市内・県内・その他

- \*ご協力ありがとうございました。
- \*ご不明点等ございましたら、事務室にお立ち寄りください。

流山市立博物館

## 企画展「ちょっと昔の暮らし」アンケート

\*あてはまる番号に○を、必要な所は記入してください。

### ●あなたについておたずねします。

- 性別 1 男 2 女
- 年齢 1 小学生 2 中学生 3 高校生 4 学生  
5 20代 6 30代 7 40代 8 50代  
9 60代 10 70代以上
- 職業 1 会社員・店員 2 公務員・団体職員 3 自営業  
4 役員 5 主婦 6 無職 7 その他( )
- 住所 1 市内 2 千葉県内 3 その他( 都道府県 )

### ●この企画展をご覧いただいた感想や、昔の思い出をお書きください。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

## 流山市立博物館 ふるさと入門講座・流山今は昔コース

### 参加者アンケート

\*あてはまる番号に○を、必要な所は記入してください。

**【質問1】 あなたについておたずねします。**

- 性別 1 男 2 女
- 年齢 1 小学生 2 中学生 3 高校生 4 学生  
5 20代 6 30代 7 40代 8 50代  
9 60代 10 70代以上

**【質問2】 「流山今は昔コース」にご参加いただいた目的は。** \*複数回答可

- 1 歴史全般に興味がある 2 新選組について知るため  
3 郷土への理解を深めるため 4 講師が良いから  
5 その他 ( )

**【質問3】 今年度の「流山今は昔コース」の感想をお書きください。**

( )

**【質問4】 流山市立博物館の講座全般についてうかがいます。**

- 今までに参加されたことはありますか。 1 はい 2 いいえ  
○1の場合の講座は何でしたか。( )  
○今後、講座に希望するテーマをお聞かせください。

( )

ご協力ありがとうございました。

## 流山市立博物館来館者アンケートの集計結果について

### 1 アンケートの趣旨

流山市立博物館では、今後の事業を充実させるためには、来館者の皆様のご意見・ご要望を知ることが不可欠であると考えました。そこで展示室入口にてアンケートへのご協力を仰ぎ、来館者の皆様の博物館事業全般に対する声を集めました。

アンケートの内容は別紙1のとおりです。

### 2 調査期日及び有効回答数

- ・調査期日＝平成16年6月1日(火)～平成17年5月29日(日)
- ・有効回答数＝1,546枚

なお、当該期間中の入館者は41,655名であり、第2展示室では下記の催しが行われました。

- ①7月1日(木)～7月11日(日) N H K 巡回展「新選組展」
- ②7月17日(土)～9月19日(日) 企画展「新選組流山に入る」
- ③10月3日(日)～11月28日(日) 企画展「ちょっと昔のくらし」
- ④11月30日(火)～1月30日(日) 小展示「懐かしの流山」
- ⑤2月2日(水)～2月27日(日)

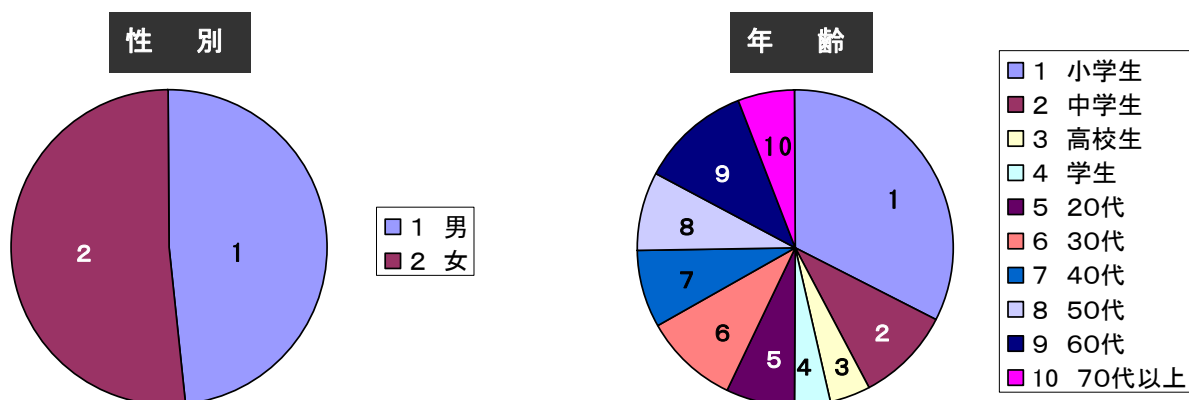
「流山の歴史をさぐる - 発掘情報2005 - 」

- ⑥3月9日(水)～5月29日(日) 小展示「博物館ミニヨン展」

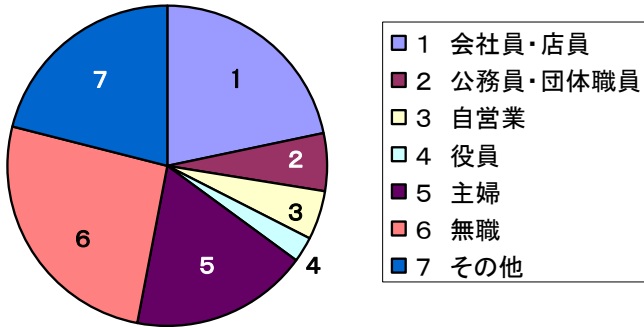
### 3 アンケート結果のあらましと考察

#### ●来館者について

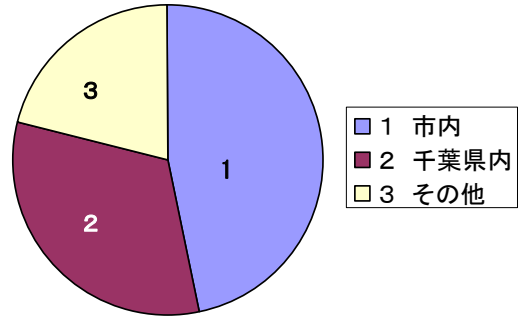
回答は、各世代から男女の別無くお寄せいただきました。そのうち、市内にお住まいの方がほぼ半数を占め、企画展開催期間中を中心に周辺市町村や遠隔地の方も多く見受けられました。



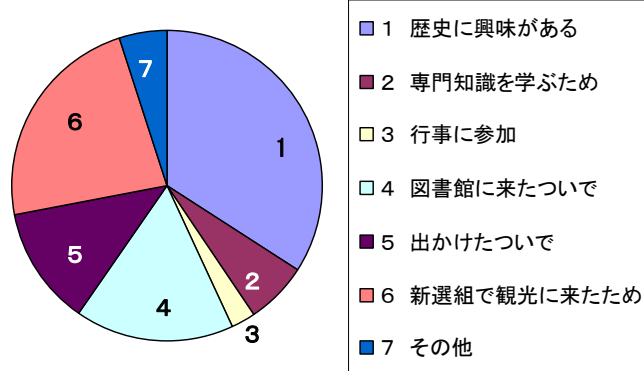
**職 業**



**居住地**



**来館目的**



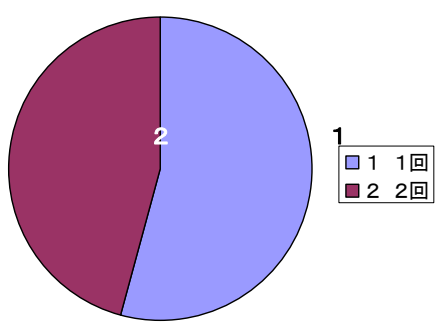
来館の目的は、「歴史に興味がある」「新選組で観光に来たため」の回答が多数を占め、「図書館に来たついで」が続きました。

**● 博物館利用状況**

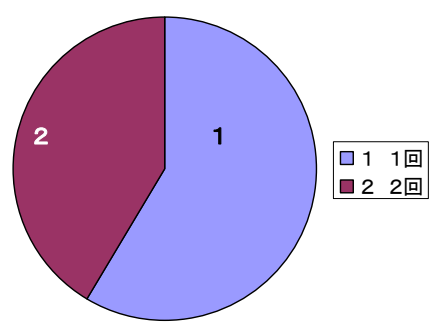
過去1年間の常設展示利用回数は複数回の回答がほぼ半数に及びます。企画展の利用については、複数回の回答比率が下がります。その傾向が、NHK巡回展「新選組展」及び企画展「新選組流山に入る」開催中に顕著だったのは、「遠隔地からの来館者が多かった」「当該企画展が新たな層の来館者を集めた」こと等に起因すると考えられます。

第2展示室の貸出の周知度は3割ほどにとどまり、低いものと言わざるを得ません。

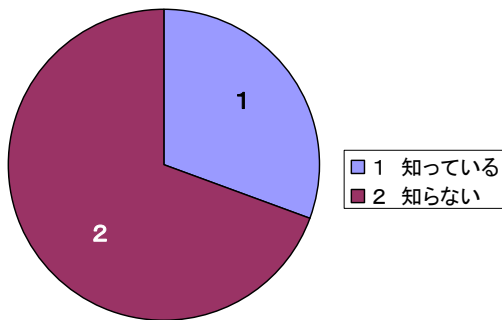
**常設展示の利用**



**企画展の利用**



## 第2展示室の利用

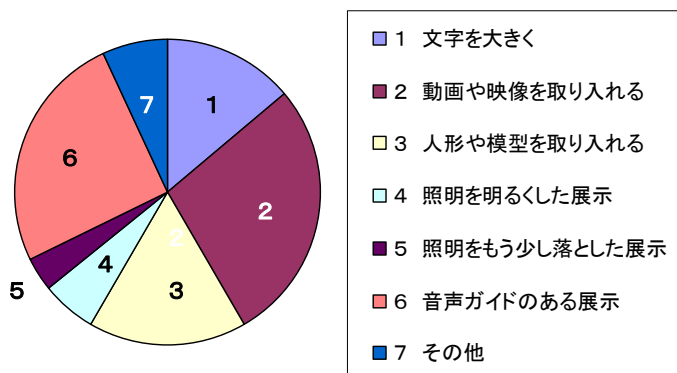


## ●展示室の感想と要望

現在の常設展及び企画展等の催しについて、概ね肯定的・好意的な評価をいただきました。

改善の要望としては、「動画や映像」「音声ガイド」「人形や模型」の導入といった、ハード面の拡充を求めるものが多く見受けられました。また、「体験型の展示」「子供・若者が興味をもてる展示」等を望む声も寄せられました。

## 展示室についての希望



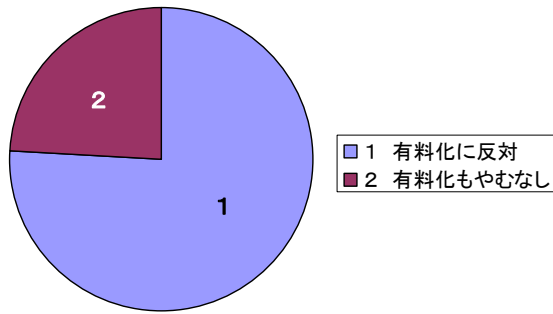
## ●有料化について

かなり高い割合で、有料化に反対する声が寄せられました。「気軽に利用できなくなる」「集客力の低下は、博物館の存在意義自体を揺るがす」等の声のほかに、「寄付を募る」「体験を有料にする」などの対案を示す意見もお寄せいただきました。

有料化を容認する意見も、多くは「施設・展示の更なる充実」を条件に掲げた上での「有料化もやむなし」の段階にとどまっています。提示された額は「100円程度」が散見できます。

有料化を積極的に評価する意見も、少数ではあるもの寄せられました。

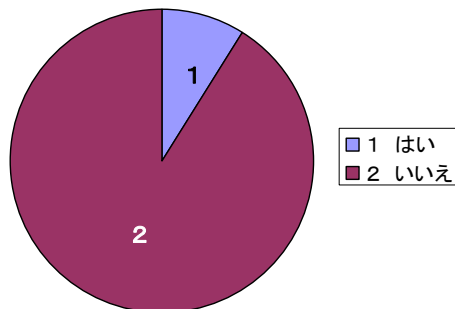
### 有料化の可否



### ●講座の参加状況と今後の希望

参加経験有りの回答は1割にも満たず、今後に希望するテーマの回答も少数でした。その要因を関心の低さと見て取ることもできますが、回答に際し前出の「展示への要望」と重複する質問と理解する方が多かったとも推察できます。

### 講座の参加経験



### ●その他の意見・要望

「PRを工夫・拡大するべき」の意見が多く見られました。また「エレベーターの設置」「駐車場の拡大」等、施設面の改善を求める声も散見できます。

たくさんの貴重なご意見・ご感想を、どうもありがとうございました。お寄せいただいた貴重なご意見・ご感想を、今後の博物館活動の参考としてまいりたいと思います。

アンケートの集計結果の詳細は別紙2のとおりです。

## 目黒区美術館

出席者：館長 田中晴久氏 副館長 斎藤 薫氏

### 館の概要

所在地 東京都目黒区目黒 2 4 36 目黒区民センター敷地内

開館日 昭和 62 ( 1987 ) 年 11 月

運 営 指定管理者 ( 平成 18 ~ 20 年度は財団法人目黒区芸術文化振興財団 )

法区分 類似施設

### 評価の概要

目 的：毎年度、教育委員会によって指定管理者の管理運営状況に関する評価が行われている。なお、指定管理者の選定 ( 更新 ) に当たっては、第三者委員によって構成される指定管理者評価委員会による評価が行われている。

流 れ：委員評価 ( 提出資料等に基づいて、前年度事業の実施状況に個々の委員が評価を行う。評価は 3 段階で行う。 ) 全体評価 ( 各委員の評価を基に協議し、運営評価委員会としての評価を行う。評価は 3 段階で行う。 ) 課題等の整理 ( 評価結果を基に、指定管理者への対応事項や課題等を整理する。 )

評価表：

### 美術館に対する依頼事項

前年度事業の実施状況 = 実施方針、実施状況、実施結果、評価できる点および改善点

前年度実施結果についての評価 ( 4 段階評価 ) = 美術の振興、教育および文化の向上、

来館者・貸館利用者へのサービス、利用者・施設の安全対策、経営状況、総合評価

### 評価項目

#### (1) サービス実施に関する事項

- ・設置目的を最大限に発揮できるように事業を実施したか。
- ・利用者の平等な利用を確保できたか。
- ・利用者の声を反映できたか。
- ・利用者を満足させられる体勢が整ったか。
- ・被雇用者の待遇等の研修体制が整ったか。

#### (2) 経営能力等に関する事項

- ・管理を安定的に行う物的、人的能力を有しているか。
- ・個人情報、情報公開は適切に運用したか。
- ・安全管理は確保されていたか。

#### (3) 管理運営の効率化に関する事項

- ・管理運営の効率化を図ることができたか。



## 使用資料

事業報告書、利用者アンケートの集計結果、事業計画書および収支予算書

評価者：運営評価委員会（外部有識者 1 名と教育委員会職員 4 名で構成）

公表の有無：区役所のホームページで公表。

## 評価結果の活用

教育委員会から評価結果について説明を受け、次年度に取り組むべき課題を明らかにする。

## 今後の展望

自己評価または第三者評価を行うことが課題となっている。現段階では、平成 21 年度から具体的な検討に着手し速やかな実施を目指している。

## その他

- ・教育普及活動に力を入れている。
- ・当初より財団法人目黒区芸術文化振興財団による管理委託が行われ、平成 18 年度から同財団が指定管理者となって運営管理を行っている。美術館と文化ホールが指定管理者制度を導入しているが、文化ホールは今年度から競争入札になっている。
- ・学芸員は、開館以来ほとんど変わっていない。

## 確認質疑

(1)指定管理者制度になって、予算について教育委員会の要求はどうなったか。予算の削減はあったか。

指定管理者制度導入の大きな目的は、効率的な経費の活用とより良いサービスを提供することにある。開館に合わせて財団が設立され管理委託が行われてきたので、指定管理者制度に移行しても運営はその延長線上で行われている。

(2)指定管理者の期間は何年か。

5 年であるが、長い方が望ましい。原則は公募の方針が採られているので、今後は競争となる可能性もある。

(3)評価実施の単位は。

施設ごとに行われている。

(4)ここ（資料）に示されている評価項目について、どう考えているか。

博物館としては大まかな項目と感じている。評価者の設定によるもので、利用者の視点を集約したというものではない。改善できるものと考えている。

(5)区民の評価の状況はどうか。

直接の評価として、年間 6 本の展覧会のうちの 2 本を指定して、入館者にアンケート調査を行っている。それ以外には、議会・評議員による審議が行われている。

費用対効果と、数値目標およびそれに対する達成度を求められている。

(6) 区民の意見の中身にはどういったものがあるか。

展覧会によって客層が異なるので比較は難しいが、目黒区立美術館は独自の取り組みを特徴としているので、その点に対する評価と批判が多い。

ただし、場所柄から区外からの利用者も多い。

## 長崎歴史文化博物館

出席者：総括リーダー 野間誠二氏

### 館の概要

所在地 長崎市立山1 1 1

開館日 平成17(2005)年11月

運営 指定管理者(株式会社乃村工藝社)

法区分 相当施設

### 評価の概要

目的：博物館の事業評価を、総入館者数・全体収支・運営体制・経営管理・事業計画・事業運営・周辺地域との連携・情報システムの運用の8分野150項目の指標で行う。

流れ：事業フォーマットは長崎県が作成 博物館で事業計画に沿った自己評価を実施  
政策評価に反映される

評価表：別添「事業評価サンプル」による

- ・指標ごとに目標数値に対する実績(数値が設定できない指標については相対評価)を5段階(優・良・可・努力を要する・不可)で評価。
- ・評価は指標ごとに行うと共に、分野ごとの達成状況を見るためにレーダーチャートによる分析も行っている。

評価者：館職員による自己評価

効率的に行う工夫：評価指標に対し極力目標を数値化する。

公表の有無：非公表

### 経費

- ・コピー等の事務経費のみ

### 評価結果の活用

- ・次年度以降の館運営に反映

### 利点・効果

- ・目標に達成していない項目の対応が迅速に行えると共に、問題点の抽出が容易。

### 課題・問題点

- ・費用を伴う問題解決の実施があと回しになる。

### 今後の展望

- ・レーダーチャートによるアンバランスな項目の是正

### その他

- ・職員25名のうち22名が乃村工藝社の社員であり3名が出向社員である。
- ・リピーター率は平成18年度で45%となっている。

## 確認質疑

(1)社員の給与との関係はどうなっているか。

社員の給与査定は会社のシステムとして別にある。

(2)評価シートの目標値の設定はどのように行っているのか。

指定管理者の協定書で作った数値と同じにしている。それに無い場合は、協議会で決めた数値としている。

(3)アドバイザリー会議はどのようなものか。

自主的な設置に近い。委員の構成も指定管理者側で独自に選出している。

(4)指定管理者制度の利点は何か。

乃村工芸社は展示会社であるので、運営で得たノウハウを博物館の展示工事や企画に反映できる。また、本社業務への還元や企業イメージを高める効果もある。

(5)建物の設計施工ビジネスの他に、今後、運営コンサルタントに進出する意向はあるか。

運営コンサルタントのビジネス化には、大きなハードルがあると考えている。

## がすてなーに ガスの科学館

出席者：館長 近藤高志氏

### 館の概要

所在地 東京都江東区豊洲 6 1 1

開館日 平成 18 (2006) 年 6 月 2 日

運営 株式会社アーバン・コミュニケーションズ (東京ガス株式会社から受託)

法区分 類似施設

### 評価の概要

目的：「企業博物館としての校外学習機能」「ガスのPR施設としての親ガス派の形成」「地域コミュニティセンターとしての人的なネットワーク形成」といった多目的な活動ができるよう、より充実した運営を行うために、展示そのものより運営手法や将来目指すべき方向、イベント・セミナー企画、来館者促進策、スタッフ育成などに関するアドバイスをもらう。

流れ：毎年 12 月に外部評価委員会を開催し、館側から運営状況などを説明してテーマ別に意見交換を行っている。各委員とは、年間を通じて個別に打合せを行い、イベントの企画・実施などに協力してもらっている。

評価表：館には「総来館者数・小学校来館校数・新規プログラム開発」等の目標管理指標が毎年設定され、主に社内での館の評価に使用されている。

外部評価委員会は、基本的に自由な意見交換の場と位置付け、活発な意見交換をしてもらっている。

評価者：外部評価委員会 (学識経験者など 4 名で構成)

効率的に行う工夫：運営状況説明後のテーマ別の意見交換では、各委員に事前にテーマを知らせて、十分な意見交換ができるようにしている。

公表の有無：詳細な議事録を作成しているが、内容の公表はしていない。

### 経費

委員手当て (交通費込み)

### 評価結果の活用

12 ~ 1 月は、次年度の事業計画策定期間に当たるため、より良い館運営に効果があると判断される内容については、館内スタッフで検討のうえ事業計画に反映させている。

### 利点・効果

- ・来館者促進、来館者満足度の向上

### 課題・問題点

- ・外部評価委員会のさらなる活用策の検討

## 今後の展望

- ・本評価制度については継続実施の予定

## その他

- ・旧ガスの科学館は年間10万人の入館者を見込み、事前予約のフルアテンド制であった。  
今の館は、当初は、校外学習時はガイダンス後フリー見学であったが、現在は理解度促進や満足度向上のため、セミアンド方式を導入している。

## 確認質疑

- (1) 評価を実施したきっかけは何か。

初代のガスの科学館では無かった。リニューアル後に、初代館長の「第三者の意見を入れる」という趣旨から始まった。

- (2) 評価を実施してどのような利点があるか。

次年度の事業計画作成時や運営方式の修正などには参考になる。

- (3) 本社が重視している項目は何か。

来館者の満足度である。校外学習施設として、子ども一人一人や一般来館者の満足度を上げたいとの思いである。

## (2) ヒアリング実施館との討議

質問1〔長崎歴史文化博物館(以下、長崎)へ〕乃村工藝社の社員となっている研究員の契約期間は何年か。

〔長崎〕1年ごとの契約更新である。本社の契約社員制度が1年更新を採っているのに倣っている。

質問2〔長崎へ〕8箇所指定管理者となっているそうであるが、その間での人事異動はあるのか。

〔長崎〕考えてはいるが、指定管理者制度はまだ新しい試みであるため実施していない。

〔委員〕その指定管理者に再契約してもらうこともあるが、指定管理者がAからBへ変わった場合はBに雇ってもらうという考え方もしているようである。

質問3〔がすてなーにガスの科学館(以下、ガス)へ〕ライフスタイルの調査はどの様に実施したのか。

〔ガス〕外部に委託をしたが、骨子は館側で作り調査会社を調べた上で委託をした。

質問4〔各館へ〕運営協議会は評価をしている館が多いと思うが、開催回数は年に1・2回にとどまっている。これの活性化のための工夫があれば伺いたい。

〔長崎〕事前に質問事項を送って、それに沿ったテーマ性のある議論を行うようにしている。

〔斎宮歴史博物館(以下、斎宮)〕以前に専門委員会があったのを、運営評価委員会とした。これに委員から異論が出て、「運営」と「評価」とに分けた。いろいろな場面をスライドにして見せるようにしている。

〔山梨県立博物館(以下、山梨)〕山梨県博物館協会でも、パワーポイントを使っている。

質問5〔各館へ〕当検討会議が提示した評価報告書は参考になったか。

〔目黒区美術館(以下、目黒)〕館によって特色があるので、全ての博物館に共通の指標を作るのは難しいのではないか。

〔斎宮〕参考になったが、使えるところと使えないところがある。

〔委員〕美術館と博物館とでは、違うところも多いと思うが。

質問6〔各館へ〕評価結果の公表がこれからの課題となるが、その意義をどの様に考えているか。

〔徳島県立博物館(以下、徳島)〕ホームページに載せているが、あまり反応はない。大学の先生などから「よくこんなことをやったね」との声が寄せられたり、シンポジウムの参加者から発言があったりするが、直接表立った反応はない。

現在は文書的なもので、一般的に手にとって見てみようという形式にはなっていない。今後、ソフトな作りのものが必要と考えている。

〔斎宮〕三重県でも公表しているが、県民からの反応は薄い。

質問7〔ガスへ〕環境問題への取り組みはどうしているのか、また、サジェスションはあるか。

〔ガス〕ガスだけでなく、風力発電や太陽光発電などを組み合わせた環境をテーマとした学習のモデルプランの提案は出ている。コミュニケーターの意見も参考にして、展示にも反

映させている。

質問8〔各館へ〕評価を実施した効果は出ているか。

〔埼玉県立近代美術館（以下、埼玉）〕数値化はほとんどしていない。

質問9〔各館へ〕評価自体の行き詰まりを感じたことはないか。

〔齋 宮〕目標の設定の仕方が難しい。来館者数が増加しなくても、質の向上という場合もある。

〔徳 島〕指標には平成16年のものを運用してきた。新しいものが作れなかったことを反省している。

質をどうとらえるか、評価のやり方も見直しが必要となってくるので、続けること自体に意味があるのではないか。

質問10〔全体へ〕評価の数値化について、長崎のように可視化するのは根本的な問題に関わることで、画期的なものである。

〔長 崎〕数字だけに頼ってしまうと見落としも生じるので、注意が必要である。また、項目を多く設定すると、評価自体に時間がかかるようになる。

〔山 梨〕数値化を避けてお客様の声を拾う形を採っているが、そのアンケート結果を分析し、それに基づく改善を図るといふところまではいっていない。今後は、このことが課題になる。公開していること自体が博物館の魅力になるという考え方に、真剣に取り組む時期に来ているのではないか。

自由意見

〔委員 〕東京都では、8年間の幅で達成目標を出している。

〔委員 〕東京都動物園協会では、ある程度の年数での達成目標を掲げている。

〔委員 〕東京国立博物館では、すごい枚数のアンケートを回収する。それらを全てスキャンしてLANで見られるようにしている。全員が見られるようにする、ネットで公開するとの2つのことを必ずやっている。

〔委員 〕評価には偏りも出るし、客観的データとは言いきれないものもあるが、長年データを取り続けて定点観測をすると、全体としての動向の把握はできる。

アンケートは使い方に工夫が必要であり、組織的にやらないと客観的データは出てこない。

〔山 梨〕館の改善の方向性を探るのに役立つということは言える。

〔目 黒〕その通りであるが、反面でその程度の信頼性のものを評価の指標としてよいのかという懸念がある。

〔委員 〕評価のための資料を得ているが、それを活かすかどうかは使う側の考え方による。



### (3) 静岡県立美術館の評価活動について

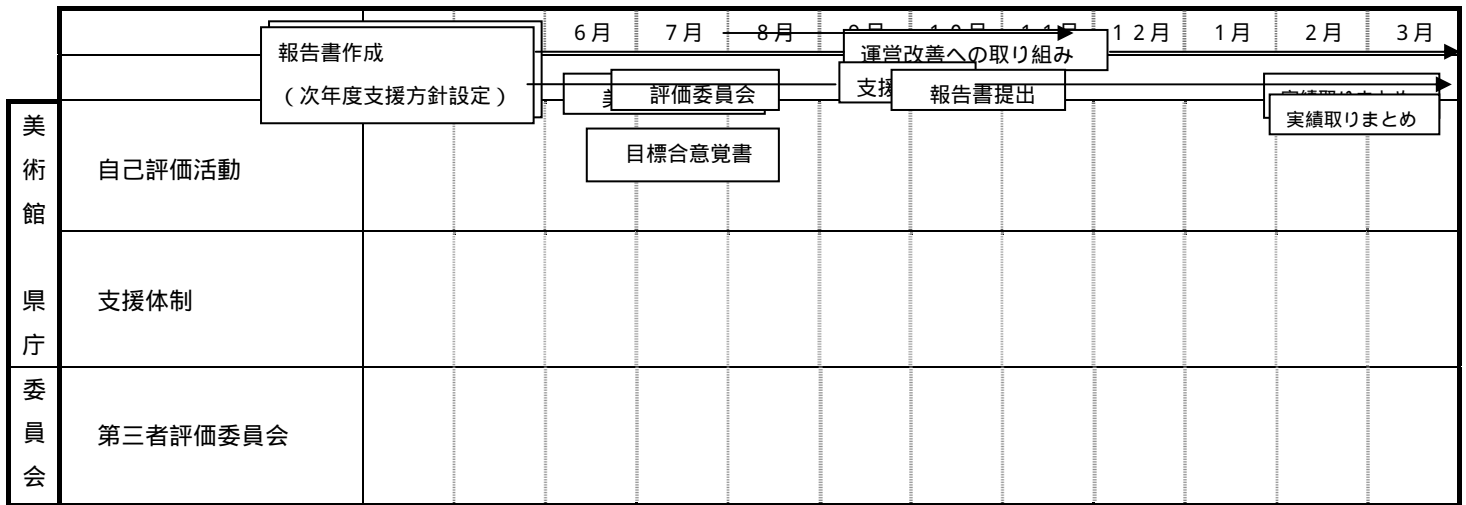
博物館の評価の先進的事例として、静岡県立美術館の評価活動の概要を紹介する。

#### 1. 評価の概要

##### (1) 目的

- ・美術館の使命・戦略目標等を明確にし、観覧者数と収支のみではない多面的かつ客観的な測定・評価を行うシステムを構築することによって、効果的な事業を推進するとともに、継続的な経営改善を通じて、より良いサービスを提供することを目的とする。

##### (2) 評価の流れ



##### (3) 評価表(評価項目・指標・評価結果)

- ・評価システムの概要については、【別表1】の通り。
- ・以下は、戦略に基づく評価指標、評価の手法、アクションプランの一部である。

**戦略目標A** 質の高い美術体験を提供することにより、人々の感性を磨き、生活に変化をもたらします。

**戦略1** 新たな視点に基づく展示を行います。【展覧会事業】

内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの人に鑑賞してもらい、かつ、満足し感動してもらえる展示に努めます。</li> <li>・社会経済情勢や時代の要請に合致する、これまでにない企画に挑戦します。</li> <li>・国内外の得がたい貴重な魅力ある美術作品や文化財等を紹介します。</li> <li>・常に「親しみやすさ、わかりやすさ、参加しやすさ」に視点をおいた企画に努めます。</li> <li>・他の美術館等との共同企画展を推進します。</li> <li>・展覧会を通して、学芸員の研究成果を出来るだけわかりやすく伝えます。</li> <li>・県民の財産である収蔵品のすべてを紹介できるように努めるとともに、その魅力をより多くの人に伝えます。</li> <li>・収集方針に基づく県立美術館の特色をわかりやすく伝える展示に努めます。</li> </ul>
----	---

定量的評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会の観覧者数</li> <li>・展覧会のリピート率</li> <li>・展覧会の満足度</li> <li>・学芸員フロアレクチャーの回数</li> </ul>
定性的評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会に対する外部評価（専門家のレビュー）</li> <li>・観覧者の生活に変化をもたらしたかどうか（グループインタビュー、テキスト・マイニング）</li> </ul>
アクションプラン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会のPDCAを確立し、検討会を開催し、情報公開する。</li> <li>・開催後の反省会を実施し問題・課題を共有化するとともに、以後の展覧会における企画等の工夫・改善に資する。</li> <li>・展覧会の企画から実施、評価までを様式化し、各段階で明確かつ円滑な進行管理をする。</li> <li>・各企画展の実施結果を美術館協議会に定例的に報告する。</li> <li>・ロダンの美術館を前面に打ち出した企画展『パリ・ロダン展』の開催。</li> <li>・新たな視点を生み出す仕組みを作り出す。</li> <li>・巡回企画展の情報の収集方策を検討する。</li> <li>・学芸員によるフロアレクチャー・講習会・講座等をできる限り多く実施する。</li> <li>・作品解説（キャプション）をわかり易くするための工夫に努める。</li> <li>・「美術館の使命、作品の収集方針」をエントランスに掲示する。</li> <li>・展覧会の企画をサポートする客員研究員又はアドバイザーの活用を検討する。</li> </ul>

#### （４）評価者

- ・使命・戦略計画に基づく業務改善（オペレーション）および館長のマネージメントについては、美術館の自己評価を一次評価とし、それを第三者評価委員会（美術館所管部局・県民部が設置）が二次評価をする。
- ・県庁の支援体制、ガバナンス、社会からの支援体制については、第三者評価委員会が一次評価する。

評価対象	評価者	
	1次評価	2次評価
レベル1 オペレーション	館自身 (ミュージアム・ナビ)	第三者評価委員会
レベル2 マネージメント		
レベル3 ガバナンス	第三者評価委員会	(なし)
レベル4 社会からの支援体制		

#### （５）効果的に行う工夫

- ・アンケートの分析結果を定期的に職員に配布し、展覧会ごとの企画傾向や来館者の属性、広報状況等を職員が分析し、レビューを書くことで、業務改善につなげる【別表2】。
- ・数値によって把握できる「定量評価」に加えて、参加者へのグループインタビューや学芸員による調査・研究活動に対する外部有識者のレビュー等の「定性評価」を実施することで、質的な視点を取り入れる。
- ・美術館による自己評価（一次評価）を客観的な視点で二次評価するための第三者評価委員会を設置し、その結果を美術館の経営改善に取り入れる。

## (6) 公表の有無

- ・美術館による自己評価（一次評価）、第三者評価委員会による二次評価、美術館協議会の意見、当該評価に関する資料、議事録等については、静岡県・静岡県立美術館のホームページにおいて公開している。

静岡県立美術館ホームページ

[http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/japanese/eva\\_system/outline/](http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/japanese/eva_system/outline/)

静岡県文化政策室ホームページ

<http://www.pref.shizuoka.jp/kenmin/km-210/hyouka/index.html>

## 2. 経費

- ・美術館の自己評価に必要なアンケート調査を実施するための外部委託経費、第三者評価委員会開催に係る経費について、予算を計上している。

## 3. 評価結果の活用（改善にどうつながるのか）

### 4. 利点・効果

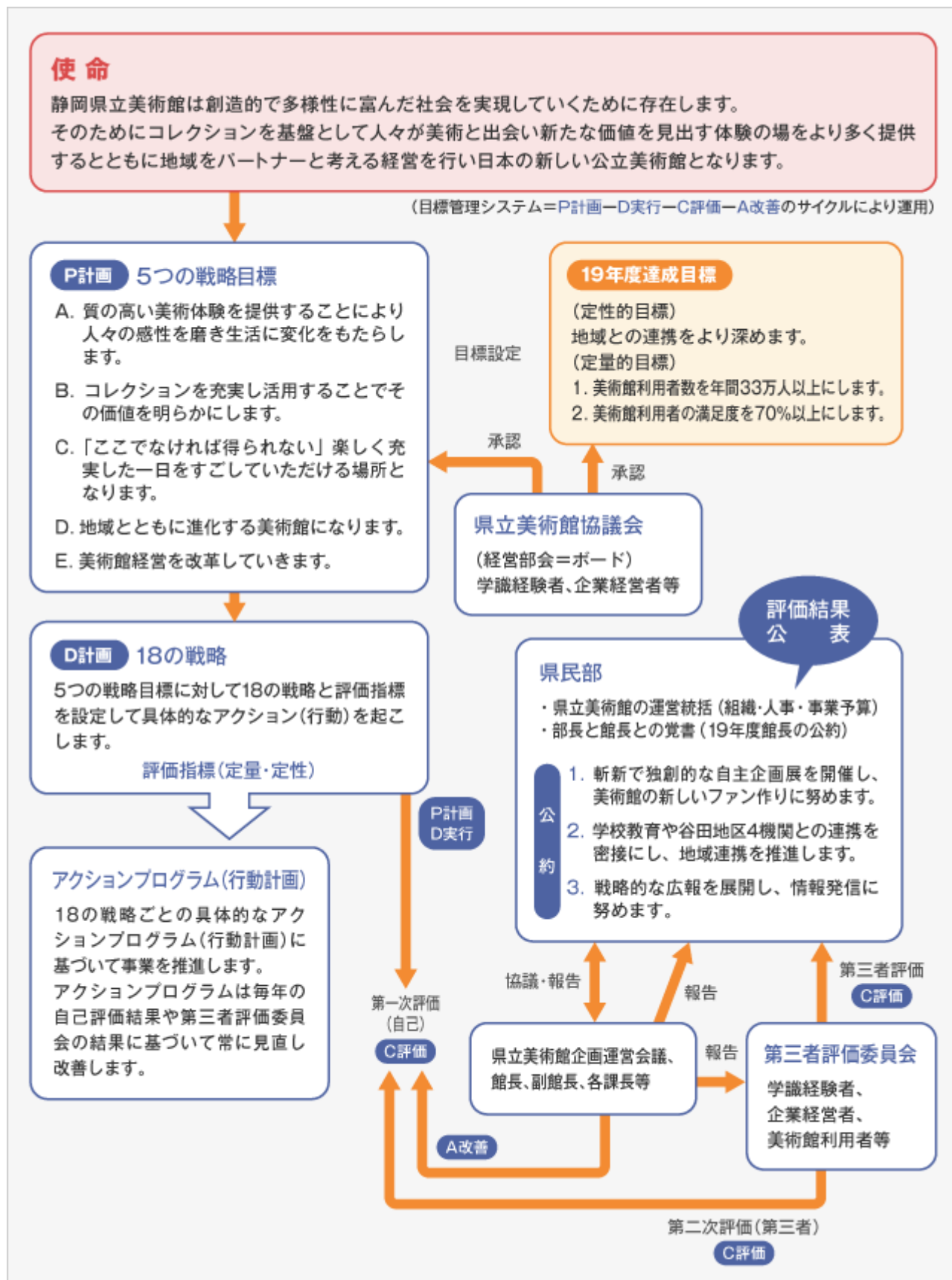
- ・自己評価結果を職員が分析し、展覧会および教育普及活動等の企画改善につなげるとともに、第三者評価委員会による二次評価結果を受けて、美術館と県庁がそれぞれに課題を明確にし、改善に取り組むことで、県民をはじめとする利用者に対するサービスの向上を図り、美術館の経営改善を図ることができる。また、分析結果および評価結果を職員に還元することにより、職員の経営参画意識を向上することができる。

## 5. 課題・問題点

- ・評価システム導入によって、美術館における業務改善については進んだが、すでに第三者評価委員会の提言によって指摘されているように、「経営レベル」の評価、改革に取り組む必要がある。
- ・第一に「館長のリーダーシップの強化」、「県庁からの支援体制の具体化」、「美術館方針の明確化」等について、今後検討・実施することが求められる。
- ・第二に、「広報の問題」。来館者のみならず、未来館者に対するニーズ調査やそれに基づく広報等を含めた個別の広報を統括する「広報戦略」が必要である。
- ・第三に「評価システム全体の見直し」である。具体的には、個別の指標を見直し、定点測定が必要が無い指標については統廃合をする等、より本質的な指標の設定が課題である。

今後は、美術館における業務改善レベルから、より**経営的なレベルの改革**が必要である。どのような事業に対してどれだけの予算と人員を投入するかについて、館長の権限と責任を強化し、またそれに伴って県庁の支援体制をより具体化していくことが必要である。

【別表1】静岡県立美術館 評価システムの概要



【別表2】静岡県立美術館 自己点検評価表（展覧会）

副館長	総務課長	学芸課長	企画広報スタッフ チーフ(管理係長)	企画広報スタッフ員	担当

静岡県立美術館 自己点検評価表(展覧会) (平成18年度)

事業名称	大河ドラマ「巧名が辻」特別展 「山内一豊とその妻」
企画（事前）	
目的・内容	山内一豊夫妻の生涯を、波乱に満ちた戦国の時代背景とともに紹介し、本県ゆかりの歴史上の人物に対する理解を深めることを目指す。全体を次の3部で構成。山内一豊とその時代 戦国時代の女性たち 山内家に伝えられた美と歴史。国宝2点、重要文化財15点、山内家伝来の名品など、約250点を出品。
期待される成果	地元ゆかりの戦国武将にスポットをあてた歴史展であるため、美術ファン以外からの集客が期待され、かつ、新規来館者の増加にもつながることが予想される。
指標(数値目標)	観覧者数33,000人。満足度70%。講演会回数1回。
収支(予算) /観覧者数(見込)	一般財源 2,044千円。特財率110.1%。観覧者数33,000人
広報戦略	中高年の男女を中心に、全県的に広報するが、静岡市と掛川市に重点をおく。

副館長	総務課長	学芸課長	企画広報スタッフ チーフ(管理係長)	企画広報スタッフ員	担当

部署	学芸課	記入日	企画 平成18年4月1日
担当者名	小針、飯田、山下		総括 平成18年7月18日
実施日・場所	静岡県立美術館第1展示室～第6展示室	会期	平成18年4月15日(土)～5月28日(日) <38日間>

総括(事後)	
目的の達成度	現存する一豊夫妻の所用品が少ないという問題を抱えながら、一豊の生涯を軸に、戦国時代の歴史と文化を十分に紹介することができた。展示構成は、当初の予定どおり三部仕立てとなった。山内家の宝物資料館の全面的な協力を得て、同館の所蔵品を多く出品したことで、武将の雄々しい世界に美の世界を加えることができた。
アンケートにみる特徴	掛川からの集客を図ったが、西部13.0%、東部17.2%と、全体では期待した成果を得ることができなかった。しかし、新規来館者としてみると、西部は23.7%あり、この比率は東部、県外を上回っている。ここから推測すると、掛川地区での広報の成果が現れたようだが、これは「一豊/掛川」という特殊要因に支えられている。西部からの継続的な新規来館者維持は容易ではないであろう。
指標に基づく成果	観覧者数30,444人(数値目標の92.3%)。満足度67.5%。講演会回数1回(260席満席)。
研究活動評価委員会からの意見(要約)	なし
収支(決算) /観覧者数(実績)	一般財源2,630,520円。特財率86%。観覧者数30,444人。
今後の改善点	団体客の誘致には、「展覧会+観光」、「展覧会+食事」など、内容の異なる組み合わせの方が効果的ではないか。旅行会社に案を投げかける際は、展覧会の始まる半年前に実施されていることが望ましい。また、シャトルバスに関しては、今回の成果を十分分析した上で、今後の継続について考えていく必要がある。未来の顧客である小学生をバスで招き、無料観覧してもらおう方がより効果的ではないか。タクシー会社説明会やホテルからの集客も懸案事項。地域サポーターによるバスツアー企画要検討。

#### (4) 実態調査回答館の中から実施例

「博物館の評価活動に関する実態調査」の回答に添付された資料から、下記5館の評価表、評価報告書等をサンプルとして提示する。

館名	設置者	管理者	資料の種別（評価の種類）	
青森県立三沢航空科学館	県	指定管理者	評価表（自己） 評価表（設置者）	
岩手県立博物館	県	指定管理者	評価表（自己） 評価表（設置者）*	
千葉県立中央博物館	県	直営	評価表（自己）* 評価表（外部・第三者）*	
館林立資料館	市	直営	評価表（自己 担当者） 評価表（自己 館）	
多摩六都科学館	組合(5市)	直営	評価報告書（第三者） 評価表（自己）	

\* 印は、評価結果が記載されている。

## 青森県立三沢航空科学館

当館は、青森県立であるが、財団法人青い森みらい創造財団が指定管理者として運営している。評価は、様式が定められている「管理運営状況等チェックシート」により27項目で自己評価を行い、それをまとめた7つの大項目と総合評価ということで、県の所管課（総務部市町村振興課）の評価が行われている。何れの評価も評価基準は、A（優）～D（不可）の4段階で行われている。

【管理運営状況等チェックシート】

青森県立三沢航空科学館 管理運営状況等チェックシート

1 評価項目

評価項目 (評価の視点)		指定管理者 自己評価	県所管課 評価
1. サービスの維持・向上に向けた取組みが行われているか。			
1.開館の状況	開館日、開館時間等が守られているか		
2.職員の配置状況、勤務実績	管理職を含む常勤職員及び非常勤職員、有資格者の配置状況、勤務実績は適切か		
3.施設の業務の実施状況	事業計画に掲げられた、施設において行う業務（設置目的を達成するための業務）について、適正に実施されているか。		
4.使用許可、減免の状況	施設の使用許可、使用料減免の手続、説明等が適正、円滑に行われているか		
5.職員のマナー	利用者が気持ちよく利用できるよう、利用者に対する職員の接客マナーは適切か		
6.利用者の意見・苦情を抽出し、解決する仕組みの構築	利用者が意見や苦情を述べやすい環境を整備しているか。また、利用者の意見、苦情等を受けて、迅速に対応できる体制を構築しているか。		
7.利用者アンケート調査の実施	サービス全体に対する利用者ニーズ・満足度を把握するアンケート調査等を実施し、課題がある場合には対応策を講じているか		
2. 利用促進に向けた取組みが適切に行われているか。			
1.利用しやすい受付案内の実施	利用者が利用しやすい受付案内を実施しているか		
2.自主事業の適切な実施	利用者の望む自主事業を、事業計画に基づき、適切に実施しているか。		
3.適切な利用情報の提供	全ての利用者が等しく利用情報を得ることができるよう、適切な利用情報の提供を行っているか		
4.広報・PRの実施	当該施設について、広報誌やPR誌を作成するなど、具体的な取組みを実施し、潜在的な利用者にアピールしているか。		
5.地域や地域住民との交流・連携の取組み	地域の住民や団体との交流・連携に関する取組みを実施し、地域交流の支援を実施しているか		
3. 施設、設備及び備品の維持管理及び修繕が適切に行われているか。			
1.建物・設備の保守点検	建物・設備が適切に管理され、安全性の確保及び良好な機能の保持が実現されているか		
2.備品の管理	備品が適切に管理されているか		
3.清掃業務	利用者が快適に利用できるような状態が保持されているか		
4.警備業務	安全で安心感のある環境を確保しているか		
5.外構施設の保守点検	安全性が確保され、良好な機能が保持されているか		
6.植栽・樹木等の維持管理	利用者が快適に過ごせるような良好な景観が保たれているか		



4. 緊急時の対応・安全管理などの危機管理が適切に行われているか。			
1. 事故防止対策への取組み	事故防止のための体制の構築・取組みを行っているか		
2. 事故発生時の対応体制の構築	事故発生時の対応体制が確立しているか		
3. 災害発生時の対応体制の構築	災害発生時の対応体制が確立しているか		
5. 指定管理料が適正に執行されているか			
1. 指定管理料の執行状況	指定管理料は適正に執行されているか		
2. 利用料金収入実績	事業計画書等で示した利用料金収入の目標値がどの程度達成されているか		
3. 経費節減状況	経費節減のための努力を行い、成果をあげているか		
6. 成果目標達成のための努力が行われ、成果が上がっているか			
1. 成果目標達成努力	成果目標達成のための努力（取組）が行われているか		
2. 成果目標の達成状況	成果目標として掲げた指標の改善が図られているか		
7. その他			
1. 個人情報の保護	個人情報の保護に対する体制の構築・取組みを行っているか		
全体評価			

評価基準

- A（優）：適正であり、優れた実績をあげている
- B（良）：適正である
- C（可）：概ね適正であるが、一部改善を要する
- D（不可）：改善や更なる取組が必要

## 2 成果目標

項目	数値	目標達成のための取組状況
	(前年度)	

## 3 指定管理者自己評価コメント

【管理運営状況公表様式】

## 平成 1 9 年度青森県立三沢航空科学館の管理運営状況

県所管課	総務部市町村振興課
指定期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

### 1 管理業務の実施状況

業務区分	概 要
管理業務	
運営事業	

### 2 管理施設の利用状況

利用指標	年 度	計 画	実 績	計画対比	前年度対比
利用者数(人)	H 1 7	/			
	H 1 8				
	H 1 9				
	H 2 0				
使用料金収入(円)	H 1 7	/			
	H 1 8				
	H 1 9				
	H 2 0				
【増減理由】					

### 3 評価結果

評価項目	指定管理者自己評価	県所管課	
		評価	コメント
サービスの維持・向上に向けた取組みが適切に行われているか。	A		
利用促進に向けた取組みが適切に行われているか。	A		
施設、設備及び備品の維持管理及び修繕が適切に行われているか。	A		
緊急時の対応・安全管理などの危機管理が適切に行われているか。	A		
指定管理料が適正に執行されているか。	A		
成果目標達成のための努力が行われ、成果が上がっているか	A		
個人情報の保護に対する体制の構築・取組みを行っているか	B		
総合評価	A		

#### 評価基準

- A (優): 適正であり、優れた実績をあげている
- B (良): 適正である
- C (可): 概ね適正であるが、一部改善を要する
- D (不可): 改善や更なる取組が必要

## 岩手県立博物館

当館は、岩手県立であるが、財団法人岩手県文化振興事業団が指定管理者として運営している。「指定管理・事務事業実績評価チェックシート」で指定管理者として自己評価を行っている。5段階評価で、「5」は、「非常に高い成果が得られている」で、「1」は、「所定の成果はまだ得られていない」としている。設置者評価は、「管理者運営状況 評価シート」により自己評価とは別の評価項目で「事業計画、県が求める水準」に対する「実績（指定管理者の自己評価）」に基づき所管課（県教育委員会生涯学習課）がA（協定書、提案書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績（効果）があり、優れた管理がなされている。）から、D（協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。）までの評価をしている。

(別紙1)

## 管理運営状況 評価シート【平成19年度】

(評価日平成20年 月 日)

## 1 施設の概要

施設名	岩手県立博物館
所在地 電話・FAX HP・電子メール	〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34 電話 019-661-2831 FAX 019-665-1214 HP <a href="http://www.pref.iwate.jp/~hp0910/">http://www.pref.iwate.jp/~hp0910/</a>
設置根拠	博物館条例
設置目的	(設置:昭和55年10月1日) 歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与する。
施設概要	敷地面積、建物面積、主な施設、利用定員等 敷地面積:53,112.78㎡ 建築面積:4,696.97㎡ 本館(総合展示室、分類展示室、MCギャラリー、体験学習室など)、古民家(重要文化財 旧佐々木家住宅・旧藤野家住宅)、植物園、芝生広場など
施設所管課	教育委員会事務局 生涯学習文化課 (電話019-629-6182 内線(6178) メールアドレス DB0005@pref.iwate.jp)

## 2 指定管理者

指定管理者名	財団法人岩手県文化振興事業団
指定期間	平成18年4月1日～平成21年3月31日(3年間)
連絡先	〒020-0023 盛岡市内丸13番1号 019-654-2235(総務部)

## 3 指定管理者が行う業務等

業務内容(主なもの)	施設管理修理、入館の許可、入館料徴収、施設利用促進(広報など)		
職員配置、管理体制	2名(常勤換算2名) (平成19年4月1日現在)	組織図 (財)岩手県文化振興事業団【本部】	
	(内訳) 正職員1名、臨時職員1名		
利用料金	入館料(県歳入) 学生 140円(個人) 70円(20人以上の団体) 一般 300円( " ) 140円( " )		
開館時間	午前9時30分～午後4時30分	休館日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月曜日(国民の祝日に関する法律に規定する休日に当たるときは、その翌日以後の日であって当該休日に最も近い休日でない日)</li> <li>・ 資料整理日(9/1～9/10)</li> <li>・ 12/29～1/3</li> </ul>

## 4 施設の利用状況

(単位:人)

(入館者数、稼働率等)	前期間平均	指定管理期間				備考
		18年度	19年度	年度	期間平均	
第1四半期	8,586	11,448	9,612		10,530	
第2四半期	32,783	11,351	12,028		11,689	
第3四半期	7,077	8,460	11,668		10,064	
第4四半期	5,520	6,981	5,901		6,441	
年間計(実績)	53,966	38,240	39,209		38,724	
年間計(計画)		37,000	37,200			

## 5 収支の状況

(単位:千円)

区分	前期間平均	指定管理期間				備考
		18年度	19年度	年度	期間平均	
収入	利用料金収入					前期間平均は、指定管理者制度導入前 H14～H16 の3ヶ年平均額である。
	県委託料	150,763	139,498	137,266	138,382	
	自主事業収入		3,128	2,722	2,925	
小計	150,763	142,626	139,988	141,307		
支出	人件費	12,426	7,539	7,856	7,697	
	維持管理費	138,337	128,654	128,687	128,670	
	自主事業費		2,710	2,411	2,560	
	小計	150,763	138,903	138,954	138,928	
収支差額	0	3,723	1,034	2,378		

## 6 利用者の意見等への対応状況

## (1) 利用者意見(満足度等)の把握方法

把握方法	アンケート、ご意見箱、記録カード	実施主体	県立博物館 (指定管理者・学芸部門と一緒に実施)
------	------------------	------	-----------------------------

## (2) 利用者からの苦情・要望

受付件数	苦情 1件、要望 10件、その他 2件		
主な苦情、要望等	対応状況		
正面階段の上り下りが難儀である。	破損箇所は随時部分補修で対応し、階段途中に休憩用ベンチを設置した。 状況及び今後抜本的な改修が必要である旨県に報告した。		
トイレ、観覧順路がわかりにくい。	案内表示は既に行っていたが、表示の増設や表示方法の改善を図った。		
ミュージアムショップの設置場所が分かりにくい。商品を充実してほしい。	2階に設置していたものを、1階入口付近の利用しやすい場所へ移設し、商品の拡充を行った。また、子ども達が興味を示すような商品を充実させた。		

交通の便が悪い、場所がわかりにくい	盛岡市内から博物館までバスを利用する際の乗り換え場所である松園バスターミナルに、イベントガイドを兼ねた案内図を配置した。
その他利用者からの積極的な評価等 ・ミュージアムショップが利用しやすくなった。	

## 7 業務点検・評価 ( )

### (1) 業務の履行状況

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
運営業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>公の施設として公共性を有することを十分に理解し、管理業務等の実施にあたっては、その趣旨を尊重する。</li> <li>利用者に対し、不当な差別的取扱いをしないなど、公平性を確保する。</li> <li>設置目的を効果的かつ効率的に達成する。</li> </ul>	<p>正当な理由なく施設の利用を拒んだり、不当な差別的取扱いを行うことなく、利用者の公平性を確保した。</p> <p>施設の設置目的を達成するため、適切な施設の維持管理に務め、学芸部門と綿密に連携しながら、事業を実施した。</p>	A
施設の利用状況	<p>設置目的を達成するため、施設の利用促進に繋がる取組みを行う。</p>	<p>目標 40,000 人の入館者数（移動展含む）に対し、実績 45,074 人と目標を達成した。</p> <p>施設の利用を促進するため、学芸事業との調整を図りながら、展示施設であった古民家を集会施設として一般に開放し、施設の有効活用に努めた。</p>	A
施設の維持管理状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本協定に基づき指定管理者が行う施設設備の維持管理や入館料徴収等の業務を適切に行う。</li> <li>基本協定に基づく公有財産及び備品を適切に管理する。</li> </ul>	<p>施設設備の保守点検、修繕等適切な維持管理に努め、利用者に安全で安心できる空間を提供した。</p>	B
記録等の整理・保管	<p>管理に係る各種帳票書類を適正に整理保管する。</p>	<p>点検等の記録について、適正に整理保管した。</p>	B
自主事業、提案内容の実施状況	<p>施設の設置目的に沿った、利用促進に繋がる方策に基づき事業を実施する。</p>	<p>管理計画書どおり実施した。</p> <p>（ミュージアムショップを設置し、魅力ある商品の開発に努めた。</p> <p>施設の利用促進を図るため、グラウンドホールの場所を活用した博物館写生会を実施した。</p> <p>高齢者や児童など携帯電話を持たない来館者のため、公衆電話を設置した。）</p>	A
（施設所管課評価） ・成果のあった点 ・改善を要する点	<p>施設設備の保守点検、修繕等が適切に行われ、利用者に安全で安心できる空間を提供した。</p> <p>休館日の臨時開館や、施設の立地条件やスペースを有効活用した自主事業など、県民に施設へ足を運んでもらう機会を積極的に提供した。</p> <p>特になし。</p>		A

(2) 運営体制等

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
職員の配置体制	各業務に適した職員及び必要な有資格者を適正に配置する。	管理計画書どおり適正に配置した。 再委託している業務についても、適正に管理するために必要な有資格者を配置した。	B
苦情、要望対応体制	利用に関する各種問い合わせや要望及びトラブル等の対応を適切に行う。	博物館苦情（クレーム）対応マニュアルを作成し、そのマニュアルにそって適切に処理した。 学芸部門職員、再委託業者等も含めたサービス向上委員会を設置し、苦情要望への対応に努めた。（案内表示の改善、ショップの充実、学校利用の手引きや子ども向け行事案内の配付など）	B
危機管理体制（事故、緊急時の対応）	災害時・緊急時の対応や、防犯・防災対策として、マニュアルの作成や訓練を行う。	博物館施設安全管理マニュアル、現金取扱事故防止マニュアルの作成及び（財）岩手県文化振興事業団危機管理対応方針により危機管理体制づくりをおこなった。 また防災訓練も、管理計画書どおり適正に実施した。	B
コンプライアンスの取組み、個人情報の取扱い	基本協定に基づく秘密の保持、個人情報保護及び法令遵守の確保。 個人情報に関する書類について、適切に保管管理する。	（財）岩手県文化振興事業団「コンプライアンスマニュアル」及び「個人情報保護規程」により徹底した。 博物館情報機器管理要領により、適切な情報管理を行った。	B
県、関係機関等との連携体制	基本協定に基づき、関係機関等との協力連携に務め、良好な関係を維持する。	県とは日常的に報告、連絡を行うことにより、情報の共有に努めた他、当事業団本部との連携、調整も適切に行った。	B
（施設所管課評価） ・成果のあった点 ・要望	苦情、要望について、学芸部門と情報共有を行い、学芸部門に関連するものは連携して対応するなど、適切な対応が取られている。 事業団の他施設における効果的な事業についてノウハウの共有を図ること。		B

(3) サービスの質

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
運営業務	設置目的を達成するため、施設の利用促進に繋がる取組みを行う。	利用者へのサービス向上に繋がる接遇研修を実施した。 日本博物館協会東北支部研修会に参加し、他館との情報交換を行った。 管理計画書に基づき、利用者の満足向上に努めた。	B
利用者サービス	利用者ニーズの把握、サービス向上に向けた計画方策に基づき、適切に実施する。	臨時開館を実施し、利用者のサービス向上に努めた。 パンフレット等の配付先を広め、利用者の新規開拓に努めた。	A



		多様な手法（アンケート、ご意見箱、解説員が利用者からの問い合わせ等をまとめた職員記録カード、サービス向上委員会での提言等）でのニーズの把握に努めた。	
利用者アンケート等	利用者アンケートや意見箱の設置を行い、アンケート結果について適切に対応する。	入館者や教育普及事業参加者を対象としたアンケート及びご意見箱設置により利用者のニーズ把握に努めた。 アンケート結果については、職員全員に周知し、改善しなければならないものについては速やかに対応した。	B
（施設所管課評価） ・成果のあった点 案内表示の増設や、夏休み期間の臨時開館、研修等の実施による接客力の向上に努めるなど、利用者へのサービス向上に繋がる取組みがなされた。 ・改善を要する点 特になし。			B

#### (4) サービス提供の安定性、継続性

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
事業収支	管理運営計画における収支の積算に対する収支実績が適正である。	効果的な業務執行に努めることにより発生した余剰金を活用し、自主的に施設整備を行うなど、無駄のない管理運営に努めている。	A
指定管理者の経営状況	経営基盤が安定しており、計画に沿った管理を行う能力を有している。	当事業団は、文化施設の指定管理業務や学芸業務を受託するほか、国・県等から発掘業務も受託しているため、経営基盤が安定しており、管理運営計画に沿った管理を行う能力を有している。	A
（施設所管課評価） ・成果のあった点 こまめな節電や適切な空調管理により光熱水費の使用量が年々減少していること、また再委託業務について長期契約を行い経費節減を図るなど経営努力が認められる。 ・改善を要する点 特になし			A

（注1）県記載欄：「事業計画・県が求める水準」、「評価指標」、「施設所管課評価」

指定管理者記載欄：「実績（自己評価）」

（注2）評価指標

- A：協定書、提案書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績（効果）があり、優れた管理がなされている。
- B：概ね協定書、提案書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績（効果）があり、適切な管理が行われている。
- C：一部、改善・工夫を要する事項が見られたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

8 指定開始年度から評価年度までの総合評価

(1) 指定管理者の自己評価

<p>成果があった取組み、積極的に取り組んだ事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールデンウィークや夏休み期間中に臨時開館を行い、利用者の増加を図った。</li> <li>・利用者の要望に対応するため「サービス向上委員会」を設置し、できるものから改善を図った。</li> <li>・利用者に安全で安心できる施設設備の管理に努めた。</li> </ul>
<p>現在、苦慮している事項、今後、改善・工夫したい事項、積極的に取り組みたい事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築後28年となり、施設設備の老朽化が進行しており、修理修繕箇所が増加している。</li> <li>・児童生徒の利用が減少傾向にあり、一層の利用促進に取り組む。</li> </ul>
<p>県に対する要望、意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備の計画的な整備</li> </ul>

(2) 県による評価等

<p>指定管理者の運営状況について</p> <p>管理計画書に基づく適切かつ効率的な運営により経費節減が図られた。</p> <p>休館日の臨時開館や、施設の立地条件やスペースを有効活用した自主事業など、県民に施設へ足を運んでもらう機会を積極的に提供し、博物館の利用促進に大きく貢献した。</p> <p>博物館利用者に対するアンケート調査において、指定管理者制度導入前と比較しサービスや対応がより良くなったという回答が半数近くあったことから、サービスの質が向上した。</p>
<p>県の対応状況について（自己評価）</p> <p>指定管理業務に関する問い合わせについては、速やかに対応した。</p> <p>抜本的な改修を要する施設設備について指定管理者より報告があったものについて、厳しい県財政中であるが、緊急性の高いものから対応した。</p>
<p>次期指定管理者選定時における検討課題等</p> <p>指定管理者の提案事項を基本協定書で明文化する。</p>

9 改善状況等

<p>改善を要すると評価された項目（C、D評価の項目について）</p>
<p>改善状況</p> <p>（指定管理者から県への報告年月日： 年 月 日）</p>
<p>改善状況の確認</p> <p>（再評価年月日 年 月 日）</p>

指定管理・事務事業実績評価チェックシート

評価基準

5：非常に高い成果が得られている  
3：成果が得られている  
1：所定の成果はまだ得られていない

4：かなりの成果が得られている  
2：想定の結果にはまだ課題がある

大項目	具体的事業項目	評価					コメント	
<b>受託業務部門と一体なった利用促進の取り組み</b>								
1	常設展展示の充実	5	4	3	2	1		
2	常設展展示関連行事	5	4	3	2	1		
3	魅力ある特別展示の開催	企画展「生と死と」展	5	4	3	2	1	
		テーマ展「いわての鳥っこ」	5	4	3	2	1	
		企画展「大集合！水晶とそのなかま」展	5	4	3	2	1	
		企画展「四角い土俵とチカラビト」展	5	4	3	2	1	
		テーマ展「庶民の神仏画～鎌田コレクション～」	5	4	3	2	1	
		テーマ地域展「稗貫地方の自然と文化」	5	4	3	2	1	
		テーマ展「新指定文化財展」	5	4	3	2	1	
		企画展「北の縄文文化回廊」展	5	4	3	2	1	
		特別展「北東北三県共同」展 「北東北自然史博物館」	5	4	3	2	1	
		テーマ展「いわての溪流と釣人」	5	4	3	2	1	
		移動展「地域巡回総合展」	5	4	3	2	1	
		移動展「民間共同展」	5	4	3	2	1	
4	特別展展示関連行事	展示解説会	5	4	3	2	1	
		講演会・講座	5	4	3	2	1	
		その他関連行事	5	4	3	2	1	
5	教育普及活動事業							
(1)	体験型事業	体験学習室の運営	5	4	3	2	1	
		「みんなでためそう！体験教室」	5	4	3	2	1	
		「やってみ体験」（体験教室団体版）	5	4	3	2	1	
(2)	講演会	文化講演会	5	4	3	2	1	
		冬期文化講演会	5	4	3	2	1	
(3)	文化財取扱講習会	5	4	3	2	1		
(4)	観察会	地質観察会	5	4	3	2	1	
		自然観察会	5	4	3	2	1	
(5)	講座	民俗講座	5	4	3	2	1	
		考古学セミナー	5	4	3	2	1	
		県博日曜講座	5	4	3	2	1	
		秋期博物館セミナー	5	4	3	2	1	
		いわての博物館交流セミナー	5	4	3	2	1	
		伝統芸能鑑賞会	5	4	3	2	1	
(6)	学芸員出前講座等	地域生涯学習支援事業「いわて地元学支援事業」	5	4	3	2	1	
		学校教育授業支援事業「とびだせ博物館」	5	4	3	2	1	
		学校教育授業支援事業「教材用資料貸出」	5	4	3	2	1	
(7)	学校週5日制対応事業	ミュージアムシアター	5	4	3	2	1	
		チャレンジ！博物館	5	4	3	2	1	
		どう探偵団	5	4	3	2	1	
(8)	博物館実習事業	学芸員資格取得希望者に対する実習指導	5	4	3	2	1	
<b>受託業務部門と一体なったもてる資源を活用した県民の参加機会の拡大</b>								
6	博物館施設の活用、開放	芝生広場の活用、開放	5	4	3	2	1	
		曲り家等の民家の活用、開放	5	4	3	2	1	
		グランドホールの活用、開放	5	4	3	2	1	
		講堂・教室の活用、開放	5	4	3	2	1	
7	四十四田公園との連携	四十四田公園の存在と見所等のPR	5	4	3	2	1	
		公園内案内標識等の整備	5	4	3	2	1	
		当館の植物園・岩石園を含めた公園内案内ボランティアの導入（博物館友の会等の協力）	5	4	3	2	1	
8	岩手山眺望の資源化	グランドホールからの岩手山眺望の資源化、PR	5	4	3	2	1	

評価基準

5：非常に高い成果が得られている  
 3：成果が得られている  
 1：所定の成果はまだ得られていない

4：かなりの成果が得られている  
 2：想定成果にはまだ課題がある

大項目	具体的事業項目	評価	コメント
<b>受託業務部門と一体なったサービス向上への取り組み</b>			
9 利用者等の意見や提案を受け止める多様な窓口の設置	入館者や講演会等への参加者を対象としたアンケートの実施、ご意見箱の設置	5 4 3 2 1	
	来館者と直接接する機会が多い解説員が毎日作成する業務日誌、業務再委託者から毎日提出される清掃・警備等の業務実施報告書	5 4 3 2 1	
	職員が、施設、設備等の状況、博物館に勤務する職員の対応状況等について、意見、要望、苦情等を受けた場合に作成する受付処理簿	5 4 3 2 1	
	学校長会議や社会教育委員会議等の県教委が主催する諸会議に積極的に参加して把握する、博物館に対する意見、要望等	5 4 3 2 1	
	日本博物館協会や若手県博物館等連絡協議会の会議や研修会に参加して得る、博物館に対する社会的ニーズの変化や他館における取り組み事例等	5 4 3 2 1	
	有識者をもって構成される県立博物館協議会や、当事業団理事会及び評議員会などの公的団体の運営の仕組みを活かして把握する、博物館に対する意見、要望、提案等	5 4 3 2 1	
10 把握した意見、提案等をサービス向上に繋げるため	「サービス向上委員会」を設置し、寄せられた意見、要望等とこれに対する対策について委員会で協議し、館全体で取り組む体制を充実する	5 4 3 2 1	
	「サービス向上委員会」で、協議された内容等に対する館の対応状況を、定期的に点検、評価して、適切に進行管理するとともにその結果を委員会に置いて報告する	5 4 3 2 1	
11 PDCAサイクルによる事業評価	事業を効果的に実施し、サービスの向上に繋げるため、PDCAサイクル（計画 実施 評価 改善）の組織的取り組みを実施し、県教委の県出資法人運営評価シートにより検証する	5 4 3 2 1	
12 弾力的な人員配置や業務分担	受託業務総務部門担当職員との間でそれぞれの業務の繋開をみながら、互いに連携、協力することにより、サービスの維持向上と人件費の節減に努める	5 4 3 2 1	
	処理可能な業務は、臨時職員の活用やボランティアの導入など、サービスの水準を落とさないように人件費の増大を防ぐ	5 4 3 2 1	
13 利用相談への対応	個人の利用相談には受託総務部門の職員と連携して親切に的確に対応する	5 4 3 2 1	
	相談者に多様なプログラムを的確に説明できるように、学芸部門と連携して事業情報の共有化を図る	5 4 3 2 1	
	団体利用相談は、学芸部門と連携し、解説希望の有無など要望に応じて的確な対応に努める	5 4 3 2 1	
	学校利用に関しては、博物館の利用が効果的に行われ、教育効果があがるような利用方法について、綿密に打合せを行うなどにより指導をする	5 4 3 2 1	
14 文化財等資料の薫蒸サービス	受託業務文化財科学部門の協力を得て、自前では実施が困難な比較的小規模な博物館、資料館等を対象として、資料の薫蒸サービスを実施する	5 4 3 2 1	
15 ミュージアムショップの運営	展示資料関連図録・グッズ、学術・文化に関する文献・書籍などの物品等の販売	5 4 3 2 1	
	企業や福祉作業所等と連携して、博物館にふさわしい魅力ある商品の開発と販売	5 4 3 2 1	
	ミュージアムショップに専任の職員は配置せず、解説員、受付担当職員等が本来の業務を実施しながら対応する	5 4 3 2 1	
16 公衆電話の設置	高齢者や児童等の携帯電話を持たない来館者のため、赤字ではあるが来館者へのサービスの一環として公衆電話を設置している	5 4 3 2 1	
17 館内外の案内表示の充実、改善	館外の博物館までの案内表示充実、改善	5 4 3 2 1	
	館内の順路、トイレ、エレベータ等の表示の改善	5 4 3 2 1	
	館内案内リーフレットの修正作成	5 4 3 2 1	
18 休館日等について	年末年始の休館日の短縮（12/28～1/4 12/29～1/3）	5 4 3 2 1	
	臨時開館（ゴールデンウィーク期間中、夏休み期間中）	5 4 3 2 1	
	利用団体の要望に応じた開閉館時間の弾力的運用	5 4 3 2 1	
19 職員研修の実施及び参加	接遇研修	5 4 3 2 1	
	外国語（英語、中国語、ハンゲル語）研修	5 4 3 2 1	
	障害者等への適切な対応のための研修	5 4 3 2 1	
	救命講習、展示解説研修	5 4 3 2 1	
	その他事業団等で主催する職員研修・専門研修への参加	5 4 3 2 1	

評価基準

5：非常に高い成果が得られている  
 3：成果が得られている  
 1：所定の成果はまだ得られていない

4：かなりの成果が得られている  
 2：想定成果にはまだ課題がある

大項目	具体的事業項目	評価					コメント
20	利用者等からのクレームの対応方法	5	4	3	2	1	
<b>受託業務部門と一体となったまた来たいと感じてもらえる時間と空間の提供</b>							
21	空調管理及び清掃の徹底	5	4	3	2	1	
	安全性の確保、適切な空調管理や照明、行き届いた清掃の徹底など、博物館にふさわしい、清潔で快適な館内環境の維持 担当職員等の巡回による不具合の早期発見と迅速な対応	5	4	3	2	1	
22	「ひとにやさしい」施設・設備の整備と職員の対応	5	4	3	2	1	
	利用者の立場に立った館内外休憩スペース（椅子及びベンチの配置等）の整備	5	4	3	2	1	
	身障者等に配慮した車いす、ベビーカー、ベビーベッド、身障者用トイレの整備等	5	4	3	2	1	
	事務室前に身障者用駐車場を設けるとともに、高齢者及び団体客等のため弾力的に活用 来館者に対する窓口職員の適切な接遇、特に身障者等に対する適切な対応	5	4	3	2	1	
<b>受託業務部門と一体となった広報、営業活動の強化</b>							
23	効果的広報の戦略	5	4	3	2	1	
	特別展示事業に関するポスター・リーフレット等の作成、配布	5	4	3	2	1	
	入館者全員に、向こう2ヶ月の行事案内の配布	5	4	3	2	1	
	半年間（上期・下期）の行事案内リーフレットの作成と文教施設等への配布	5	4	3	2	1	
	毎月の「イベントガイド」の作成、配布	5	4	3	2	1	
	新聞等マスコミやタウン情報誌などへの積極的な投稿や取材要請	5	4	3	2	1	
	報道機関等からの特別展への後援を得ることによる広報の強化	5	4	3	2	1	
	各旅行会社（バス会社含む）窓口への特別展のチラシの配架と、これを取り入れた旅行商品企画の要請	5	4	3	2	1	
	ホームページを活用したイベント情報の発信	5	4	3	2	1	
	博物館広報誌「博物館だより」の発刊と配布	5	4	3	2	1	
	県広報誌「いわてグラフ」、市町村の広報を活用したイベント情報の周知	5	4	3	2	1	
	県政テレビ・ラジオ番組の活用	5	4	3	2	1	
他の文化・教育施設（機関）と連携した相互PR	5	4	3	2	1		
広報資料の配付先の新規開拓や新たな広報媒体の発掘、博物館友の会のボランティアを活用した広報の実施	5	4	3	2	1		
24	館内情報コーナーの充実整備	5	4	3	2	1	
25	地域団体との連携強化と広報活動	5	4	3	2	1	
26	関係団体との連携強化と広報活動	5	4	3	2	1	
27	学校教育機関との連携強化と広報活動	5	4	3	2	1	
	学校長会議をはじめとする県教委主催のあらゆる会議、研修会に積極的に参加して博物館利用についてPRする。 博物館を利用して学習効果を高めた学校のその利用方法等を、積極的にPRする	5	4	3	2	1	
28	メディアとの連携強化と広報活動	5	4	3	2	1	
	博物館学芸員や収蔵資料を活用した授業プログラム等を作成し、学校側に提示しながら、教師が博物館を利用しやすい環境を整える。 ことあるごとにプレスリリースを流し、常に何か活動し、関心を引く施設を印象づける。 野外空間などを撮影等に使う場合は積極的に協力する。	5	4	3	2	1	
<b>受託業務部門と一体となった博物館の重要な機能を担う施設管理</b>							
29	適切で安定的な施設管理	5	4	3	2	1	
	収蔵庫や展示室の温湿度管理など館内の環境を良好な状態に保って、資料の劣化防止を図る 施設の維持管理費の増大を中長期的にわたりゆるやかなものとしていく取り組み	5	4	3	2	1	
30	経済的で効率的な施設管理運営による経費節減と環境への配慮	5	4	3	2	1	
	OA機器、照明灯などの節電による電力使用量の節減	5	4	3	2	1	
	ボイラーの適正運転、冷房の適切な温度調節による夏季の軽装による重油使用量の節減	5	4	3	2	1	
	公用車のアイドリングストップ及び経済走行による使用燃料の節減	5	4	3	2	1	
	灯油及びガスの使用量の節減	5	4	3	2	1	
洗車、湯沸室、トイレ等の節水による用水使用量の節減	5	4	3	2	1		

評価基準

5：非常に高い成果が得られている  
 3：成果が得られている  
 1：所定の成果はまだ得られていない

4：かなりの成果が得られている  
 2：想定のある成果にはまだ課題がある

大項目	具体的事業項目	評価					コメント
	両面印刷、裏紙使用、コンパクトな資料作成によるコピー用紙購入量の節減	5	4	3	2	1	
	コピー用紙及び印刷物に再生紙かつ非コート紙の使用	5	4	3	2	1	
	備品及び消耗品の購入は、環境配慮型（省エネルギー型機器、環境ラベルのある）製品を選択する。	5	4	3	2	1	
	古紙回収、会議資料の簡素化による可燃ゴミのリサイクル率の向上	5	4	3	2	1	
	びん、缶、ペットボトルの回収及び使用済トナー等の販売店への返却による不燃物ゴミのリサイクル率の向上	5	4	3	2	1	
	ポスター、チラシ印刷に、大豆インキ使用	5	4	3	2	1	
	職員の意識の高揚	5	4	3	2	1	
31 危機管理対策	事業団の施設安全管理マニュアル及び危機発生時安全管理行動マニュアルを受け、博物館として防火管理要綱、災害時対応マニュアル等を作成し、毎年全職員により、来館者の安全・安心を守ることを第一に考えた、不測の事態に備えた訓練の実施	5	4	3	2	1	
	訓練は、利用者の安全確保を第一として、利用者の誘導、避難経路の確保、消防署・警察署への迅速な通報など初期対応に重点を置いている	5	4	3	2	1	
	博物館勤務職員は、交替制勤務のため、組織している自衛消防隊のどの任務にも臨機応変に対応できるよう、防災設備の周知などに重点を置いている	5	4	3	2	1	
	年度ごとに災害等の想定（地震、火災、事件）を変えて、どのような災害にも対応できるように訓練を行っている	5	4	3	2	1	
	受付事務等での現金の取り扱いについては、マニュアルを定め、事故防止に努めている	5	4	3	2	1	
	博物館の重要な事項である文化財の安全確保のため、警備員の24時間常駐体制をとり、空調等に異常が発生した場合の連絡体制も定め、適切に対応している	5	4	3	2	1	
<b>博物館の効率的な施設管理運営</b>							
32 アウトソーシングの推進	博物館業務再委託契約にあたり、指定管理期間を契約期間とする複数年契約を導入することで、経費の節減を図り、円滑かつ効率的な施設管理運営を行う	5	4	3	2	1	
<b>受託業務部門と一体となった個人情報の保護管理等</b>							
33 個人情報の保護管理	個人情報の保護管理に係る関連法令及び事業団の規程、要綱等の定めにより博物館の利用者及び職員の個人情報の取り扱いは慎重に、安全かつ適切な保護、管理に努めている。	5	4	3	2	1	
	個人情報担当者に対して、必要な研修を定期的実施している。	5	4	3	2	1	
	パソコンデータについては、外部からのウィルスやハッカーの侵入を防ぐために最新の防御ソフトを常に更新し、個人情報の流出を防いでいる。	5	4	3	2	1	
	個人情報に関する書類は、常に鍵のかかる書庫に保管し、厳重な管理をしている。	5	4	3	2	1	
	保有する個人情報は、利用目的の範囲内で、正確かつ最新の内容に保つようになっている。	5	4	3	2	1	
	業務を委託する場合は、個人情報の適切な管理能力を有することを条件とし、個人情報の取り扱いに関する定めを締結し、監督している。	5	4	3	2	1	
34 個人情報の収集取得	個人情報の収集、取得は、利用目的を明確にし、必要な範囲で適法かつ公正な手段で収集し、取得後速やかに本人に通知又は公表している。	5	4	3	2	1	
35 個人情報の第三者への提供	個人情報の第三者への提供は、本人の同意を必要条件としながら、関係法令及び事業団の規程、要綱等の定めにより適切に対応している。	5	4	3	2	1	
36 個人情報の開示訂正、利用停止等	本人から自身の個人情報について、開示、訂正、利用停止等の申し出がある場合は、関係法令及び事業団の規程、要綱等の定めにより速やかに、適切に対応している。	5	4	3	2	1	
37 個人情報の取り扱いに関する取り組み、改善	個人情報の取り扱いに関する相談や申し出、苦情等については、迅速かつ適切に対応するとともに、定期的に検証し、継続的な改善に努めている。	5	4	3	2	1	
		5	4	3	2	1	
		5	4	3	2	1	
		5	4	3	2	1	
		5	4	3	2	1	
		5	4	3	2	1	
		5	4	3	2	1	

## 千葉県立中央博物館

当館は、千葉県立の直営館（所管は県教育委員会教育振興部文化財課）である。評価は、大・中・小項目までの千葉県立博物館の共通の項目のもとに各館で設定した項目（シート1）で自らその達成度を評価する自己評価と県立博物館全体の経営改善・博物館運営などの重点戦略について評価を受けるとともに各館の重点事業等について評価を受ける外部評価（第三者評価）が行われている。自己評価は実績等を文章で記述するが、当館では、千葉県立美術館・博物館経営評価検討会のメンバーとなっている当館職員（本館2名、分館1名）が原案を作成、館長の下で決定し、同検討会で微調整が行われている。外部評価は、県生涯学習審議会委員等の外部の学識経験者で構成される外部評価委員会でそれぞれの館の重点事業等（例えば「シート2」のように）について、「4 - 高く評価できる・3 - 評価できる・2 - 部分的に見直しが必要・1 - 全面的に見直すべき」の4段階の評価が行われ、その判定理由等が記載される。

何れも評価後は次年度以降の事業の改善に活用されている。

## 千葉県立美術館・博物館 評価実施要項

### 1.趣 旨

県立博物館の使命を達成するとともに、各館及び県立博物館全体にかかる課題・問題等を明らかにして博物館の経営を改善するために、P・D・C・A マネージメントサイクルによるチェック機能を有する博物館評価制度を導入する。

評価は、博物館職員による自己評価と、外部有識者等で組織した千葉県立博物館外部評価委員会（仮称）（以下、「外部評価委員会」という。）による外部評価を行う。

### 2.評価の目的

#### （１）自己評価の目的

管理、運営状況を把握し、目標設定を行うこと。

実行のための優先順位を明確にすること。

評価結果に基づき、改善策・改善計画を策定すること。

評価結果及びその結果に対する改善努力状況（プロセス）を公表すること。

#### （２）外部評価の目的

県立博物館職員以外で、専門的知識・技能を有した有識者、地域団体・博物館利用者等の外部委員により、幅広い視点から各県立博物館及び県立博物館全体の経営、事業運営等について精査、判定、助言を行うこと。

自己評価及び外部評価に基づいて構築した改善策に対して、助言を行うこと。

### 3.評価の内容・方法

#### （１）自己評価について

##### 内 容

・各博物館が事業の進捗や水準、質に対する目標達成度を測定し、自己診断する。

##### 実施時期

・総合的な評価は、年度末に実施する。

・各事業の評価は、随時実施する。

##### 方 法

・総合的な評価の結果に基づき、次年度の戦略、重点事業、目標値、改善策などを翌年度当初に設定する。予算への反映は、翌々年度となる。

・各々の事業評価は、その事業の成果（結果）やアンケートを解析するなどして行う。

・各館において、「県立美術館・博物館チェック票」を使用して実施する。

・各館独自の評価項目は、小項目として追加する。併せて、追加項目の「県立美術館・博物館チェック票」も作成する。

・評価制度全般について恒常的に見直しを図る。



## (2) 外部評価について

外部有識者等で組織した県立博物館外部評価委員会による外部評価を導入し、「県立博物館全体の運営」及び「各館の重点事業」等について評価を行う。

### 【県立博物館全体の運営評価】

#### 内 容

- ・ 県の施策や使命に基づく県立博物館全体としての戦略及び達成目標などについて重点的に評価を行う。

#### 評価時期

- ・ 実施時期は原則として5月及び3月とする。

#### 方 法

- ・ 年度当初に県立博物館全体としての戦略や達成目標等を設定する。  
具体的には各館の関連事業等を調査し、各館の事業（「県立美術館・博物館チェック票」の共通評価小項目等）の目標値総計などを基にする。
- ・ 5月の第一回委員会では、各県立博物館の運営状況（前年度評価結果による）、当該年度の戦略、重点事業、達成目標について報告・検討する。
- ・ 年度末の評価を行うにあたり、各館における当該事業（共通評価小項目等）の実施状況を調査し、評価資料とする。
- ・ 3月の第二回委員会では、各館の事業実施状況や目標到達度等を県立博物館全体として集計及びとりまとめて提示し、それを基にして総合的に判定を行う。

### 【各館の重点事業等に関する評価】

#### 内 容

- ・ 各館が決定した重点事業等について評価を行う。

#### 実施時期

- ・ 選定した重点事業等の進捗に合わせて担当委員と協議して決定する。

#### 方 法

- ・ 5月の第一回委員会では、各館の重点事業について報告・検討する。
- ・ 担当委員が担当する博物館を現地視察し、館の活動状況及び重点事業などについて説明を受け、それに対する質疑応答を行い、総合的に「県立美術館・博物館重点事業外部評価票」によって評価（総合判定）を行う。また、現地において改善点の指摘・助言を行う（外部評価委員会 分科会）。
- ・ 3月の第二回委員会では、担当委員が各館の評価結果を報告し、改善等について提言を行う。
- ・ 評価判定は、それぞれの評価項目に関して掲げた評価視点について総合的に判断して5段階評価し、その判定理由を所見という形で自由記載する。

中央博物館		自己評価結果				中央博物館	
NO	大項目	中項目	共通小項目	自己評価内容	目標値・指標	評価結果	中央博物館調査項目
1 使命と計画							
		使命					
		A. 使命の明文化	県博使命及び当館使命を明文化し掲示しているか	H16年度に新たに掲げた「中央博物館の使命」を継続的に広報するよう努める	使命を明文化し掲示しているか Yes 千葉県立博物館及び千葉県立中央博物館の使命は、展示室受付に掲示するとともに、ホームページで公開している。その他、概要や年報にも掲載している。		g. 使命・計画
		中長期計画					
		A. 13の大項目の目標設定の有無と、具体的計画及び重点事業の構築	各大項目の目標を中長期のスパンで設定し、具体的計画及び重点事業を予算化し、実施しているか	「中央博物館事業中期目標(H16～20)」(以下「中期目標」)および目標達成のための「事業年次計画」(以下「年次計画」)を、全職員が理解し実現に向けて努力するとともに、次年度計画を実行するために計画に沿った予算要求を行う。	年次計画はあるか。 Yes 事業等の優先順位を付けているか。 Yes(年次計画による優先順位) 実施スケジュールを立て予算要求しているか。 Yes(年次計画による要求) 職員に周知しているか。 Yes(年次計画は職員が策定した) 事業実施に至っているか。 Yes(年次計画に沿った運営を行っている)		g. 使命・計画
		B. 目標の館内周知・共通理解徹底の実施	個々の目標を職員が周知し共通認識しているか				
		評価の実施					
		A. 自己評価(事業活動および業務運営)	職員(含技術員・解説員・補助員等)がそれぞれの部署で適切な自己評価を行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 自己評価制度の確立の「実施」	自己評価を行っているか Yes 事業活動の結果を年次報告(評価調査)として集約し、それに基づいて、当該年度の計画達成度を評価している。		
		B. 外部評価	博物館協議会等の外部評価を適切な項目(内容)で行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 外部評価制度の確立の「実施」	協議会の開催および外部評価の実施 Yes 中央博物館博物館協議会は、県立美術館博物館協議会に統合され、年数回実施している。またH19年度、県立美術館博物館外部評価委員会が設置され、その中央博物館分科会により当館への外部評価が行われている。		hi. 自己評価・外部評価
		C. 評価の反映	上記の各評価が各館使命に基づきP.D.C.A.サイクルに反映されているか	中央博物館の自己評価により中期目標「年次計画」の達成度を評価する。	P.D.C.A.サイクルに反映されているか Yes 事業年次計画のうち、当該年度の計画達成度を評価調査に基づいてA～Dの4段階で判定し、C,D判定の事業計画については、事業中止を含め、次年度以降の計画を見直すことになっている。		
2 組織と運営等							
		組織・人員					
		A. 危機管理・防災体制	危機管理・防災体制が組織的(マニュアルの作成及び実地訓練等)に行われているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 21危機管理体制の確立の「実施」	危機管理・防災体制が組織的に行われているか Yes 「中央博物館 緊急対応マニュアル」を整備し、職員に周知すると共に、毎年、防災防犯訓練を実施している。H19年度は、2月に実施した。		i. 危機管理体制の確立
		B. 個人情報の管理	個人情報に関するデータ管理が適切に行われているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 21危機管理体制の確立の「実施」	個人情報に関するデータ管理が適切に行われているか Yes 行事等の参加者の氏名等の個人情報は施設管理し、事後速やかに、もしくは保存期間を満了して適切に削除している。ただし、本人の承諾を得た名簿については保管し、行事案内などをダイレクトにメールする際に利用している。		i. 危機管理体制の確立
		C. 職員研修	運営・事業・博物館全般・21世紀の博物館像等に関する、県主催研修、各種博物館協会研修、各館研修および学会等外部機関等の内外の研修に対して、博物館職員が積極的に参加できる体制がとられているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 高度な学術的資質を有する職員の確保と育成の「実施」	博物館職員が積極的に参加できる体制がとられているか Yes 外部より通知された各種研修会等の案内は、職員に回覧し、希望する職員には、可能な限り受講・参加の機会を与えている。		ac. 多様な博物館教育サービスの企画・開発力・専門性の向上
		D. 博物館倫理規定の遵守	博物館倫理規定に基づいて職員間の理解を図っているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	職員間の理解を図っているか Yes ・国際博物館会議の倫理規定(ICOM2004)を遵守している。		
県民ニーズに則した運営							
		A. 利用者数	当該年度の利用者数は何人であったか 利用者数には、館の専門分野に関する問い合わせも含む	「中期目標」では目標および計画を設定していない	利用者数に関して、総人数、小中高大学生、団体等の分類で算出する。 (括弧内は前年度) (本館) 総入館者数: 159,425(178,509人)、累計: 3,180,677人(3,021,252人)、個人: 143,676人(163,229人)、団体数: 226団体(260団体)、団体人数: 15,749人(22,281人)、一般: 131,052(140,117人)、高大学生: 2,279(3,232人)、中学生以下: 26,994人(35,160人)、主催行事参加者総数: 15,589人、HPアクセス数: 112,473件 (大利根分館) 総入館者数: 15,500人(24,842人)、累計: 1,541,409人、個人: 11,576人(16,660人)、団体数: 38団体(105団体)、団体人数: 3,924人(8,182人)、一般: 11,296人(15,323人)、高大学生: 90人(170人)、中学生以下: 4,114人(9,349人)、主催行事参加者総数: 194人、HPアクセス数: 22,088件 (大多喜城分館) 総入館者数: 63,115人(62,400人)、累計: 4,088,167人、個人: 54,497人(55,199人)、団体数: 244団体(222団体)、団体人数: 8,618人(7,201人)、一般: 54,497人(53,424人)、高大学生: 1,293人(1,462人)、中学生以下: 5,516人(7,514人)、主催行事参加者総数: 134人、HPアクセス数: 28,114件		j. 事業別評価制度の確立
		B. 利用者満足度、ニーズなどマーケティング調査	マーケティング調査を行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 研究事業評価制度の確立の「実施」 章 展示事業評価制度の確立の「実施」 章 市民学普及支援事業評価制度の確立の「実施」 章 学校連携事業評価制度の確立の「実施」 章 房総の山のフィールド・ミュージアムの評価制度の確立の「実施」	マーケティング調査を行っているか Yes ・常設展示室に、自由記載方式のアンケート用紙(いわゆる「来館者の声」)を常備しており、H19年度は、97件の意見が寄せられた。 ・期間限定で来館者への聞き取り調査を行っている。H19年度は、8月後半の6日間、展示室と生態園において実施した。有効回答件数は、展示室95件、生態園10件である。 ・展示会開催期間中は、展示会場内にアンケート用紙を設置している。H19年度の企画展「化石が語る熱帯の海」におけるアンケート回収数は、444件であった。		
		情報公開					
		A. 協議会の公開	館内掲示およびホームページ等を活用して適切な情報公開が行われ、透明性が図られているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 博物館自己評価の毎年ウェブ上での公開促進の「公開」 章 年報のウェブ上での公開促進の「公開」	協議会の情報を公開しているか。 Yes 使命・中期目標は公開しているか。 ウェブで公開している 自己評価・年報は、作業が遅れたためまだウェブで公開していない。H19年度は作業が済み次第公開予定である。		g. 使命・計画
		B. 使命、目標、計画などの方針公開					
		C. 評価結果の公開					hi. 自己評価・外部評価

中央博物館		自己評価結果					中央博物館調査項目
NO	大項目	中項目	共通小項目	自己評価内容	目標値・指標	評価結果	中央博物館調査項目
3 施設、設備							
施設設備の維持・管理							
		A. 定期点検の実施の有無	各種定期点検が計画通り行われているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 施設管理(警備、清掃、設備、保守点検、燻蒸、展示保守)の充実の「実施」 章 外構管理(清掃、剪定、草刈、設備保守)の充実の「実施」	改修・改善箇所を把握しているか。 Yes 改修・改善の実施計画を年度別に構築しているか。 Yes 計画通りに実施されているか。 Yes 施設設備については、毎年、保守点検をおこなっている。また、軽微な損傷については、常駐する設備維持管理の委託業者社員によって、その都度保守を行っている。H19年度は、庶務部長を統括とした安全管理委員会を設置し、安全に関する案件を集約的に協議した。19年度も引き続き同委員会で開催した。	b. 常設展示 fg. 施設管理・外構管理・生体園の整備・改修	
		B. 改修・保全	改修・保全が適切に行われているか				
		C. 安全衛生の管理	安全衛生の管理が適切に行われているか				
アメニティーの向上							
		A. バリアフリー	各館使命に基づいた施設のバリアフリー対策、万人に対応した受け入れ態勢がとられているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 施設・設備の改善計画立案及び実施の「計画」 章 外国語等での案内表示の新設の「方針策定・計画」	万人に対応した受け入れ態勢がとられているか Yes 一般来館者が利用するエリアにおいては、車椅子用スロープ、点字ブロック、障害者用トイレ、専用駐車スペースを設け、バリアフリーの対応を行っている。また、車椅子の貸し出しや職員による介助も、必要に応じて行っている。現在生体園についても検討している。	a. ユニバーサルデザイン	
		B. アクセス	公共交通機関が効果的に機能しているか(含誘致)、また、駐車場の確保が行われているか、さらに、アクセスの案内(サイン・インフォメーション)が迅速にかつ分かりやすく行われているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	公共交通機関が効果的に機能しているか。 Yes 駐車場の確保が行われているか。 Yes 交通関連等のサインが適切に配置されているか。 No 館へのアクセスのインフォメーションが迅速かつ分かりやすく行われているか。 No 最寄り駅(千葉駅・蘇我駅・千葉寺駅)とバスの接続は良好であるが、一部バス停からの徒歩来館者や遠方からの車での来館者に対する案内標識は改善すべきであるとの指摘がある。駐車場は、青葉の森公園北口駐車場が最寄り駐車場であり、公園管理センターが管理しているため、場内でのトラブルに直接対応できない、という問題がある。	b. 案内表示 b. アメニティーの向上	
		C. ミュージアムショップ	商品の質、数、料金、管理、迅速さ、接客等が満足できるかどうか、また、アンケート調査等で来館者ニーズを把握している	「中期目標」では目標および計画を設定していない	ミュージアムショップは友の会が経営している。ニーズ調査はとくに行っていないが、商品の売れ行き動向から、品揃えを見直している。また、企画展など大きな行事の開催期間中は、関連商品の特設コーナーを設置している。	b. アメニティーの向上	
4 財源							
予算の確保							
		A. 総予算の比率	総予算の比率はどうか(事業費・人件費)	中期目標のうち「19年度の計画」 章22予算の確保、「年次計画は設定していない」	総予算の比率はどうか(事業費・人件費) 評価不能 H19年度の人件費は、本庁が一括管理しているため、中央博物館に資料は存在しない。	m. 財源	
		B. 入場料収入	当初入場料収入計画に対する実際の入場料収入の達成率はどうかであったか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	入場料収入 9,188,010円(目標値の約70%)、本館、大多喜と大根分館との合計 17,609,590円	n. 受益者負担	
		C. その他の収入	その他の事業収入はどうかであったか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	・軽食喫茶電気料 274,789円 ・Mショップ電気料(本館) 143,639円 ・Mショップ電気料(海博) 6,280円 ・自販機設置料(本館) 16,800円 ・自販機設置料(大根) 22,875円 ・自販機設置料(大多喜城) 366円 ・コピーサービス(本館) 21,320円 ・音声ガイド(本館) 332,800円 ・自動検針器電気料(本館) 6,300円 ・公衆電話設置料(海博) 1,969円		
館独自の財源獲得							
		A. 外部助成金等の獲得	外部助成金等を効果的に獲得しているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 助成金採択数の増加のため、助成金獲得のための手引き書の(マニュアル)整備の「方針策定」	外部助成金等(含県関連財団)を申請しているか。 Yes 外部助成金等(含県関連財団)を獲得しているか。 Yes 獲得件数: 15件(うち科研費7件) 獲得金額: 30,778,000千円(ほぼ昨年並み)	m. 財源	
5 収集、保存及び活用							
資料収集							
		A. 収集点数	当該年度に収集した資料点数は何件・何点か	中期目標のうち「19年度の計画」 章 収集計画に基づいた資料収集活動の推進の「実施」 章 図書の充実の「実施」	登録資料600,598点(582,807点) 情報システム登録点数 112,732点(112,381点) 画像登録点数 1,184点(1,179点)()内は18年度 おおむね順調に推移	a. 資料・図書 の収集	
		B. コンプライアンス	収集手続き(関連書類作成)等が滞りなく行われているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 内規の整備・改訂の「見直し・実施」	Yes 資料収集に関する内規は、常に見直し、法令等への遵守に勤めている。	j. 資料収集・整理保存の内規・細則	
		C. 寄託・寄付・購入点数	寄託・寄付・購入を受けた件数は何件・何点か	「中期目標」では目標および計画を設定していない	寄贈・提供 動物資料として、佐藤正孝氏昆虫生態写真 スライドボックス28箱、菱田忠義氏貝類コレクション 420点、地学資料として、清田潔氏化石コレクション 817点、図書文献資料として、単行本1,586冊、雑誌4,570冊 おおむね順調に推移	a. 資料・図書 の収集	
資料保存							
		A. 保存処理	資料の保存処理が適切に行われているか(含予算化)	「中期目標」では目標および計画を設定していない	資料の保存処理が適切に行われているか。 Yes 保存処理の予算要求を行っているか。 Yes 収集から収蔵までの資料の保存処理は、動物・植物・地学・歴史の各資料系ごとに、処理過程および要する時間は異なる。基本的に、収集から収蔵までは、専門の研究者が責任をもって処理している。ただし標本燻蒸については、資料管理研究科が運転している。計画のとおり実施		

中央博物館		自己評価結果					中央博評価調 書項目
NO	大項目	中項目	共通小項目	自己評価内容	目標値・指標	評価結果	
			B. 修復	資料の修復作業が適切に行われているか(含予算化)	「中期目標」では目標および計画を設定していない	資料の修復作業が適切に行われているか。 Yes 修復作業の予算要求を行っているか。 Yes 修復が必要な資料の担当は、各担当者が随時手作業で行っているが、展示資料も含め資料修復の予算は獲得できていない、展示物劣化に対する抜本的な対応が求められる。	ce. 収蔵庫設 備・図書 の保管場所・資料 の保存
			C. 収蔵資料の維持管理	定期的に維持管理等が行われているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 収蔵庫の燻蒸(収蔵庫単位で実施)の「実施」 章 燻蒸釜の運転の「実施」 章 総合的有害生物管理の手法検討の「計画策定と実施」	定期的に維持管理が行われているか。 Yes 収蔵庫の温湿度管理が適切に行われているか。 Yes 収蔵庫の入出者等の管理が行われているか。 No 収蔵資料の維持管理は、各担当者が適宜行っている。また、収蔵庫の環境管理は、資料管理研究科と設備管理委託業社社員(常駐)により、適宜行っている。収蔵庫への職員の入出は、規制しておらず、出入記録も取っていない。しかし、収蔵庫への部外者の出入りには、必ず職員が立ち会うようにしている。なお、H19年度は、第五収蔵庫をアルプによって燻蒸した(9月初旬)、また燻蒸釜は5回運転した。定期的に粘着トラップを収蔵庫や展示室などに設置し、害虫の動態を調査し、IPMの方針策定のための基礎資料とした。収蔵庫燻蒸をめぐる評価と対応策が検討されている。	
資料管理							
			A. 収蔵点数	収蔵資料の点数は何件・何点か	「中期目標」では目標および計画を設定していない	台帳登録点数: 600,522点(前年度 582,807点) 自然史資料の場合、大量に収集されるが、あるいは化石のように岩石ブロックとして収集されるため、収集時点で資料点数を把握することは一般的に困難である。当館での資料点数はあくまで、さまざまな標本化過程を終えた後、台帳登録段階になってはじめて把握できるものである。今後人文系を強化したい。	a. 資料・図 書の収集
			B. 登録(台帳記入、カードの記入)	収蔵している資料の管理が適切に行われているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 標本の作製・登録の推進の「実施」 章 著作物資料の登録と一元管理システム構築の「計画策定と実施」 章 情報システムによる資料データベースの効率的な管理運用の「実施」 章 図書の登録・整理・保管の「実施」 章 各種文献リスト(千葉県関係文献ほか)の整備の「実施」	台帳登録点数: 600,522点 情報システム登録点数(112,732点) 当館の収蔵資料の管理には、台帳登録段階と情報システム登録段階の2段階がある。資料系ごとに資料の量や担当職員数などが異なり、情報システム登録段階に達する率も異なる。	
資料活用							
			A. 貸し出し(博物館、学校、県民、マスコミ、研究および展示)	要望に対して資料の貸し出し等を行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 資料の館外利用(貸出・閲覧)の促進の「実施」	要望に対して資料の貸し出し等を行っているか。 Yes 件数: 97件(一般資料41件、著作物資料40件、研究用貸出16件) 資料貸し出し要請に対しては、各担当者が依頼者の所属や申請された使用目的から妥当性を判断し、適正に対処している。昨年度と比較して大幅増である。	d. 資料等の 利用
一般図書管理							
			A. 収蔵図書の冊数	収蔵図書の冊数は何冊か	「中期目標」では目標および計画を設定していない	収蔵冊数: 41,850冊(前年度40,387冊) 図書購入費が決定的に不足しており、最新の情報入手に支障が生じている。	a. 資料・図 書の収集
			B. 購入・寄贈図書の冊数	新たに収蔵した図書の冊数は何冊か	中期目標のうち「19年度の計画」 章 図書の充実の「実施」	受け入れ 単行本: 1,586冊、雑誌: 4,570冊 購入 図書: 18冊/雑誌: 31誌412冊/千葉県東の地形図(2万5千分1.5万分1、20万分1)、全国地図(5万分1、20万分1)、加除式図書(2種)。	
6 調査・研究							
調査事業							
			A. 調査事業の件数	当館の使命に基づいた調査・研究を計画的に行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 研究課題の再編成の推進の「実施」 章 重点研究課題の適切な設定と実施	調査・研究を計画的に行っているか Yes ・研究課題数: 件数: 101件 (内訳) 重点研究課題 3件 / 地域研究課題 52件 / 普通研究課題 48件 当館では、従来の総合研究・専門研究という研究課題の枠組みを、重点研究課題、地域研究課題、普通研究課題という県民にも分かり易い枠組みに再編した。	ab. 研究課 題・重点研 究課 題
外部との調査・研究							
			A. 外部との調査研究の件数	外部団体等と共同して調査研究を行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 共同研究の方針(ガイドライン)の整備と実施の「方針策定」 章 助成金採択数の増加のため、助成金獲得のための手引き書(マニュアル)整備の「方針策定」	外部団体等と共同して調査研究を行っているか Yes ・件数: 10件 ・共同研究の相手はどこか 東邦大学(2件)、フランス国立パリ自然史博物館、国立科学博物館、千葉大学真面目医学研究センター、中国哈爾濱医科大学、国立民族学博物館、千葉大学、国立環境研究所、秋田県立大学	c. 他機関及 び外部研 究者 との共同研 究
研究成果の発表							
			A. 展示への反映	研究成果を常設展・企画展等の企画に反映させているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	研究成果を常設展・企画展等の企画に反映させているか Yes ・企画数: 本館16件/大根分館3件/大多喜城分館2件/山のフィールドミュージアム1件/出前展示10件 ての展示会は、当館独自の調査研究成果を反映した展示である。	e. 戦略的な 展示事業の展 開
			B. 新聞、雑誌等マスコミ掲載	研究成果をマスコミ等へ情報提供し、掲載されているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	研究成果をマスコミ等へ情報提供し、掲載されているか Yes ・自然史関係の情報をメディアに提供した件数: 190件 113件(新聞雑誌)、77件(テレビ・ラジオ) おおむね順調に推移	b. メディア 対策
			C. 研究成果の学術的公表(館独自項目)	学会誌や館の報告書等の論文執筆を行い、発表を行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 中央博が編集する研究報告書の出版の「実施」 章 学術雑誌・学術報告書・学術出版物への掲載の「実施」 章 中央博が主催する研究会、シンポジウムの開催と内容の充実の「実施」 章 国内外での学会・シンポジウム・講演会等における発表の充実の「実施」	論文執筆を行い、発表を行っているか Yes ・学術論文 93件(前年度 110件)/学術報告書 54件(前年度 45件)/口頭発表 141件(前年度 113件) おおむね順調に推移	f. 学術報告 書・学術論文 での公開・口 頭発表での公 開

中央博物館		自己評価結果					中央博評価調 書項目
NO	大項目	中項目	共通小項目	自己評価内容	目標値・指標	評価結果	
7 展示							
常設展示							
	A.	展示更新回数・点数	計画的な展示替えが行われているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 常設展示の更新計画立案の「調査」	展示替えに関しての計画があるか、 Yes 計画通りに展示替えが行われているか、 No 年間更新回数：未集計 H15年度作成の「今後の当館の展示事業について」(H14年度展示プロジェクト)に基づき、約7,000点の展示物について、退色劣化したものを中心に資料の交換等を日常的に行っている。ただし、予算が減少しているににより、必ずしも必要な更新が実施されているわけではない。	a. 展示更新 計画立案	
	B.	展示手法の改善	効果的な展示手法を導入しているか(ものを見せること の工夫をしているか)	事業中期目標 章 H19年度計画 展示室及び展示物の改修・修繕の「実施」 展示室のアメニティの改善の「調査」	企画展等については、毎回会期後に結果報告会と反省会を開催し、次回開催時の改善点を確認している。 厳密な総括を実施している。	j. 事業別評価 制度の確立	
	C.	展示保守・管理状況	計画的な保守や管理が行われているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 管理体制の改善の「実施」 章 展示室及び展示物の改修・修繕の「実施」 章 展示室及び展示物の保守・清掃の「実施」	保守や管理の計画があるか、 Yes 計画通り行われているか、 Yes 保守・管理のための予算要求を行っているか、 Yes 展示中の事故はなかったか(職員・来館者)、 なかった	b. 常設展示	
企画展示(入場料の変更が必要な展示)							
	A.	入場者情報(数、年齢、地域など)	入場者の動向把握を行っているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	入場者情報の把握を行っているか、 yes 企画展ごとに展示室にアンケート用紙を設置し、展示担当者が、入場者動向を分析を行っている。	j. 事業別評価 制度の確立	
	A.	入場者情報(数、年齢、地域など)	入場者の動向把握を行っているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	何回展示企画を行い実施したか 3回 入場者情報の把握を行っているか、 yes	j. 事業別評価 制度の確立	
	B.	満足度	来館者が企画展示に満足しているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	「分かりやすい展示(おもしろい展示、興味ある展示等)であったか」 4(5段階評価) ピアレビューを行うことにより、学芸員の資質向上に努めているか yes 展示会ごとに入場者アンケートを実施すると同時に、館内で結果報告会および反省会を実施している。「化石が語る熱帯の海」アンケートによる満足度87%であった。		
	C.	戦略的な企画展の開催	企画段階で「目的・ねらい・対象」を明確にするとともに、効率的に実施できる体制を整備する。	中期目標のうち「19年度の計画」 章 展示会長期計画の作成の「方針策定」 章 展示事業の効率化と質向上のための体制確立の「実施」 章 展示事業の効率化と質向上のための体制確立の「方針策定・実施」	何回展示企画を行い実施したか 企画展：本館2回、 企画展数：本館2件 / 大利根分館1件 / 大多喜城分館1件 その他の展示会：本館12件 / 大利根分館2件 / 大多喜城分館2件		
出前展示							
	A.	展示企画数	何回展示企画を行い実施したが、または展示の要望があったか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	何回展示企画を行い実施したか 本館 2件(地球たい好き環境キャンペーン、エコメッセ2007) 大利根分館 6件(「むかしの道具、学校間移動展」) 房総の山のフィールドミュージアム 1件(清和地区文化祭)	e. 戦略的な 展示事業の展開	
	B.	満足度	利用者が満足しているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	一部事業についてはアンケートを実施したが、概ね満足してもらっている。	j. 事業別評価 制度の確立	
他館との合同企画による展示							
	A.	展示企画数	何回展示企画を行い実施したが、併せてネットワークを活用した企画であったか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	何回展示企画を行い実施したか 1回(「房総発掘ものがたり」展)	e. 戦略的な 展示事業の展開	
	B.	満足度	来館者が満足しているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	本展示についてのアンケートによる、来館者の声では概ね満足感を与えていると考える。	j. 事業別評価 制度の確立	
8 教育普及事業							
体験学習・ワークショップ・イベント・観察会・講座・連携事業等							
	A.	体験学習等の回数	各館使命に基づいた体験学習等をどのくらい行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 講座・観察会の戦略的な年次計画立案及び実施の「見直し・実施」	各館使命に基づいた体験学習等をどのくらい行っているか、 本館 講座427件(講座30件、解説会9件、シンポジウム15件、ちば学講座2件、講演会7件、ミュージアムトーク238件、三島小学校博物館60件)、 観察会144件、イベント18件、中央博調査隊8件、森の調査隊147日 大利根分館 体験教室 2件6日 大多喜城分館 講座2件6日	bc 講座・観察会等の主催 行事(当日参加型・事前申込型)	
	B.	体験学習等の参加者数	個々の事業に参加した人数は何人か	「中期目標」では目標および計画を設定していない	体験学習等に参加した人数は何人か、 本館 講座1859人、観察会1,827人、イベント2,031人、中央博調査隊364人、森の調査隊4412人 大利根分館 体験教室194人 大多喜城分館 講座134人		
	C.	満足度	参加者は満足しているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	来館者が各事業に満足しているか、 4(5段階評価) 500人以上の事業すべてにアンケート調査は実施していないが、定員設定のある事業について、以下のような実績があるので、満足度は4とした。 本館で人数による定員設定がある事業171件に対する実績 実績6,701人/定員8,308人 = 80.8%	j. 事業別評価 制度の確立	
	D.	事後指導	継続的な学習支援の体系が構築されているか	事業中期目標 章 H19年度計画 学習情報センター設置・充実と県民への周知促進の「見直し・実施」 電話、メール等での問い合わせに対するサービスの推進の「見直し・実施」	体験学習等の終了後に質問や継続的な学習について支援する体系が構築されているか、 Yes 電話および直接訪問、いずれによる手段でも事後の質問や意見に対応する体制を整備している。	a. 県民への 直接的発信	

中央博物館		自己評価結果						
NO	大項目	中項目	共通小項目	自己評価内容	目標値・指標	評価結果	中央博評価調査項目	
			E. 資料やワークシート	必要な資料やワークシートが用意されているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	必要な資料やワークシートが用意されているか yes 多くの事業において、研究員はテキストを作成し配布している。	bc 講座・観察会等の主催行事(当日参加型・事前申込型)	
		講演会						
		A. 講演会の回数	各館使命に基づいた講演会をどのくらい行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 講座・観察会の戦略的な年次計画立案及び実施の「見直し・実施」	各館使命に基づいた講演会をどのくらい行っているか、 講演会17件、シンポジウム10件		bc 講座・観察会等の主催行事(当日参加型・事前申込型)	
		B. 講演会の参加者数	講演会に参加した人数は几人か	「中期目標」では目標および計画を設定していない	講演会1,065人、シンポジウム907人		j 事業別評価制度の確立	
		C. 満足度	参加者は満足しているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	一部事業についてはアンケートを実施したが、概ね満足してもらっていると考えている。		a 県民への直接的発信	
		D. 事後指導	継続的な学習支援の体系が構築されているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	体験学習等の終了後に質問や継続的な学習について支援する体系が構築されているか、Yes 電話および直接訪問、いずれによる手段でも事後の質問や意見に対応する体制を整備している。			
		E. 資料やワークシート	必要な資料やワークシートが用意されているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	必要な資料やワークシートが用意されているか yes 多くの事業において、研究員はテキストを作成し配布している。			
9 情報の発信								
		県民への直接的情報提供						
		A. 電話・来館面接・電子メール等の質問	県民からの問い合わせ等に的確に対応しているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 学習情報センター設置・充実と県民への周知促進の「見直し・実施」 章 電話、メール等での問い合わせに対するサービスの推進の「見直し・実施」	県民からの問い合わせ等に対応しているか Yes 1. 学習情報センターでの来館者対応実績 ・窓口業務: 2,235件 ・閲覧コーナー入室者数: 2,250人 ・質問対応: 264件 ・コピーサービス利用者: 110件/1,891枚 ・書庫資料閲覧請求: 27件 2. 研究部の質問・視察対応実績8,731件(教育普及課の対応件数は含まない) ・来館者の質問への対応: 1,665件 ・電話・Eメール・FAXでの質問対応: 6,807件 ・視察対応: 259件 例年どおりに推移		a 県民への直接的発信	
		メディアへの情報発信						
		A. 発信/掲載件数	メディアへ館事業の情報提供及び広報活動を定期的に行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 メディア対応室の設置の「方針策定」 章 メディアとの定期懇談会の開催の「実施」 章 メディアへの情報発信マニュアル及びプレスリリース資料の開発の「実施・見直し」	メディアへの情報を定期的に発信しているか、Yes 本庁および他の自治体等を経由した広報活動 総数 50件 メディアからの協力要請に対応しているか、Yes 本庁および他の自治体等を経由した広報活動 総数 50件 取材協力(新聞・雑誌等) 総数 113件(大利根・大多喜城分館分も含む) 取材協力(テレビ・ラジオ等) 総数 109件(大利根・大多喜城分館分も含む) 各種メディアからの取材や館情報提供要請、ならびTV等の番組制作者からの協力要請には、原則的に全て対応している。展示会の宣伝用に、簡潔で宣伝効果の高い広報資料を整えるよう努めている。		b. メディア対策	
		ホームページによる広報						
		A. ホームページの更新件数、アクセス数、資料検索システムの登録件数	定期的な更新がなされているか、アクセス数はどのくらいか、資料検索システムの登録件数はどのくらいか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 ウェブサイト更新体制の確立の「実施」 章 ウェブサイト管理体制の確立の「実施」 章 研究成果、資料等のウェブサイトでの公開促進の「実施」	定期的な更新がなされているか、 更新件数: 本館 1,302回(前年度349回) 大利根分館 7回、 大多喜城分館 12回 アクセス件数はどのくらいあるのか、 件数: 本館 112,473件(前年度 149,473件) 大利根分館 22,034件、 大多喜城分館 28,114件 収蔵資料検索システムでの公開点数 50,462点(前年度 49,903点)		d. ウェブサイト	
		印刷物の刊行						
		A. 印刷物による情報提供及び広報活動	館事業等の情報提供及び広報活動を計画的に適切に実施しているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 博物館活動PR用印刷物・館内・園内案内用印刷物の充実の「実施・見直し」 章 普及用印刷物の充実の「実施」	印刷物等の刊行により、館事業の情報提供及び広報活動を計画的に適切な時期をもって行っているか、Yes 種類: 本館 25種類 /大利根分館 5種類 /大多喜城分館 7種類 時期は適切か、Yes 次年度の年間行事予定や利用者案内パンフは、前年度3月初旬、年報等、前年度活動は、年度内の早い時期を目指している。展示等の当該年度事業は、事業実施の約2カ月前までの完成を目指している。		c. 印刷物	
		図書室の公開						
		A. 図書資料の閲覧	図書の閲覧がスムーズに行われるシステムになっているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 来館者向け図書利用の促進の「実施」 章 コピー・サービスを友の会と連携する体制の確立の「実施」	図書の閲覧が行われているか、Yes 利用者数: 2,250人(前年度 2,500人) 当館では、展示ロビーに海の自然誌に関する各種図書を配架しており、一般利用者が自由に閲覧できるようにしている。また、館内の図書室には主に専門書を収蔵しており、こちらについては一般に開放はしていないし、ただし、特に希望があった場合には、職員立ち会いの下に閲覧を許可している。		h 図書の利用	
10 県民参画								
		県民との協働						

中央博物館		自己評価結果					中央博評価調 書項目
NO	大項目	中項目	共通小項目	自己評価内容	目標値・指標	評価結果	
			A. ボランティア	ボランティアを効果的に配置し、活用するシステムが構築されているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 ボランティア登録制度の整備の「方針策定・実施」	ボランティアを効果的に配置するシステムがあるか。 yes 人数：180人(前年度161人) 活動日数：935人日(前年度778人日) ボランティア登録は博物館として一元的に管理し、展示室ボランティアなど5種類活動に従事してもらっている。着実にシステムが整備されれている。	a. ボランティア制度
			B. 県民からの情報提供	県民からの情報が効果的に収集できるシステムが構築されており、活用されているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	当館では、県民との接触は常に双方向の情報交流であると考えており、実際、県民からの問い合わせの際には、同時に自然や歴史に関する新たな情報が提供されることも多い。したがって、大項目9「情報の発信」の中の「県民への直接的な情報提供」の実績と、本項目の実績は区別することはできない。	a. 県民への直接的発信
			C. 友の会(設置館のみ)	友の会活動が効果的に行われているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 友の会やNPO等と連携した講座・観覧会の企画及び展示室を利用した学習支援活動の「方針策定・実施」	友の会活動が効果的に行われているか。 Yes 友の会会員数：525人(H20年3月末現在)(昨年度同期 556人) 友の会との連携事業：36件 総参加者数 2669人	b. 市民やNPO等との連携事業
		NPO・外部機関との連携・調査					
			A. NPO・外部機関の研究會との連携・調査	連携・調査のシステム(受け入れ態勢等)が構築されており、効果的な連携が行えるようになっているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 共同研究の方針(ガイドライン)の整備と実施の「方針策定」 章 市民やNPO等と連携した展示活動の「方針策定・実施」 章 市民やNPO等と連携した調査研究活動の「方針策定・実施」 章 市民やNPO等と連携した資料収集及び整理保存活動の企画の「方針策定・実施」	連携のシステムが構築されているか。 yes 連携件数 ・市民団体・NPO主催行事への講師としての協力 34件 ・市民団体・NPO主催行事への学習キット貸出 6件 ・研究会同好会主催行事への講師としての協力 29件 ・研究会同好会への役員・委員としての協力 3件 例年と同様に推移	b. 市民やNPO等との連携事業
11 人材育成							
		博物館実習					
			A. 博物館実習の人数	博物館実習を行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 博物館実習の受け入れの「実施」	博物館実習を行っているか。 yes 人数： 博物館実習A(9日間の集中実習)：12人 博物館実習B(1日間の訪問実習)：25人	e. 学習支援事業
		外部依頼講師(大学、行政研究会など他組織)					
			A. 外部依頼講師の回数・人数	外部への講師派遣等の要望があるか、また、的確な支援体制が構築されているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章22講師派遣依頼に対するガイドライン策定とそれに基づく対応「計画・実施」	外部への講師派遣はあるか。 Yes 件数： ・野外観察会や野外調査の指導者としての支援：(本館)89件、3347人 ・講演会等の講師としての支援：(本館)3件、167人 ・講座等の指導者としての支援： (本館) 70件、2,058人 (大多喜城分館) 9件、6,658人「ゲストティーチャー」による大幅な増加があった。 (大利根分館) 6件、83人	h. 講師派遣
		教員研修					
			A. 教員研修の回数・人数	教員研修を行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 ニーズ調査のための教員懇談会の開催の「方針策定・実施」 章 教員研修依頼の計画的な受け入れの「実施」 章 教員向け研修事業の計画・提案の「調査・実施」 章21教員向け生態園利用マニュアルの作製・提案の「実施」	教員研修を行っているか。 Yes 件数： ・依頼による研修：38件、2074人(一部未集計) ・教員・指導員向けの講座の主催：13件、280人	g. 学校との連携・教員研修
		職場体験学習・インターンシップ					
			A. 職場体験学習・インターンシップの回数・人数	職場体験等を受け入れているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 職場体験受け入れ、インターンシップ、その他の実習の受け入れの「見直し・実施」	職場体験をうけいれているか。 Yes 職場体験(中学生)：15件、48人 インターンシップ(高校生)：4件、6人 着実に増加している	e. 学習支援事業
		ボランティア育成					
			A. ボランティア育成の研修回数・人数	ボランティア育成のための研修が行われているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 ボランティア登録制度の整備の「方針策定・実施」 章 市民参画促進のための体制確立の「方針策定・実施」	ボランティア育成の研修を行っているか。 Yes 年度当初に2回、すべてのボランティアを対象に、博物館概要などについて研修を行うほか、各活動ごとに随時、担当研究員による研修が行われている。	a. ボランティア制度
		博物館職員の研修					
			A. 研修内容の館内伝達の方法と実施	館内の他の職員への伝達の機会を適宜もっているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 来館者向けサービスの創造的な企画力を有する職員(エデュケーター)の確保と育成の「方針策定」 章 展示解説等、来館者サービスに高い能力を有する職員の確保と育成の「実施」 章 高度な学術的資質を有する職員の確保と育成の「実施」	研修内容の他の職員への伝達の機会を適宜もっているか。 Yes 嘱託職員については、研究員による研修を実施しており、その内容はすべての解説員が共有できるシステムになっている。また研究員が外部で受けた研修の内容は、復命し、必要があれば関係部署に供覧するようにしている。	ac. 多様な博物館教育サービスの企画・開発力・専門性の向上
12 県民等からの依頼による学習支援							
		常設展示・企画展示等の活用					

中央博物館		自己評価結果				中央博評価調 書項目	
NO	大項目	中項目	共通小項目	自己評価内容	目標値・指標	評価結果	
			A. 常設展示・企画展示等の解説回数・人数	定期的な解説や要望に応じるシステムになっているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 展示解説の充実の「実施」	解説の要望に応じるシステムになっているか。 Yes 嘱託職員による大人向け解説サービス「おすすめツアー」(予約制)の実施 11回267人(6ヶ月) 嘱託職員による小学校団体向け「中央博調査隊」(予約制)の実施 8回364人(3ヶ月) 嘱託職員による小学生・幼時向け体験イベント「おきっこ」の実施 682人(4ヶ月) また、研究員による解説を、ミュージアム・トークとして展示解説を行っている。	d 展示解説 e 学習支援 事業
		講座・講演会活動					
			A. 講座・講演会の回数・人数	要望に応じるシステムになっているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 講座・観察会の戦略的な年次計画立案及び実施の「見直し・実施」 章 博物館を利用した校外学習の支援の「方針策定」 章 盲・聾・養護学校への博物館学習の実施の「計画・実施」 章 高校の授業等への支援の「計画・実施」 章 ニーズ調査のための教員懇談会の開催の「方針策定・実施」 章 22講師派遣依頼に対するガイドライン策定とそれに基づく対応の「計画・実施」	講演会等の要望に応じるシステムがあるか。 Yes 当館主催の講座・観察会 (本館) 講座55件 18,595人、観察会100件1,827人、イベント18件2,031人、中央博調査隊8件346人、森の調査隊147日4,412人 (大利根分館) 体験教室 3件6回194人、(大多喜城分館) 講座2件6回134人。 依頼による講座・観察会への講師派遣: ・野外観察会や野外調査の指導者としての支援(本館)89件、3,347人 ・講演会等の講師としての支援(本館)3件、167人 ・講座等の指導者としての支援: (本館)70件、2,058人 (大多喜城分館)6件、83人 (大利根分館)5件、229人	h. 講師派遣
		学校連携事業					
			A. 学校団体の受け入れ	学校等の団体の受け入れ態勢が整っており、学習支援の場を提供しているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 本館展示室団体向けワークシートの開発及び実施の「方針策定・実施」 章 生態園学校向けワークシート「森の調査隊」の開発及び実施の「実施」 章 博物館を利用した校外学習の支援の「方針策定」	要望に応じるシステムになっているか。 Yes 児童・生徒・学生団体: 大学生団体9(うち大学団体9)、 高校生団体4(うち高校団体4)、 中学生団体8(うち中学校団体8)、 小学生団体67(うち小学校団体67)、 児童・生徒・学生団体入館者数: 本館 高・大学生 13団体 764人 小・中学生 75団体 7041人 大利根 小学校 18団体 2679人 中学校 2団体 295人 大学 1団体30人 大多喜城 小学校 12団体 412人 中学校 3団体 81人 高校 3団体 154人 大学 3団体 75人 講座等の指導者としての支援 本館 総件数: 38件(うち小学校15件、中学校3件高等学校11件、特別支援学校8件、 大学・研究所8件) 大利根分館 総件数: 7件(うち小学校7件) 大多喜城分館 総件数: 6件(うち小学校1件) 野外観察会や野外調査の指導者としての支援 本館 総件数: 89件(うち小学校12件、中学校1件、高等学校4件、 大学・研究所2件) 講演会等の講師としての支援 本館 総件数: 3件(うち大学・研究所0件) 事業の評価、助言あるいは資料の同定などでの支援 本館 総件数: 95件(うち小学校1件中学校0件、高等学校14件、 大学・研究所19) 学習プログラムまたは学習キットの提供による支援 本館 総件数: 225件(うち小学校97件、中学校97件、高等学校6件、特別支援学校3件)	d 学校団体 利用/ e. 学 習支援連携事 業/ f. 学 習 支援プログラ ム
			B. 出前授業	出前授業を受け入れる体制が整っており、支援を行っているか	中期目標のうち「19年度の計画」 章 22講師派遣依頼に対するガイドライン策定とそれに基づく対応の「計画・実施」	出前授業の受け入れ態勢があるか。 Yes ・講座等の指導者としての支援のうち館外で実施した件数 本館: 25件(うち小学校1件、特別支援学校3件) 大利根分館: 8件(うち小学校6件、図書館2件) ・野外観察会や野外調査の指導者としての支援 本館 総件数: 59件(うち小学校4件、中学校1件、高等学校3件特別支援学校1件)	e 学習支援 事業
13 地域づくりへの支援							
		シンクタンク	A. 外部委員会参加	各種の外部委員として参画し、シンクタンクの機能を果たしているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	地域のシンクタンクの役割をはたしているか。 yes 件数: ・市民団体・NPOへの役員・委員としての協力 0件 ・市民団体・NPO主催行事への講師としての協力 34件 ・市民団体・NPO主催行事への学習キット貸出 6件 ・研究会同好会主催行事への講師としての協力 29件 ・研究会同好会への役員・委員としての協力 6件	h 講師派遣 / b. 市民や NPO等との連 携事業
		地域おこし活動					
			A. 地域おこし活動の有無	地域おこしの核となっているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	地域興しに参加しているか。 Yes 本館においては、千葉市教育委員会のほか、千葉寺商店街や矢作南町内会など中央区内町会との交流、大利根分館においては香取市との交流、大多喜城分館においては大多喜町や茂原市との交流を行っている。19年度から取り組みを強化	e 学習支援 事業
		地域との連携事業					
			A. 市町村立及び私立博物館との連携			連携事業を行っているか Yes 本館での件数: ・他の博物館との連携 6件210人(うち千葉県立博物館6件) ・県内市町村との連携 10件343人	



中央博物館		自己評価結果					中央博評価調 書項目
NO	大項目	中項目	共通小項目	自己評価内容	目標値・指標	評価結果	
			B. その他の社会教育機関との連携	連携事業を行っているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	・市民団体・NPO(中央博友の会含む)との連携 46件 1,028人 ・同好会・研究会との連携 29件 421人 博物館及び県内市町村との連携事業件数が減少しているため、原因を検討する必要がある。 大利根・大多喜分館での件数: ・他の博物館(図書館を含む)との連携 2件 102人	e 学習支援事業
			C. 地域住民との連携				
		観光資源としての活用					
			A. 県外団体来館数	県外の利用はどのくらいあるのか		県外団体の利用: 18件 地域の内訳: 東京都7件、茨城県1件、埼玉県7件、神奈川2件、北海道1件 県外自治体への講師派遣: 2件 県外自治体への委員派遣: 6件 昨年度と同様の傾向で推移	d 学校等、団体利用
			B. 団体誘致の実施	団体誘致の交渉を積極的に行っているか	「中期目標」では目標および計画を設定していない	団体誘致の交渉を積極的に行っているか Yes 団体の下見対応時に、「森の調査隊」等、学習プログラムの提供その他、先方の来館目的に応じたサービス提供を心がけている。	
			C. 外国人入場者数	外国人の利用はどのくらいあるのか		本館での外国人の利用者数 95人(ただし一見して日本人と区別できる場合に限る) 大利根分館での外国人の利用者数 29人 大多喜城分館での外国人の利用者数 387人 英文表記の利用案内パンフレットを用意しているが、要望があれば、本館では職員が英語によって案内あるいは展示解説を行っている。	o 地域社会への貢献

<b>県立博物館の使命</b>	県立博物館は、千葉県の自然・文化を守り、伝え、新たな知見を創造し、情報を発信します。この活動をとおりて人材を育成し、県民の学習および地域づくりを支援します。	
<b>中央分館海の使命</b>	中央博物館分館海の博物館は、中央博物館の野外における機能を補完する施設として海の自然誌に関する調査研究と資料の収集保管を行い、それらに基づく展示ならびに教育普及活動を実施し、人々に海の自然と直接ふれあえる機会と場を提供する施設となることを目指します。	
<b>重点事業評価項目</b>	7 展示	企画展示(事例として、安房博物館との合同巡回企画「くろしおと漁撈文化」)
<b>重点事業評価項目概要</b>	使命に則した展示事業が実施されているか。	

評点		館記入欄		委員記入欄	
評価項目	評価視点の例	目標・指標	実績・内容	段階評価	所見・指摘事項(自由記載)
企画	・海の自然に関する資料収集、調査研究を行い、それらの成果を反映した展示が行われているか		調査研究の成果や収集資料を活用した展示	3	立地環境として適切な企画である。内容に加え、展示会の標題も集客対策上重要である。人の関心を引きつける題名が常に検討されたい。
	・自然分野、人文分野の専門性を活かした総合的な企画展示が実施されているか		人文系館の安房博物館との合同企画を実施		
内容	・展示手法等で新たな工夫がみられるか		ハンズオン展示を積極的に導入	3.5	限られた予算の中で展示の工夫を試みているのがみとれる。一般の入館者には、生きているものは魅力さらなる工夫、例えば生きているものの魅力は大きく、動きのあるものの展示等の拡充も一考であろう。
	・入場者に対して展示内容への理解を促進するための適切な配付資料が用意されているか		リーフレット、解説シートを整備		
	・展示解説等は適宜実施されているか		前年度同時期に開催した企画展示(開館日数61日)では、団体8件、個人(展示室の歩き方)37名		
	・入場者の満足度はどうか	満足度80%	アンケートによる満足度調査を実施		
集客	・広報は効果的に行われているか		関係機関、近隣施設へリーフレットを事前配布、開催期間中近隣歩道橋に横断幕を設置	2.5	企画展の開催を来館して初めて知った人が全体の7割である。当面、海中公園に来た人をいかに取り込むかに広報を工夫する要あり。
	・入場者数はどうか	前年度比102%	前年度同時期に開催した企画展示では、29,331人		
発展性	・県民意識を喚起する機会となる展示内容となっているか		未来への展望を期待し、千葉県と深い関わりのある黒潮と漁撈について、過去、現在を紹介する展示	3	
	・県民のニーズに応える努力をしているか		アンケート(博物館への手紙)や寄せられた意見に随時対応		

<b>県立博物館の使命</b>	県立博物館は、千葉県の自然・文化を守り、伝え、新たな知見を創造し、情報を発信します。この活動をとおりて人材を育成し、県民の学習および地域づくりを支援します。
<b>中央博物館分館海の使命</b>	中央博物館分館海の博物館は、中央博物館の野外における機能を補完する施設として海の自然誌に関する調査研究と資料の収集保管を行い、それらに基づく展示ならびに教育普及活動を実施し、人々に海の自然と直接ふれあえる機会と場を提供する施設となることを目指します。

<b>重点事業評価項目</b>	8 普及	参加体験事業(事例として、フィールドトリップ)
<b>重点事業評価項目概要</b>	使命に則した参加体験事業が実施されているか。	

評点		館記入欄		委員記入欄	
評価項目	評価視点の例	目標・指標	実績・内容 (H19年4~6月)	段階評価	所見・指摘事項(自由記載)
企画	・分館の役割である海の自然に直接ふれあえる場として適切な企画であるか		野外を中心とした参加体験事業の実施	4	自然と触れあえるという恵まれた環境を活かし、健全に楽しめる適切な企画であろう。
	・館の規模に相応しい数の企画が実施されているか	一般向け10件 団体向け20件	一般向け3件(54名) 団体向け18件(1,501名)		
内容	・参加者の年齢に配慮した内容であるか		幼児から高齢者まで対応	4	立地上、保護者、監督者からも好感のもてる事業で、継続推進で可。
	・参加者が満足する内容になっているか	満足度80%	満足度100% (回答数6件)		
集客	・広報は効果的に行われているか		リーフレット、ホームページ、記者発表等	3.5	前年度に比べ、参加者大幅増の結果を出していることは評価できるが、目標をさらに高くもって、広報等一層の工夫を期待する。
	・団体利用者を増やす対策を講じているか		地元学校への訪問・宣伝		
発展性	・事後に参加者を支援する体制があるか		質問対応等	3	
	・フィールドミュージアムに相応しい事業の改善を行っているか		アンケート結果や聞き取り等に基づく企画の見直し		

## 館林市立資料館

当館は、館林市立の直営館（所管は市教育委員会文化振興課）である。「評価表（自己評価）」は、事業の担当者が自己の評価として行い、「評価表（三者評価）」は、三者評価としているが館内の担当者以外の意であり、館としての評価である。何れも事業を改善していくための内部資料としており、外部への公表等を行っていない。評価は、展示テーマごとに行われ、「適切であった・どちらともいえない・不適切であった」などの3段階評価が大半を占めている。

## 事業評価表の使い方

### 1 評価表の目的

#### 1) 評価表作成の目的

本評価表は、係の実施する事業(展示や講座などの普及活動等)について、その事業の内容の良し悪しを判断するものではなく、事業の目的や実施方法、実施過程、効果などについて見直しを行おうとするもので、実態を客観的に評価することで、次の事業展開に向けての反省、指針、心構えなどを得ようとするものである。

### 2 評価表の種類

#### 1) 自己評価表

= 事業担当者が実施した事業の自己評価を行うもの。

#### 2) 第三者評価表

= 担当者以外の課の職員が、第三者の立場で実施事業の評価を行うもの。

### 3 評価表の使い方

#### 1) 自己評価表

##### ア) 評価者

・ 事業の企画・実施・運営担当者本人。

##### イ) 評価する時期

・ 事業(展示会)オープン後、終了時の一週間以内。

##### ウ) 評価の方法

- ・ 別紙自己評価表による。
- ・ 評価表の頭に担当者(評価者)名を記入すること。
- ・ 不明な項目は空欄でも可。
- ・ 該当事項が無い場合の空欄や、付加事項がある場合の、付け加えも可。
- ・ 気づいた点や、注意事項などについては書き込み可。
- ・ 最終的に該当部分を集計するとともに、加点があれば加えて、合計点数をだすこと。
- ・ 加点の範囲は+ - 10点までとし、その要素を記入すること。
- ・ 総合評価を記入すること。

#### 2) 第三者評価表

##### ア) 評価者

・ 課内の担当者・管理者・監督者以外の職員1名にお願いすること。

・ お願いされた職員は、客観的に評価すること。

##### イ) 評価する時期

・ 事業(展示会)オープン後、終了時の一週間以内。

##### ウ) 評価の方法

- ・ 別紙第三者評価表による。
- ・ 評価表の頭に評価者名を記入すること。
- ・ 不明な項目は空欄でも可。
- ・ 該当事項が無い場合の空欄や、付加事項がある場合の、付け加えも可。
- ・ 気づいた点や、注意事項などについては書き込み可。
- ・ 最終的に該当部分を集計するとともに、加点があれば加えて、合計点数をだすこと。
- ・ 加点の範囲は+ - 10点までとし、その要素を記入すること。
- ・ 総合評価を記入すること。

##### エ) 提出について

・ 記入後、担当者へ提出すること。

### 4 評価表の報告について

1) 自己評価表及び第三者評価表は、事業の結果報告に添付し報告を行う。

2) 結果報告の事業効果・反省の部分は、自己評価表、第三者評価を基にして記入すること。

3) 結果報告は、終了後二週間をめどに行い、第三者評価者にも合議すること。

# 評価表(自己評価)

企画事業名

担当者名

## 1 展示等、事業の内容について

### ア) 展示等のテーマについて

a 時宜を得たものであったか？

1 時宜を得たものだった

2 どちらともいえない

3 まったく関係なかった

b 興味を引くものであったか？

1 大変興味深いもの

2 どちらともいえない

3 興味を引きそうではない

c 設定の理由は？

(

)

### イ) タイトルについて

a 適切であったか？

1 適切であった

2 どちらともいえない

3 不適切であった

b 興味をひくものであったか？

1 興味を引いた

2 どちらともいえない

3 興味がわきそうもなかった

c サブタイトルとの関係は？

1 適切であった

2 どちらともいえない

3 不適切であった

### ウ) 展示等の構成について

a 展示等事業の意図と目的は？

(

)

b 構成は適切であったか？

1 適切であった

2 どちらともいえない

3 不適切であった

c 展示等事業の意図が理解できるものであったか？

1 理解できた

2 どちらともいえない

3 理解できそうもなかった

e セクションの設定は適切であったか？

1 適切であった

2 どちらともいえない

3 不適切であった

### エ) 展示等の資料について

a 展示等の資料について

1 展示資料点数は適切だったか？

1 適切であった

2 どちらともいえない

3 不適切であった

2 展示資料は適切だったか？

1 適切であった

2 どちらともいえない

3 不適切であった

b 資料等の調査について

1 資料調査は充分だったか？

1 充分であった                      2 どちらともいえない                      3 時間が足りなかった

2 資料の意味をひきだせたか？

1 充分ひきだせた                      2 どちらともいえない                      3 とらえきれなかった

C 資料等の借用・返却について

1 資料借用先などは適切だったか？

1 適切であった                      2 どちらともいえない                      3 不適切であった

2 借用・返却手順に落ち度はなかったか？

1 十分にできた                      2 どちらともいえない                      3 落ち度があった

オ) 解説文、パネル、キャプション、ネーム等

a 文章は分かり易かったか？

1 良く分かる内容                      2 どちらともいえない                      3 分かりづらかったと思う

b 内容は適切であったか？

1 適切であった                      2 どちらともいえない                      3 不適切であった

c 抜け落ちはなかったか？

1 抜け落ちはなかった                      2 分からない                      3 抜け落ちがあった

d 間違いはなかったか？(誤字・脱字)

1 間違いはなかった                      2 分からない                      3 間違いがあった

カ) 会場の様子について

a 展示にあった雰囲気作りをしたか？

1 充分できた                      2 どちらともいえない                      3 配慮しなかった

b 導線は適切だったか？

1 適切だった                      2 どちらともいえない                      3 考えなかった

c 照明は適切であったか？

1 適切だった                      2 どちらともいえない                      3 考えなかった

## 2 展示等事業の準備について

ア) 期間について

a 準備はスケジュールどおりできたか？

1 早くできた                      2 はぼ予定どおり                      3 遅れた

b 段取りは予定どおりにできたか？

1 はぼ予定どおり                      2 どちらともいえない                      3 遅れた

c 物品にたりないものは無かったか？

1 充分であった                      2 どちらともいえない                      3 たりないものがあった

d 発注品は予定通りだったか？

1 はぼ予定どおり                      2 どちらともいえない                      3 間に合わないものがあった

### 3 展示等事業の期間中の対応などについて

#### ア) 見学対応について

- a 解説や案内はちゃんとできたか？
- |         |             |            |
|---------|-------------|------------|
| 1 対応できた | 2 どちらともいえない | 3 充分ではなかった |
|---------|-------------|------------|
- b 団体見学の申込みはどうだったか？
- |        |            |         |
|--------|------------|---------|
| 1 多かった | 2 普段と変わらない | 3 少なかった |
|--------|------------|---------|

#### イ) 関連行事について

- a 関連する行事を行なったか？
- |       |          |
|-------|----------|
| 1 設けた | 3 設けなかった |
|-------|----------|
- b 解説会を設けたか？
- |       |          |
|-------|----------|
| 1 設けた | 3 設けなかった |
|-------|----------|

### 4 広報・周知活動について

#### ア) 広報活動について

- a 広報誌、記者資料の提供を行なったか？
- |        |           |
|--------|-----------|
| 1 提供した | 3 提供しなかった |
|--------|-----------|
- b 何回提供したか？
- |        |        |      |
|--------|--------|------|
| 1 5回以上 | 2 2～4回 | 3 1回 |
|--------|--------|------|

#### イ) 案内状などの送付について

- a 関係者・関係機関に案内状をだしたか？
- |        |           |
|--------|-----------|
| 1 送付した | 3 送付しなかった |
|--------|-----------|
- b 何箇所出したか？
- ( )
- c どんどころに送ったか？
- ( )

#### ウ) 取材対応について

- a 取材依頼の回数は？
- |        |        |      |
|--------|--------|------|
| 1 5回以上 | 2 1～4回 | 3 無し |
|--------|--------|------|
- b 取材に応じた回数は？
- |        |        |      |
|--------|--------|------|
| 1 5回以上 | 2 1～4回 | 3 無し |
|--------|--------|------|
- c 取材への対応はちゃんとできたか？
- |          |             |               |
|----------|-------------|---------------|
| 1 充分対応した | 2 どちらともいえない | 3 あまり対応できなかった |
|----------|-------------|---------------|



**エ) 取り上げられた回数**

- a マスメディアに取り上げられた回数は？  
 1 10回以上                      2 1～9回                      3 無し
- b マスメディア以外からの問い合わせ回数は？  
 1 10回以上                      2 1～9回                      3 無し

**5 見学者、参加者の反応について**

**ア) 想定入館者、参加者数について**

- a 想定人数は何人であったか？  
 ( )
- b 想定した対象は何層であったか？  
 ( )

**イ) 実際入館者・参加者数について**

- a 実際入館者・参加者は何人であったか？  
 ( )
- b 実際入館者・参加者はどんな層であったか？  
 ( )
- c 想定したものと違いは？  
 1 予想より多かった              2 予想どおり              3 予想より少なかった

**ウ) 見学者・参加者の反応について**

- a 見学者・参加者はどう捉えていたと思うか？  
 1 おもしろかった              2 普通                      3 つまらない
- b 内容が理解できたとおもうか？  
 1 理解できた                      2 普通                      3 難しくて分からなかった

**集計**

1の数	個	x	1点	=		点	
2の数	個	x	0点	=		点	
3の数	個	x	-1点	=		点	
加点数					=		点
合 計				=		点	

加根拠

総合評価

# 評 価 表(三者者評価)

企画事業名

評価者名

## 1 展示等、事業の内容について

### ア) 展示等のテーマについて

a 時宜を得たものであったか？

1 時宜を得たものだった      2 どちらともいえない      3 まったく関係なかった

b 興味を引くものであったか？

1 大変興味深いもの      2 どちらともいえない      3 興味を引きそうではない

c 設定の理由がわかるか？

1 分かる      2 どちらともいえない      3 分からない

### イ) タイトルについて

a 適切であったか？

1 適切であった      2 どちらともいえない      3 不適切であった

b 興味をひくものであったか？

1 興味を引いた      2 どちらともいえない      3 興味がわかかなかった

c サブタイトルとの関係は？

1 適切であった      2 どちらともいえない      3 不適切であった

### ウ) 展示等の構成について

b 構成は適切であったか？

1 適切であった      2 どちらともいえない      3 不適切であった

c 展示意図が理解できるものであったか？

1 理解できた      2 どちらともいえない      3 理解できなかった

e セクションの設定は適切であったか？

1 適切であった      2 どちらともいえない      3 不適切であった

### エ) 展示等の資料について

a 展示等の資料について

1 展示資料点数は適切だったか？

1 適切であった      2 どちらともいえない      3 不適切であった

2 展示資料は適切だったか？

1 適切であった      2 どちらともいえない      3 不適切であった

b 資料等の調査について

1 資料調査は充分だったと思うか？

1 充分であった      2 どちらともいえない      3 不十分と想像できる

2 資料の意味をひきだしていたか？

1 充分ひきだせていた      2 どちらともいえない      3 とらえきれてなかった

オ) 解説文、パネル、キャプション、ネーム等

- a 文章は分かり易かったか？  
1 良く分かる内容                      2 どちらともいえない                      3 分かりづらかった
- b 内容は適切であったか？  
1 適切であった                      2 どちらともいえない                      3 不適切であった
- c 抜け落ちはなかったか？  
1 抜け落ちはなかった                      2 分からない                      3 抜け落ちがあった
- d 間違いはなかったか？(誤字・脱字)  
1 間違いはなかった                      2 分からない                      3 間違いがあった

カ) 会場の様子について

- a 展示にあった雰囲気作りをしたか？  
1 充分できた                      2 どちらともいえない                      3 配慮してない
- b 導線は適切だったか？  
1 適切だった                      2 どちらともいえない                      3 考えなてない
- c 照明は適切であったか？  
1 適切だった                      2 どちらともいえない                      3 考えなてない

2 展示等事業の準備について

ア) 期間について

- a 準備はスケジュールどおりできたと思うか？  
1 見直す余裕があった                      2 ほぼ予定どおり                      3 遅れた
- b 段取りは予定どおりにできたと思うか？  
1 ほぼ予定どおり                      2 どちらともいえない                      3 遅れた
- c 物品にたりないものは無かったか？  
1 充分であった                      2 どちらともいえない                      3 たりないものがあった
- d 発注品は予定通りだったか？  
1 ほぼ予定どおり                      2 どちらともいえない                      3 間に合わないものがあった

### 3 展示等事業の実施期間中の対応などについて

#### ア) 見学対応について

a 解説や案内はちゃんとできたか？

1 対応できた                      2 どちらともいえない                      3 充分ではなかった

b 団体見学の申込みはどうだったか？

1 多かった                      2 普段と変わらない                      3 少なかった

#### イ) 関連行事について

a 関連する行事を行なったか？

1 設けた                      3 設けなかった

b 解説会を設けたか？

1 設けた                      3 設けなかった

### 4 広報・周知活動について

#### ア) 広報活動について

a 広報誌、記者資料の提供を行なったか？

1 提供した                      3 提供しなかった

#### イ) 案内状などの送付について

a 関係者・関係機関に案内状をだしたか？

1 送付した                      3 送付しなかった

#### ウ) 取材対応について

c 取材への対応はちゃんとできていたか？

1 充分対応した                      2 どちらともいえない                      3 あまり対応できなかった

#### エ) 取り上げられた回数

## 5 見学者・参加者の反応について

### ア) 想定入館者・参加者数について

a 想定入数の設定は

- 1 適切である                      2 多すぎた                      3 少なすぎた

b 対象は適切だったか？

- 1 適切である                      3 適切でない

### イ) 実際入館者・参加者数について

a 想定入館者と実際入館者数の差は

- 1 予想より多かった              2 予想通り                      3 予想より少ない

### ウ) 見学者・参加者の反応について

a 見学者、参加者はどう捉えていたと思うか？

- 1 おもしろかった                  2 普通                              3 つまらない

b 内容が理解できたとおもうか？

- 1 理解できた                      2 普通                              3 難しくて分からなかった

### 集計

1の数	個	×	1点	=		点
2の数	個	×	0点	=		点
3の数	個	×	-1点	=		点
加点数				=		点
合 計				=		点

加根拠

総合評価

## 多摩六都科学館

当館は、東京都の西東京市など5市でつくる組合立で、直営館である。自己評価は、「多摩六都科学館 事業シート」により、事業部門の責任者が、事業ごとに「企画・立案」に始まり、その事業の終了後に「実施・評価」を行う。実施・評価では、実施の概要を記載するとともに、「達成度・対象満足度・継続意義」の3項目について、1（高い）、2（やや高い）、3（やや低い）、4（低い）で評価している。第三者評価は、外部の学識経験者5名によって行われる。文章による概括的評価がされ、「使命と計画」など9つの中項目に加え、大項目の「専門機能の充実」については「展示・学習室・プラネタリウム・受付」の4項目と事務局関係について、1（きわめて高い）、2（高い）、3（普通）、4（低い）で評価している。

平成 18 年度  
多摩六都科学館事業評価報告書  
( 総括報告 )

平成 19 年 9 月

多摩六都科学館組合事業評価委員会

## 多摩六都科学館組合事業評価委員会

第2期（平成18年度～平成20年度）

---

縣 秀彦	自然科学研究機構国立天文台天文情報センター准教授
板谷 敏弘	江戸東京博物館広報営業担当課長
伊東 敏雄	元電気通信大学教授
柴田 徳思	日本原子力研究開発機構特別研究員
矢吹 富美子	日本獣医生命科学大学実習嘱託（多摩六都科学館ボランティア）

---

委員長 副委員長



## 1. 概要

多摩六都科学館組合事業評価委員会（以下「委員会」という）は、平成 16 年 3 月 3 日に公布された多摩六都科学館組合事業評価委員会条例に基づいて設置された。科学館組合管理者の諮問に応じて、主要な事業成果の検証及びその他管理者が必要と認める事項について調査、検討、答申することとし、学識経験者 5 人の委員で構成している。平成 18 年度より第 2 期の委員となり、1 人が 1 期より継続し、新たに 4 人の委員が委嘱された。

委員会では、上半期（平成 18 年 4 月から 9 月まで）の事業を総括した中間報告を基に、年度後半の事業の成果を検証して本報告にまとめた。

## 2. 事業に関する評価

多摩六都科学館基本計画（平成 15 年度策定）に基づき、事業シートを活用した独自の方法によって運営のプログラム全体を見直し、その実現に着手した。平成 18 年度に重点的に取り組んだものは、以下のとおりである。

### (1) 組織の改編と運営体制の強化

事務局のスリム化とグループ制（2 課から 1 課への統合と係のグループ化）  
教育普及体制の強化（中期計画の実施）と現場の機動性強化  
ボランティア活動の拡張と自立的な運営体制への発展

### (2) プログラムの選択と集中

多様なコンテンツの効率化  
プログラムの部門間の統合と戦略的展開  
企画展示の強化（プロジェクトチーム）

### (3) オープンな運営

評価制度による自己点検、目標管理の実施（事業シートの活用）  
情報の共有化と公表の推進  
最新の情報をきめ細かく手元に届ける P R（科学館ニュース、チラシ）  
理科教育研究懇談会の推進

重点に挙げられた項目について本委員会の見解を示す。【 】内は関連する評価表の中項目を示す。

### (1) 組織の改編と運営体制の強化

事務局のスリム化とグループ制が実行され効率化は図られているが、委託業者のセクションリーダーと事務局の間で情報交換を密に行うシステムが必要である。部門やセクションの相互間の連絡、委託業者との連絡を密にして、基本計画改訂を一層円滑に推進したい。

また、教育普及体制の長期契約により中長期的な運営が可能となり、プログラムや教育普及活動の意欲的、創造的な取り組みが図れるようになった。現場の意見を重視し、各部

門の自主的な取り組みを尊重するフラット化についても実行され、現場での意識の高まりが見られるが、どこまでが委託契約内容かについての理解が両者の間で食い違う場面もみられた。【組織・人員】

ボランティア活動の拡張と自立的運営体制への発展について、大人及びジュニアのボランティアが館の多くの活動に活躍している。ボランティアの自主的な運営体制、スタッフとの共同活動が進展しているが、さらに連携を密にして各セクションの企画の段階からの参加・協力、自立的な運営体制への発展、地域ボランティアの育成などが今後の課題である。【市民参加】

## (2) プログラムの選択と集中

全般的に多彩なコンテンツを展開しているが、ひとつひとつに心が通っており、来館者の増加に繋がっている。今後とも安定して継続する態勢作りが望まれる。特にプラネタリウムにおいてコンテンツの多様化を図りながら、効率化が進められている。プログラムの部門間の統合と戦略的展開について、セクションリーダーと事務局間の情報交換を一層密にする仕組みを整えて戦略的展開を図ることが重要である。【教育普及活動】

企画展示の強化について、春と夏の特別企画では、企画のテーマに関し来館者や市民の希望を考慮したものとなっている。更に、プラネタリウム、展示、学習室ともニーズに合った企画がなされ、来館者の増強につながっている。その結果、平成18年度の来館者数は15万5,599人と目標を1万人以上、上回ることができた。【企画展とイベント】

## (3) オープンな経営

評価制度による自己点検、管理目標の実施について、事業シートの活用がなされ現場の士気が上がっている。事業シートによる自己点検が有効に機能しているものとする。【財務社会的支援】

情報の共有化と公表の推進について成果が見えてきており、効率の悪い方法を廃止し、効果的な情報提供がなされている。今後も一層の推進を図りたい。

最新の情報をきめ細かく手元に届けるPRについて、科学館ニュース、チラシの配布など効果的な方法が取られている。館の企画をマスメディアにアピールするなど、構成市内外への広報活動の推進が圏域内の繰り返し利用者の定着と、圏域外からの初度来館者の増加にもつながっている。キャンペーンやチラシの効果は観覧者数の増加に現れているが、事業と連動した更なる広報の展開が望まれる。また、理科教育研究懇談会の推進について、学校の教育現状をふまえた教職関係者からの科学館教育のあり方について議論する場を設置したことで、適切な理科教育のプログラムが組まれているかを客観的に評価できるようになった。なお、懇談会が評価する場合には データや資料からでなく、館で行われている教育現場を実際に見学して行うことが望ましい。【情報の発信と公開】

## 3. 中項目評価

計画事業を基本計画の項目(中項目)別に評価したのが次の表である。今回は中項目のうち、人員・組織、教育普及活動、企画展とイベントに重点を置いて評価を行った。人員・

組織に関しては、外注管理体制の改善と組織の改編とを同時に進めており、改革への高い意欲が見られる。しかし変革の過程で現れている内部のコミュニケーション不足の改善や、専門性を高めるため、学芸員の導入の是非などの課題があり、改善の期待を込めて評価は2(高い)とした。教育普及活動については、当科学館事業の基本となるもので、目標の達成度および自己点検活動結果から、科学学習と集客の両立を意識したマネジメント志向が強く感じられたため、高い評価(1=きわめて高い)を与えた。企画展とイベントについては、企画展の成功や、ボランティア活動の拡充について高く評価するが、更に成果が期待されるので、評価は2に留めた。

平成18年度 中項目評価表

指標 1:きわめて高い 2:高い 3:普通 4:低い

大項目	中項目	指標	委員会コメント
A 社会への貢献 (使命と組織)	1 使命と計画	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念は明確になっている。今後個々の職員が使命・目的の自覚を深めていく必要がある。</li> <li>・館のテーマについては中長期的な視点に立って、広範な意見の集約を図るべきである。</li> </ul>
	2 組織・人員	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館長設置の対外効果は既に顕著に現れている。</li> <li>・研修を積極的に進めることで、職員の能力を高めるべきであるが、多忙で研修、調査、準備等に影響ないか懸念される。</li> <li>・中期3か年の目標設定により、スタッフが計画的にプログラムの運営を進めることができ、モチベーションが高まった。</li> <li>・事務局のスリム化とグループ制が実行され効率化は図られている。</li> <li>・事務局との職務分担や 権限委譲(フラット化)は実行されているが、事業セクションごと及び事務局、ボランティア間で情報交換を密に行うシステムの構築が急務である。</li> <li>・現行の運営体制は、長期的にみて、運営あるいは調査研究に係ることについて、館にそのノウハウや知的財産(人材を含む)が蓄積されるのか、という疑問がある。外注委託のみに頼るのではなく専門知識を持つ学芸員の雇用が望まれる。</li> </ul>
	3 財務社会的支援 (経営と評価)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標数値の設定と達成への努力が、事業、広報において著しい。</li> <li>・館全体が積極的かつオープンな姿勢で、自主的な点検活動と評価委員会への協力をおこない、適正な評価方法を築くことに取り組んでいる。今後は、より客観的な評価方法を定着させることが課題である。</li> <li>・科学館への寄付に対する顕彰制度など積極的に科学館の支援を得る方策の検討が必要である。</li> </ul>

<p style="text-align: center;">B 利用者中心 (利用者重視)</p>	<p><b>1 情報の発信と公開 (情報発信と連携)</b></p>	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経費を削減し、低予算の中でメリハリのある広報活動を進めている。更に内容の選別と絞り込みを進めてほしい。</li> <li>・近隣の大学をはじめとする連携の試みを評価し、今後の展開に期待したい。</li> <li>・五市で運営している科学館であり、その構成市の市議員に、科学館の評価を含めた活動に関する情報提供のあり方について検討する必要がある。</li> </ul>
	<p><b>2 施設の整備・管理 (施設の充実と管理)</b></p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休館日変更や開館時間延長、料金の見直しなどは、経営効率の観点と共に、市民・利用者中心の観点から、試行や調査の結果を検討する必要がある。</li> <li>・保育室・売店・レストランなどのアメニティー施設や、研究収蔵庫・天体観望施設の整備はリピーターや利用層の拡大に大変有効であり、充実が望まれる。</li> </ul>
	<p><b>3 市民参画</b></p>	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・21世紀の市民参加型の社会に対応するために、市民やボランティアが運営に参画できる環境をつくる努力は重要である。そのために学生やボランティアを積極的に受け入れている点を評価する。</li> <li>・外部支援組織としてボランティアや友の会、NPOなどと体系化した戦略プランをもってすすめる必要がある。</li> <li>・ボランティアが自主的に展示や理科教育の事業に携わり、スタッフと協力して科学館事業を運営している。受動でなく能動的な活動を市民が科学館において展開している点を高く評価する。</li> <li>・一層の成果を上げるために、ボランティアとのコミュニケーションを、従来以上に図ることが望まれる。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">C 専門機能の充実 (内容の充実)</p>	<p><b>1 教育普及活動 (通常活動)</b></p>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各活動とも来館者が求めているもの、そして館として提供したいものを常に意識して創意工夫を重ねている。特に、プラネタリウムをはじめコンテンツの多様化を図りながら、効率化にも取り組んでいる。</li> <li>・プログラムの部門間の統合と戦略的展開について、セクションリーダーと事務局間の情報交換を一層密にする仕組みを整え、プログラムの重複を避けるなど、館全体としてバランスのとれた展開を図ることが必要である。</li> <li>・地域が館に求めている科学教育のありかたを検討し、館内で行われる理科教育に対しては質の向上に努め、また館外で行われる出張教室へ積極的に取り組むなど新しい教育方法を開拓し、地域のニーズに応えていく努力をしている。</li> <li>・科学館のミッションに照らし、エンターテインメント性と科学的専門性の両立（重点配分）についてさらに検討が必要である。</li> </ul>

	<b>2 企画展とイベント</b>	<b>2</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の希望を取り入れたテーマで特色ある企画展が、相次いで入場者数増加に結びついており、利用者に支持されていることを示している。</li> <li>・企画展そのものも手作り感があり、宣伝や収益に振り回されるマスメディアの企画と一線を画しており、館の使命を良く果たしている。</li> <li>・人文的側面と科学的側面を兼ね備えたテーマの企画など、変化に富み多岐にわたったユニークなイベントが実行されている点を高く評価する。</li> <li>・良質な企画展を実現するためには、基礎的な調査・研究活動や、資料の収集が望ましいが、施設面と人的体制が不備であることが課題である。</li> </ul>
	<b>3 資料収集と調査研究</b>	<b>3</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで最も欠けていたのが資料の収集と研究活動である。適切な制度を作り、市民コレクションの活用などをさらに発展すべきである。</li> <li>・エンジョイメントと科学を融合させるというミッションを実現させるためにも、連携だけでなく内部の専門性を高めるための研究活動は不可欠である。普遍的な科学のテーマを地域の研究テーマに結び付けて取り組むことが望まれる。そのような中で、光害への情報発信や、プランクトンの研究、地域の化石標本を軸にした調査研究などが始まったことは注目に値する。特に成果として出された化石ニューズレターの発行は非常に重要であり、他施設との差別化をアピールすることができる。</li> <li>・収集活動は、資料に対する義務と責任を全うできないような中途半端な状態ではむしろ実施しない方がよい。収蔵庫などの施設面の整備に加えて、学芸員などの専門性のあるスタッフを今後配置することが望まれる。</li> </ul>

別表 C 専門機能の充実 1(C 内容の充実 - 1:)教育普及活動(通常活動)に関する部門  
別評価

指標 1:きわめて高い 2:高い 3:普通 4:低い

部門	指標	委員会コメント
展示	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春夏の特別企画展示は成功といえる。管理や企画における問題を克服して、今後も入館者増を目指してほしい。</li> <li>・展示は科学館の命である。多岐にわたるテーマを扱うなかで、「サイエンスコミュニケーション」を中心課題において、展示レクチャー、サイエンスショー、ワークシートなど新しい展示スタイルを追求し、利用者の好評を得ていることを高く評価する。サイエンスショーにおいては目標を大きく上回る実績を上げた。</li> <li>・来館者とのふれあいやコミュニケーションをはかることを重視し、ボランティアと協力して、双方向の情報のやりとりを目指していることは望ましい。</li> <li>・体験を重視し、スタッフが積極的に来館者とコミュニケーションを図っている。施設の規模やハード面の充実度にかかわらず、「この展示室(施設)は、ちゃんと人の手が入っている、スタッフの気持ちが入っている」と思われることが重要である。</li> <li>・展示物について、大学、研究所、企業、ボランティアなどとの連携で、展示の改善を図り、最新の科学を紹介できるよう、一層の努力が望まれる。</li> <li>・ボランティアの力によって、新しい展示物「ガスタービン」が石川島播磨工業から寄贈され設置された。展示物の企業からの提供という新しいルートを切り開いた点を高く評価する。</li> <li>・各種研修協力は必要だが、協力できる範囲にとどめざるを得ないだろう。</li> <li>・利用者の立場に立てば、展示物の安全管理は重要である。展示更新と保守を計画化し、財務面でも見通しを確立させたい。</li> <li>・展示物が故障・破損したときの修理の対応が遅い。利用者のことを思えば、迅速に修理されるべきである。</li> <li>・部分的な改良はなされているが、それにとどまらずに大きな改良にもチャレンジしてほしい。このために、事務局、スタッフ、ボランティアによる意見交換の場を作る必要がある。</li> </ul>

学習室	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顕微鏡による観察の進め方は、見るだけ、顕微鏡の操作、プランクトンの採集と観察、というようにレベルを上げていくプログラムはよいと思う。</li> <li>・大学との連携で FM 送信機の製作、ロボットを制作など興味あるプログラムが進められている。更に民間企業の研究開発部門との連携、協力を模索すべきである。</li> <li>・大学との連携、館外への出前実験、指導者講習など、地域とのつながりを重要視している点が高く評価される。</li> <li>・顕微鏡による観察では、地域の専門家との連携で、よいプログラムが進められている。このような専門家を発掘することは重要である。</li> <li>・科学好きな子どもやジュニアボランティアの育成を進めるコース、及び学際的な科学の力を身につけられるようなコースのさらなる発展をめざし、運営体制の強化が望まれる。</li> <li>・身近な科学から高度な科学までバランスよくプログラムが組まれており、来館者の多様なニーズに対応しようと努力されている。リピーターの中には、学習室に通いながら自由研究を完成させた子どももあり、未来の科学者を育てる理想的な場として、これからも教室を進めてもらいたい。</li> <li>・人数不足で消化しきれていないプランについては、ボランティア理科学習チームと協力して調整をはかるなど、両者の協力体制が必要不可欠になる。両者の科学館における役割分担の明確化など両者間のコミュニケーションをより一層図ることが今後教室の運営の課題である。</li> <li>・各種教室の運営は質的にも量的にも高水準で実現されており、参加者の好評を得ていることは評価できる。一方、生物関係の活動のほかに、物理、化学、地学分野の新たなプログラムの開発など、今後取り組まなければならない課題も多く、引き続き安定した実施体制を確立することが望まれる。</li> <li>・学習室の参加者について、顧客管理をおこない、将来における進路等の追跡調査から、科学館の学習室の教育効果を調べることを望まれる。</li> </ul>
プラネタリウム	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集客力のある番組の制作やイメージの向上など厳しい要求の中で、利用者の年齢層や、利用目的に応じた映像プログラムが公平に考慮されており、特別投影番組を実施してメリハリのある運営をしていることを高く評価する。</li> <li>・漫然たるプログラムの上映に陥ることなく、多彩な取り組みで利用者のニーズ、館の役割を良く勘案して創意工夫を重ねている。</li> <li>・夏季番組キャンペーンとチラシの配布で観覧者増を達成したことなどから、広報 PR が即応すればさらに集客力が高まることが期待される。今までの方法以外の情報発信方法のルートを開拓する必要がある。</li> <li>・新システムの導入検討や、業務集中を緩和するための人員の増員が必要である。</li> <li>・近い将来に不可欠な機器の更新に備え、長期的な構想やメンテナンスの見通しを確実にするために外部の専門家も交えた検討会を至急、立ち上げる必要がある。</li> <li>・過度の業務集中と慢性的な業務過多により、健全な継続性が損なわれることを憂慮する。特に、費用対効果の低いものについて見直すなど、効率化を進めることが重要である。</li> </ul>

受付	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・券売のみならず、来館団体の昼食スケジュールの調整など多岐にわたる業務を手際よく処理し、ホスピタリティの高いサービスを提供している。</li> <li>・来館者への情報サービス、アフターケアに心を配り、科学館に対する利用者の満足度向上に努めて効果を上げている。</li> <li>・アンケートでも好評を得ており、クレームの減少など努力の効果が現れている。</li> <li>・各種割引チケットの扱いなどを整理する必要がある。</li> <li>・館全体のスケジュール調整機能が必要。</li> <li>・事務局と対応にずれが生ずることがあるので、事務局とのコミュニケーションの改善を図り、密接な情報交換と連携強化が望まれる。</li> <li>・特別な企画に際しては他部門とも連携を密にし、受付での対応と現場の実際の対応とのずれが起こらないようにする必要がある。</li> <li>・事務局を含めた館全体の組織・人員の検証も必要であり、バックアップ体制の検討を要する。</li> </ul>
----	---	--

### 付表 事務局関係

事務局関係	3	<p><b>【事務局全体】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局体制が変更されて、現場の各セクションとの情報交換が重要性を増した。これに対応する機能が十分でないと思われる。</li> <li>・事務局が主導する企画や広報、ボランティア事業なども事業シートを作成し、独自に検証を行う必要がある。</li> <li>・館の名称変更の議論や学芸員の雇用等、長期的な運営計画をさらに詳しく検討する必要がある。</li> </ul> <p><b>【開発・CSグループ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイエンス友の会に対する企画（見学会、コンテスト、発表会）を充実させるよう望む。</li> <li>・事業全体の広報を統一的に進める必要がある。</li> </ul>
-------	---	--



平成 年度 多摩六都科学館 事業シート

-

部門		記入者		分類	大項目 中項目 小項目
----	--	-----	--	----	-------------

業務名	新規 / 継続 (内容が分れば略称で可)				
-----	----------------------	--	--	--	--

企画・立案	対象		目的		指標	
	(2000字以内) 企画意図					
	(2000字以内) 内容					
予算	概算金額	(特色があればコメント)			資料	
課題						

実施・評価	実施日		場所	
	結果			
	達成状況			
	改善点・反省点			
	自己評価 (1~4)	達成度	対象満足度	継続意義

(1:高い 2:やや高い 3:やや低い 4:低い)